

信用組合の組織は徹底的に民主主義の原則に従ふて居る。組合の役員は組合員が選舉するのみでなく彼等の任期が比較的短いのであるから、組合の管理権は全く組合員の手にあるといふことが出来る。然し組合の創立に關しては英國の消費組合と多少趣を異にして居る點がある。消費組合はロッヂデールの勞働者によりて創立されたのであるが、信用組合は勞働者以外の人によりて指導されて居る。これは英獨の國民性の相違に原因して居るのであるかも知れぬ。獨逸人は長く專制政治の下に支配されて居たのであるから、英國人の如くに自治的訓練を受けて居ない。然し獨逸人が兎に角信用組合に於て大なる成功を來して居るのは、私共の大に尊敬せねばならぬ所である。殊にこれを我國の信用組合に比すれば其處に大なる相違のあることを認めざるを得ない。何人も知れるが如く我國の信用組合は自發的ではなく、寧ろ政府の獎勵によりて組織されたのであるからこれを以て民主的であるといふことは適當でないかも知れぬ。獨逸に於ては信用組合の統一を謀るために『地方同盟』或は『中央同盟』といふが如き聯合組織が用ゐられて居る。然しシュルチュは各信用組合の獨立を保障するために、聯合體に成る可く權力を與へないことにして居る。更に信用組合が如何に民主的であるかを知るには農民銀行の組織が極めて質素であることを見れば充分にこれを了解することが出来る。ライプツィゲンの信用組合は多く農業地に行はれて居るのであるから、組合の事務所即ち銀行は往々小學校若くは教會の一室に於て事務を行ふて居るに過ぎない。而して其書記の如きも專任の役員ではなくて、小學校

師若くは村役場の書記をして兼務せしめて居るのである。此點に於ても私共は多くの教訓を學ぶことが出来る。

概して言へば庶民銀行は株金に對して多くの配當をなし、農民銀行は出來得るだけ其配當を少なくする方針を執つて居る。信用組合の目的は金融の途を謀るのであるから、株主としての組合員の利益を謀るよりも債務者としての組合員の利益を考へることが必要である。私共は消費組合の場合に於ても同一のことを見たのであつた。消費組合員は株主であると同時に消費者であるけれども組合の目的は消費者としての組合員の利益を考へることにあらねばならぬ。故に株金に對しては年四分若くは五分の配當を爲すのみであつて、組合員の購買高に應じて成る可く多く割戻を爲すことを原則として居る。さればシュルチュの如く株金に對して多くの配當を爲さんとするは全く信用組合の精神に反するものであると言はねばならぬ。若し配當を多くすることになれば、其結果貸出金に對して高き利子を徴せねばならぬようになる。これがシュルチュ自身も感じた所の大なる矛盾である。私共は信用組合の精神といふ立場から見、飽

迄も農民銀行の方針に對して賛成したのである。庶民銀行は多く短期貸出をして居るのであるが其期限は普通三箇月である。然るに農民銀行は短期貸出に對しても亦長期の貸出に對しても嚴重なる期限を設けて居ない。これに對して優劣の批評を試みることは決して適當でないと思ふ。何となれば貸出を受ける組合員の立場が兩

者の場合に於て異なつて居るからである。都會に於ける組合員は主として商業に従事して居るのであるから、一時的融通の途を得れば充分である。これがため庶民銀行は多く短期の貸出を爲すことになる。然るに農民の場合は大にこれと異なる所がある。彼等は次の收穫期迄は返済することが出来ないものであるから、三箇月といふが如き期限を設けることは無理である。若し又穀物小屋を建築するために借金を場合には、これを年賦法によりて返済することが便利である。故に農民銀行に於て嚴重に貸出期限を一定しないといふことは組合員のために甚だ便利であると思はれる。

庶民銀行と農民銀行とは役員報酬に關しても反對の意見を有して居る。前者は成る可く多くの報酬を役員に與へんとし、後者は現金出納係を除くの外總ての役員を無給とすることを主張して且つこれを實行して居る。勿論これには相當の理由があるように思はれる。農民銀行は規模の小なるがため事務も決して煩雜でない。然し庶民銀行の事務は普通多忙であり、且つ役員に報酬を與へるだけの資力があるから役員有給制度を採用したのである。然し大體に就て言へば無給制は確に有給制に優つて居ると言ふことが出来る。若し役員に報酬を與へること、なれば組合員の間には役員位置を得んがために多少の競争が行はれる。殊に役員に働いて賞與金を與へるが如き制度の下に於ては役員の中に多少の危険を冒しても大なる成績を擧げんと焦る者を生ずることになるから、銀行のためには大なる不利益を生ずることになる。斯の如

役員報酬

農民銀行の特色

く考へ來れば私共は無給制を以て理想に近きものと考へざるを得ない。

以上述べたる所に據りて見れば信用組合としての庶民銀行は社會政策の立場から見て決して農民銀行の如く有効なるものではない。勿論庶民銀行が中産階級のために少なからぬ利益を與へて居ることは何人もこれを認めねばならぬ。然し入會金を徴收し、更に少なくとも三百マークの出資を要求するのであるから、労働階級の人々は到底組合員たることが出来ないものである。殊に株金に對して多くの配當を爲さんとするが如きは全く信用組合の精神を無視するものである。つて、普通の銀行と相去ること遠からずである。これに反して農民銀行は飽迄も平民的である。前に述べたるが如く入會者に對して一切入會金を徴收しない。持株の如きも法律上の規定に服従する爲め十二マーク半を徴收して居るけれども、其精神に至りては組合員に對して何等の出資を要求しないのと同様である。苟くも社會問題を研究する所の人であるならば、必ず農民銀行が社會問題の解決法として最も有効なるものであることを認めるに相違ない。私は我國に於ても斯の如き信用組合が廣く普及するようになることを切望するのである。

第四章 生産組合

生産組合の目的

消費組合の目的が仲介者を除去するにあるとすれば、生産組合の目的は資本家を除去するに

あるといふことが出来る。今日の經濟組織に於ては資本家が生産の實權を握つて居るのであるから、労働者は彼等のために使役せられる事になつて居る。然し斯の如き組織に於ては資本家が常に利益の大部分を占め、労働者は單に契約通りの賃金を得るに過ぎないのであるから、資本家なしに労働者の團體を組織し、彼等の力によりて生産を行はんとする所の制度が度々試みられた。殊に社會主義は全く資本家制度を廢止して労働者に生産機關を所有せしむる事を目的として居るのであるから、生産組合の思想は決して新しきものではない。近代に至り産業的民主主義が盛に唱へられて居るのも要するに労働者をして産業の全部を支配せしめんとする希望に外ならない。或人々は社會主義や産業的民主主義の主張を以て全く空想なりと論ずるのであるけれども、若し生産組合が充分に成功することとなれば此等の思想は必ずしも實行不可能といふことは出来ないのである。若し労働者が自ら資本を醸出し、一切資本家の助を借らずして自ら生産を行うことが出来るならば、これは現今の労働問題を解決するために最も有效なる方法であると言はねばならぬ。何人も生産事業を行ふに必ずしも資本家の力を必要と認むることはあるまい。若し労働者のみの團體によりて充分に生産の目的を達することが出来るならば單に労働階級のためののみならず、社會全體のためにも大なる利益であることは明である。若し此事が實行されるならばギルド社會主義の説く所も決して空想にあらずといふことが出来る。私には本編に於て労働組合、消費組合、信用組合を論じ最後に生産組合を論ずることになつたので

生産組合
組織

あるが、此等の四題目の内最後の生産組合は労働問題の解決法として最も有效である様に思はれる。労働組合の如きは尙資本家階級の存在を認めて居るけれども、生産組合の目的は先づその資本家階級を除去するにある。消費組合は仲介者を除く爲めに甚だ有効であるけれども、若しこれが生産組合と竝立するにあらざれば決して労働階級の獨立を得ることは出来ない。信用組合も高利貸の手から労働者を救ふ事に於て有効であるけれども、これのみにて労働階級の獨立を謀ることは不可能である。故に労働階級の獨立を謀るためには生産組合まで進んで行くのが當然である。故に生産組合は労働運動の絶頂點であるといふても差支はない。

生産組合は如何にして組織せられて居るか今その大體を説明する。第一組合を組織する所の労働者は事業に必要な資本金を自ら出資せねばならぬ。勿論或場合に於ては國家が其資本を貸與する事もあり、時には慈善家が資本の一部を補助することもある。然し大多數の場合に於ては組合員自ら出資することを原則として居る。國家若くは慈善家の補助を仰ぐといふことは往々一種の社會政策として採用されたのであるけれども、これは決して労働階級の獨立を得る所以でない。生産組合發達の初期に於ては上記の如き補助を受けたこともあるけれども、今日に於ては主として労働者自身の出資に依頼することになつて居る。後に示すが如く、労働組合若しくは消費組合の如き共働組合が生産組合の爲めに多くの資本を投ずるとはあるけれども此等の共働組合は何れも労働階級の組織せる團體であるから、これによりて労働階級の獨立が害

せられる虞はない。生産組合は言ふまでもなく自治をもつて原則として居るのであるから、組合の役員は一切彼等自身が選舉する事になつて居る。而して組合の生産したる商品は彼等の役員によりて販賣せられるのである。但し組合が他の共働組合から資本を得て居る場合には、共働組合も亦自らを代表する所の役員を選舉する事になつて居る。斯の如き方法によつて生産したる商品は彼等が最も有利であると信ずる所の方法によりて販賣するのであるが、彼等は之によりて各自の賃金を支拂ふのみならず、又相當の利益を得る事が出来る。此の利益を處分するには種々なる方法が用ひられてゐるけれども、之を組合員に平分する事が原則となつて居る。

今日の有様をもつて言へば生産組合は決して成功して居ると見ることは出来ぬ。佛國に於て一八三一年に最初の生産組合が設立された以來今日に至るまで生産組合の設立された数は幾千といふ多數に達して居るけれども、今日まで永續してゐる所のものは極めて少ない。英國及び歐洲大陸に於ける生産組合は幾多の浮沈を経て今日に至つたのであるが、一九四年の統計に據れば其の當時に存在してゐた生産組合の数は佛國に於て五百、英國に於て六十二、獨逸に於て三百位である。これによりて見るも今日に於ける生産組合は決して成功的状態にあるとは言へぬ。單に理論の上から見れば生産組合は勞働問題の解決法として最も理想的である。然も其の勢力の甚だ微々として振はないのは何故であらうか。私共は研究の結果次の如き缺點に原因することを見出すのである。第一は組合それ自身の原則に背くが如き組織を有することである。

多くの組合は組合員以外に傭人を使役してゐるのであるが、これは明に組合の精神に反するものではないかと思ふ。組合は資本家を除去することを目的として居るに拘らず、組合員自らが資本家となつて多くの勞働者を使役して居るのである。斯の如くなればその根本に於て生産組合と資本家的企業との間に何等の相違はない。第二は組合員以外から資本金の供給を仰ぐといふことである。前にも述べたるが如く生産組合のために出資する所の消費組合及勞働組合は生産組合の役員中にも自分の代表者を出す權利を有してゐるのであるから、その結果生産組合は組合以外の勢力に左右せられることとなる。第三は組合員が往々支配人の命令に服従しないと云ふことである。勞働者は兎に角資本家に對してはよくその命令を守るけれども、自ら選舉したる役員に對しては我儘なる振舞をなすことが少なくない。何となれば彼等は如何なる場合にも解雇される虞れないからである。斯の如くして勞働者は常に位置の安定といふ事を考へてゐるから、その事業に對して努力するといふ精神が漸次減少する様になる。第四は組合が成功するに従ひ漸次獨占的となるといふことである。組合員が組合によりて多くの利益を得る事となれば彼等は新入會員の多いことを好まない。これがため彼等は種々なる手段を設けて新入會員を拒絶する様になる。此等の理由を考へれば今日に於て生産組合が充分なる發達をなし得ない原因を了解することが出来る。

一八四七年から四九年に至る間に於て英國は商業上に於ても農業上に於ても甚しき不景氣に

陥つたのである。其時基督教社會主義者の一團はエフ、デー、モリスを中心として毎夜彼の家を集會を開き救濟法を講じた。會員の一人なるラッドローは一八四九年の夏パリに旅行したのであるが、其當時佛國に於ては生産組合が最も隆盛を極めてゐたのであるから、充分にその實際を調査して歸國の上これを團員に報告した。其結果一八四九年の秋モリス、ラッドロー、キングスリー、ヒューズ等をはじめとし基督教社會主義者は「労働者組合助成會」なるものを組織することになつた。其目的は労働者をして生産組合を組織せしめ、これに對して必要の資本を貸與するにあつた。最初に組織せられた組合は、裁縫工、靴工、建築工、鍛工、印刷工、麵粉製造者、ピアノ製造者等約十二組合であつた。然し此等の組合は多く失敗に歸したのである。其原因は理想通りに自治を與へたにあつたらしい。「労働者組合助成會」は單に資金の使用に關して多少の助言を與へたに過ぎなかつたのであるけれども、組合員には彼等の事業を經營するために全く自由を與へたのであるから、今まで訓練のなかつた彼等は忽ち喧嘩をなし、其結果度々支配人を取換へる様になつた。なかには多少の成功を來した組合もあつたけれども、彼等はその利益を獨占する目的をもつて成るべく新組合員の加入を拒絶し、遂に排他的となつたがため、基督教社會主義者の理想とは全く反對の結果を生ずる様になつた。

生産組合に關し一九一〇年英國政府がなした所の調査と一九一四年フエビアン會の試みた調査との間には多少の相違がある。前者によれば一九一〇年に於ける生産組合の現在数は八十六

政府の調査とフエビアン會の調査

であるけれども、後者によれば一九一四年に於ける組合数は六十二となつて居る。今何れが正確であるか之を判断することは困難であるけれども、過去數十年間に於ける生産組合の數に大なる變動のあることを見れば、かゝる相違の生じたことは當然の結果であるかも知れぬ。私は先づ政府の報告に基きて生産組合の概況を示し、後にフエビアン會の報告をも紹介することにしたい。

一九一〇年に於ける生産組合が如何なる状態にあるかを説明するために私は左に統計表を示すことにする。

生産組合 數、組合 員數、株 金	組合の種類	組合數	組合員		株金
			個人	組合	
建築業	建築業	四	六七四	七	四、二〇八
採石業	採石業	一	三九二	五二六	二七、四六七
金屬機械業	金屬機械業	二	九二三	一九〇	一九、一九五
織維業	織維業	一三	五、八八一	一、三一七	一四〇、三三七
製靴業	製靴業	一九	三、九四七	七一九	六五、六四六
被服製造業	被服製造業	四	一、六五二	五三八	三六、八八九
印刷業	印刷業	四	二、六六六	四五七	五七、二九五
木工及裝飾業	木工及裝飾業	四	二、三三六	九五	一一、〇四九
食物調理業	食物調理業	三	四、三七八	二〇七	三二、七二五

縫及アラシ製造業	二	一九〇	一	四一四
皮革製造業	二	三四	一	三四四
雑業	三	一三九	一五	六九五
合計	八六	二一、〇三一	四、〇七三	三九六、二六四

此統計表に就て注意すべきことが一つある。組合員の中に個人と組合との二つが記されて居るが、これは生産組合に於て一個人でも或は労働組合消費組合の如き共働組合でも組合員となる事が出来る事を示して居る。此等の組合は一九一〇年に於て何れも其事業に於て多少の利益を得て居る。損失を招いたのは單に一つであつて、其他の組合が得た所の利益は合計六萬六千百三十九磅に達して居る。

前に述べたるが如く生産組合に於て自ら労働して居る所の組合員は普通の労働者と同様の賃金を得て居るのであるが、其他に事業から生ずる所の利益をも種々なる形式に於て受けることになつて居る。今組合の利益金が如何なる方法によりて分配せられて居るかこれを次に説明する。先づ組合員が出資したる株金に對して普通五分の配當をなすのである。時には五分以上の配當をなす事があるけれども、生産組合は資本家を除去する事を目的として居るのであるから資本金に對して成るべく小額の配當をなすことを原則として居る。次には利益金の一部を積立金として控除することになつて居る。積立金の目的は組合員が負傷したる場合これを扶助する

利益金の
割當

にある。次には彼等の生産品を購ふ所の顧客に對して配當をなすのであるが、これは消費組合に於て購買者に對し割戻しをなすのと其精神を同じくして居る。而してその配當は購買高に比例することになつて居る。前にも述べたるが如く消費組合に於ても組合員以外に多くの傭人を使役して居るのであるが、生産組合も亦組合員にあらざる多くの傭人を有して居る。故に生産組合は多く傭人に對して利益の一部を分配することになつて居る。同時に組合は傭人をして分配金の一部若しくは全部を貯蓄せしめ、これを以て生産組合の株を買はしむるのである。斯の如くして傭人は漸次投票権を得組合員の資格を得ることが出来る。一九一〇年に於ける傭人の數は六千七百六十六人であつて、其内利益の分配を受けた者は四千九百六十九人であつた。

傭人の持株につき英國政府に報告をなしたものは組合總數八十六の内七十八に過ぎなかつた。今七十八の組合に就て言へば一九一〇年に於て傭人の所有して居る資本金は八萬一千五百七十六磅であつて、是を組合の資本總額に比すれば單に二割二分三厘に過ぎない。然し各階級から選出したる役員の数に傭人が二百五十六人、各共働組合が百四十八人、個人的組合員が二百九十七人であるから、傭人は役員總數に對し三割六分五厘を選出して居るのである。斯の如く役員を選出は資本金よりも寧ろ人數を標準として居るが故に傭人は比較的多くの參與權を有することになつて居る。且つ生産組合の規則として代理投票を許さないものであるから、遠隔の地に在る所の株主殊に共働組合は屢々棄權する場合があるけれども、傭人は大多數組合所在地に

傭人の出
資及參與

三種の生産組合

住居して居るがために組合の總會に出席する便宜を有して居るのである。其結果彼等の投票力は一層増大することになる。生産組合七十八に就て言へば、傭人が役員として彼等の代表者を一人も出してゐない所の組合は十九である。彼等の代表者が役員の数に達してゐない組合が三十九であるけれども、彼等の代表者が過半数を占めて居る場合も二十の多きに達して居る。以上述べたる所は政府の報告を根據としたのであるが、私は更にフエビアン會の調査した所により一層詳細に説明して見たい。生産組合は便宜上これを三に區別することが出来る。第一は完全に組合員の自治が行はれて居る場合。第二は生産組合が消費組合の附屬機關として存在して居る場合。第三は組合員の多数が幾分かの自治を得て居る場合である。

第一種に属すべき自治的生产組合の数は合計二十に過ぎない。而して此等組合の多数はライセスターシャー、ワールウィックシャー及ノーザンブントンシャーに於てこれを見る事が出来る。此等の組合を事業別によりて示せば次の如くである。即ち製靴業が十三、織維業が一、建築業が一、金屬工業が二、時計業が一、被服製造業が二合計二十である。此等組合全體に就て言へば組合員の總数が六千人で其内二千四百人は傭人である。資本金の總高は十五萬磅で内四萬磅は傭人に属して居る。傭人にして株を所有してゐないものは八百人であるが、株主にして自ら労働に従事してゐない者は三千六百人である。これによりて見れば此等の組合は決して純粹なる生産組合と稱すべきものでない。若し生産組合の原則が實際に労働しつゝある所の者により

自治的生產組合

て組織せらるべきものであるとすれば、組合員の内に労働しない所の株主を入會せしむるといふ事は組合の精神に背いてゐる。

私が此處に紹介せんとする所の組合は決して理想的に成功して居るといふ意味ではなく、單に生産組合の原則に一致して居るといふ意味に於て理想的であるといふことを説明しておかねばならぬ。而して斯の如き理想的生産組合は英國に於て僅に一を見出す事が出来る。即ちランキャシャーのネルソンといへる所にあるネルソン自助製造會社がある。此の會社は一八八八年に創立せられたる所の小なる綿布製造會社である。創立者は最初資本家に對して六ヶ月間ストライキを行ふたのであるが、其後尙資本家の下に労働するよりも寧ろ自から資金を融出して獨立の製造會社を組織することが得策であると信じ、遂に此の會社を創立するに至つた。而して此組合には純粹なる自治が行はれて居る。即ち株主にあらざれば組合員となることが出来ないのみならず、組合員にあらざれば株主となることが出来ないから、此會社の株主は全く其處に働く労働者のみであつて、彼等以外に株主たる事を許さないことになつて居る。而して彼等は二十五年間此の原則を嚴守して居るといふことである。一九一四年の統計によれば資本金は四千三百五十五磅であつて、一人の持株は少なくとも二十磅たる事を要するのである。一年間の賣上高は、二萬八千磅乃至三萬八千磅に達して居る。役員は總て組合員の中から選舉するのであるが、支配人及書記の如きも以前は此會社に於て他の労働者と同様に労働してゐたの

理想的生產組合

である。支配人の職務は單に綿絲を買ひ、更にその生産したる綿布をマンチエスターの商品取引所に於て賣るだけのことであるから、特別な商業的手腕を要するが如き事はない。概して言へば組合員は現狀に満足して居る様である。彼等は自分の労働に對して普通の賃銀及持株に對して普通の利子を得、更に減損補填金と若干の積立金を積立ることが出来れば其以上に多くを望まないのである。彼等は物質的方面に於てよし満足を得る事が出来ないにしても、彼等には尙ほ現在の状態を喜ぶべき大なる理由がある。第一は如何なる場合に於ても失業に陥るといふ虞れがない。彼等は自ら事業を經營して居るのであるから解雇といふ事を心配する必要はないのである。第二は最も重要なことであつて、彼等が全然資本家の壓迫を免かれて居るいふことである。此等の理由により彼等が生産組合に對して大なる満足を感じて居ることは決して怪しむに足りない。更に彼等は工場法の規定する所に従つて労働時間を制限し、且つ労働組合の定めたる標準によりて賃金を拂ふ事にして居るから、彼等の不平も起らないのである。若し強いてその缺點を擧げるならば、第一に彼等の努力が不足であるため生産高の増加しないといふこと、第二に彼等が自分の仲間から選舉した支配人に對して充分服従するだけの訓練を經てゐないといふことである。然し此等の缺點は決して以上述べた長所をも帳消しする程のものではない。

第一種の生産組合に屬するもの、内に十三の製靴組合がある事は前に述べたる通りであるが

製靴組合

これに就ても少しく述べておきたいと思ふ。此等の組合全體に就て言へば、組合員の数は四千人であり、傭人の数は千六百人である。而して傭人の内一千五百人即ち約七割三分は株を所有して居る。資本金の總高は十萬磅である。此等の組合に就て其缺點を擧ぐればネルソン自動製造会社の場合と同じく充分なる發達を見ることの出来ぬといふ點である。例せば彼等は新しき機械を採用する事を好まない。若し新機械を用ふることにより人力を節約すること、なれば労働者の一部は職業を失うといふ虞がある。組合員は何れも失業といふことの爲に心配する必要がないのであるから、出来るだけ人力を節約する様な方法には自然に反對すること、なる。今一つ此等の工場に於て何人も見る所のことは労働者の間に比較的老人が多いといふことである。普通の工場に於ては絶えず老人を解雇して青年労働者を使役するのであるが、生産組合に於ては斯の如き慘酷なることを實行することが出来ない。労働者保護といふ立場から見れば、老人にも尙職業を與ふる事は極めて望ましきことであるけれども、これがため事業の發達を沮害する事のあるのは已むを得ない。以上述べたるが如く製靴組合に於て多少の缺點はあるにせよ、自治的制度に於ける長所も充分にこれを認めることが出来る。此等の組合に於ける労働者は其他の労働者に比してより多くの幸福と自由を得て居ることは疑いない。彼等は資本家の工場に於て監督者の下に絶えず労働を強制せらるゝが如きことが無いのであるから、極めて自由に其職務に従事することが出来る。單に能率といふ點からいへば、労働者を機械と同様に充分労働

せしむるといふことは必要であるかも知れないけれども、斯の如き状態の下に労働する者は奴隷の境遇と何の異なる所はない。若し労働者の人格を重んずるならば、彼等をして堪へ得るだけの労働をなさしむるが得策である。この見地から見れば労働者に對する生産組合の態度は全く理想的であると言へる。殊に請負仕事をなす所の男女労働者は原則として何等の監督を必要とすべきものでない。彼等の報酬は生産高によりて増減するのであるから、彼等が其仕事に勉勵するものも或は怠慢であるのも彼等の自由である。此點に於ても製靴組合は好模範を示して居る。請負事業に従事してゐる者は其作業中に於ても勝手に談話したり、或は歌ひ或は茶を飲む事も出来る。斯の如くして労働者は何れも自由の空氣に愉快なる生活を送つて居る。更に彼等の工場に就て言へば其設備は他の工場に比して一層衛生的である。其結果労働者の健康状態は頗る良好であつて、女工の死亡率も極めて低いといふことである。彼等の道德及び風儀も之を他に比較して普通以上と言はれて居る。要するに生産組合に於ては労働者を人格者として取扱ふのであるから、之を機械視する事には絶対に反對して居る。組合員の數には限りがあるから、缺員を生じたる時新會員の入會を許すのであるが、其中込者の多數である事を見れば製靴組合が労働者の間に如何に良好なる印象を與へて居るかを想像することが出来る。

私が英國の消費組合に就き説明を試みた時消費組合が自ら生産事業をも行つて居ることを述べたのであるが、斯の如くして消費組合に附屬して居る所の生産組合の數が十二に達して居る。

消費組合
附屬の生
産組合

若し生産組合が消費組合の保護の下に組織せられる時にはこれに附隨する所の利益が少なくな。第一は其生産したる商品の販賣に就ては何等の危険をも感ずることがない。何となれば消費組合が全部これを引受くるからである。今日の商業が往々危険に陥いるのは需要供給が屢々其平衡を失ふが爲であるが、生産組合の場合に於ては決してかゝる憂がないのである。生産組合は單に消費組合の注文に應じて其生産高を決定さへすれば生産過多に陥いる心配はない。若し生産組合と消費組合との組織を現在の經濟界全體に及ぼす事が出来るとしたならば、私共は不景氣といふが如き恐るべき變動のために生ずる損害を免かれる事が出来るに相違ない。社會主義の主張する理想は此點であつて、生産組合は部分的に其理想を實現して居る。生産組合が消費組合から受くる第二の利益は之によりて容易に資本金を得ることが出来るといふ點である。換言すれば生産組合は何時でも豊富なる資本を得る事が出来るのである。然し私共は又一方に於て多くの缺點が存在して居ることを記憶せねばならぬ。生産組合は消費組合の保護を受けると同時に或程度まで其獨立を失ふのである。消費組合が資本金の大部分を負擔する以上は必ず生産組合の役員を選擧するに當り自らの代表者を多く選出することになる。斯の如くして生産組合の自治的精神は大部分破壊されるのである。中には消費組合に屬しながら尙獨立を維持して居る所の生産組合があるけれども、これは單に一二の例外たるに過ぎない。尙此種の生産組合に就きて述べておき度い缺點は組合が傭人に對する態度の面白からぬ事である。組合の精神

に従ひ傭人にも組合の株を所有せしむることになつて居るけれどもそれは極めて一小部分である。大體から言へば此種の組合は傭人をして株主たらしむることを好まない。これは役員の内
に於ける傭人の代表者が極めて少ないことにより證明せられて居る。即ち役員は總數百二十四
人のうち傭人の代表者は僅に十三人に過ぎない。而して消費組合及其他の共働組合が株主とい
ふ資格によりて役員の中に代表して居る數は九十一人である。兎に角消費組合附屬の生産組合
に於て民主主義が充分に徹底してゐないことは争ふことの出来ぬ事實である。

私は消費組合附屬の生産組合を代表するものとして一二の實例を擧げて見度い。「マンチェス
ター共働印刷會社」は一八六九年に創立されたのであつて労働組合及消費組合の機關となつて
居る。即ち共働組合の出版する新聞雜誌其他の印刷物は一切此會社に於て引受ける事になつて
居る。一九一四年の統計によれば資本金は三萬二千磅、傭人は五百五十人、一年間の營業高は
十一萬八千磅、利益は一萬三千磅である。而して傭人には株を所有せしむることになつて居る
けれども殆ど有名無實といふ有様である。「ヘブデンブリッチ共働製造會社」は一八七〇年の創
立であつて消費組合に附屬して居る。此會社は「マンチェスター共働印刷會社」に反して成るべ
く傭人が株主となることを要求して居る。而して彼等の持株は今や一萬磅に達して居るといふ
ことである。

三種の生産組合の中最後に屬すべきものは組合員と傭人とが恰も資本家と労働者との如き關

實例

傭人の参
與權

係を有し、傭人は單に一部の參與權を有して居るに過ぎない所の組合をいふのである。而して
此種の組合に屬する所のものが凡そ三十に達して居るといふことである。左に述べる所のもの
は此組合の特色と見ることが出来る。第一は傭人にも純益の分配を行ふこと、第二は労働者に
株を所有せしむること、第三は役員の中に株主たる傭人を代表せしむることである。私が純益
分配を論じたる時に佛國のゴダンの例を示したのであるが、彼の實行した所も労働者に對して
一部の自治權を與へるといふことであつた。資本家が其事業を經營して居る限り、これを生産
組合と稱するのは適當でないけれども、ゴダンが其所有株の全部を傭人に賣渡し彼等をして自
治的にその事業を經營せしめた後のことを見れば、彼の事業が遂にこの種の生産組合に屬する
ことは明なる事實である。

生産組合が其事業を同じくする場合に於て多少激烈なる競争をなしつ、あることは事實であ
る。若し生産組合の組織が社會主義の主張する理想を實現する所の第一歩であるとすれば、斯
の如き競争の行はれつ、あることは其理想を裏切るものと言はねばならぬ。故に社會主義に反
對する所の人は此の事實を以て社會主義の實行不可能であるといふ證據にして居るけれどもこ
れは決して適當でない。何となれば生産組合は單に産業界の一部に行はれて居る所の試験的事
實に過ぎないからである。今日の社會は競争制度を原則として居るのであるから、其真中に於
て無競争の理想郷を實現せんことは決して容易のことでない。若し生産組合が産業界の大部分

生産組合
の競争

に普及する事となり、組合と組合との間に完全なる聯合が行はれることになれば自由競争の弊害を除去することは敢て困難ではないのである。今や生産組合の間に於ても自由競争の不利なることを認め、彼等の間に同盟を作らんとする計畫が行はれて居る。例せば共同的に廣告をなし、或は直段附の印刷物を配布して賣價の統一を謀りつゝ、あるが如きは生産組合を統一する爲の手段に外ならない。

佛國は生産組合の本源地であつて、ブセーは其の元祖とも稱すべき人である。一八三一年パリ市に起つた所の指物師組合は生産組合の濫觴であつて、ブセーはこれがために少なからぬ援助を與へたのであつた。組合員は同一の賃金を受けることになり、組合の利益は共有財産として積立てることとし、其目的は極めて理想的であつたけれども、數ヶ月の後遂に解散したのである。次に起つたのは寶石工組合であつたが、これも一八三四年から一八九六年まで繼續したに拘らず、遂に組合の支配人が其事業を買収することになつた。

ルイ、ブランは勞働者が失業のため慘狀に陥るのを見て彼等のために獨立的組合を組織せしむる事の必要を感じたのである。これがため國家の保護の下に今日の所謂生産組合なるものを組織し、資本家の力を借らずして勞働者に自治權を與へることを主張した。彼は社會主義者であつた、め彼の主張する生産組合が社會主義的色彩を帯びて居ることは決して怪しむに足りないのである。一八四八年彼は内閣の一日となり、ブセーは國民議會の議長となつた爲に生産

佛國に於ける生産組合

ルイ、ブラン

組合の運動にとりては實に得がたき好機會が到來したのである。これに加ふるに生産組合に關する議論は人々の注意を惹き佛國民の多數は之を歓迎したのであるから、其當時に於て新に設立された生産組合の數は二百以上に達したのである。而して其内三分の二はパリ市に於て設立されたといふ事である。然し此等の組合が盡く純粹の意味に於ける生産組合であつたか否かは疑問であるけれども、少なくとも七八十位の組合は之を眞正の生産組合と見て差支へがなかつた様である。一八四八年七月に開かれたる國民議會は生産組合を援助するために三百萬フランを支出することを決議したのである。而して其補助を受けた組合は四十以上に達したといふことである。然るに自治獨立を原則とした生産組合に屬する勞働者は政治に關しても自由なる意見を有してゐた、め遂に彼等の間に議論が沸騰し、或組合の如きは政治運動の根據地となるに至つた。これがため政府は組合に對して大に警戒をなしたのであるが、一八五一年に至り遂にこれを鎮壓すること、なつた。斯の如く政府の迫害を受けたにも拘らずパリ市に於ては尙少數の生産組合が存在してゐた。即ち一八五四年には尙ほ三十一の組合が残存し、一八六八年には約二十、一八八七年には一七の組合が残存してゐたのである。

生産組合は斯の如く一時衰微したのであるけれども、一八八〇年に至り佛國は再び生産組合の隆盛を見るに至つた。而してこれはベンジャミン・ラムバルの働きに負ふ所が少なくなかつた。彼は組合復興のために努力したのみならず、新しき組合を起すために八十七萬五千フラン

生産組合の復興

を寄附したのである。同時に政府も亦保護政策を取り、生産組合に對して低利の資本を貸し出し其他組合の爲に種々なる便宜を與へたのであるから、生産組合の数は漸次増加する様になつた。一九一四年の統計に據れば生産組合の数は五百となり、株主の数は二萬人に達して居る。而して此等の組合に於て労働しつゝ、ある者は二萬五千人である。但し其内三千人は組合員ではない。組合が一年間に生産する所のものは七千五百萬フランといふことである。

特徴

佛國に於ける生産組合の組織は大體に於て英國のそれと同一であるから一々これを述べる必要はないと思ふ。故に私は大略佛國に於ける組合の特徴に就き説明して置きたい。而して此等の特徴は或程度まで英國及獨逸の生産組合にも適用することが出来る。第一の特徴は生産組合が經營しつゝ、ある事業が何れも小規模であるといふことである。組合員の多數は多くの資本を有して居ないのであるから大規模の事業を經營することは出来ない。彼等の出資は平均一人につき約五百フランであつて、これも月賦にて納むる場合もある位だから、その事業の小規模である事は決して怪しむに足らない。第二は組合を組織する所の労働者が多く熟練職工に制限せられて居るといふことである。熟練職工は不熟練労働者に比して多少の資本金を有し、且つ其團結心も強いのであるから、彼等が先づ組合を組織するといふことも當然の順序であると思はれる。第三は生産組合を組織するに至つた動機である。已に述べたるが如くストライキの爲に労働者が失業する場合には彼等の心に獨立的事业を起さんとする希望が生じて來るのは自然で

ある。而して一度生産組合を組織すること、なれば彼等は殆ど宗教的熱情を以てこれを經營し、如何なる困難にも打ち勝つてその目的を達せんとするのである。故にストライキが生産組合組織の動機となつてゐることは英獨佛の何れに於ても同一であるが、殊に佛國に於て著しい様と思はれる。第四は組合組織の不完全といふことである。佛國の法律によれば生産組合の業務委員十二名の内九名は必ず其組合の事業に於て労働する者でなければならぬと規定してある。此點は頗る民主的であるやうに思はれるけれども、總ての労働者に對して利益を平分せねばならぬといふ規定がない爲に或組合は少數の株主の組合となる傾きがある。殊に組合に於て傭人を使役しこれに對して特別の取扱をなすが如きは全く民主主義の精神に反するものと言はねばならぬ。第五は生産組合の多數が永續しないといふことである。已に述べたるが如く佛國に於ては一八三一年以來幾千といふ組合が組織されたのであるけれども、彼等の内には數ヶ月若しくは數年の後に解散したものが少なくない。現在佛國に於て五百の生産組合が存在して居るけれども、其内十年以上永續してゐるものは僅に一百に過ぎない。而して二十年以上の生命を有して居るものは僅に五十である。斯の如くして生産組合が常に新陳代謝して居ることは實に生産組合の特徴であると言はねばならぬ。第六は佛國の生産組合が労働組合及社會主義に對して何等の關係を有してゐないといふことである。凡そ労働運動と言へば多く労働組合に關係を有し、或は多少社會主義的色彩を帶ぶるものであるが、佛國の生産組合が殆ど全く其等の傾向を有し

てゐないといふ事は殊に注意すべき點であると思ふ。然しよく其の原因を研究すれば私共は容易に其の理由を説明することが出来る。佛國の生産組合が常に慈善家及國家の援助を受けて居る事は既に述べた通りであるが、國家及慈善家が常に社會主義及び労働組合に對して多少猜忌心を有して居る事は事實であつて、是が其の原因となつて居ることは争ふことの出来ぬ事實である。

獨逸に於て信用組合が非常に發達して居る事は本編の第三章に於て述べた通りであるが、これと同時に消費組合も大なる發達をなして居る。此等の共働組合が全國に普及したる結果生産組合も此處彼處に設立される様になつた。今日に於ては生産組合の數既に三百に達して居るといふことであるが、中には組合の本質を備へてゐないものも少なくないから、英國に於ける生産組合に等しきものは先づ其半數であると見るのが適當であらう。而して理想的の生産組合即ち組合員にあらざる者は労働者たることが出来ず、労働者にあらざる者は組合員となる事が出来ぬといふ原則を守つて居る所の組合は全くこれを獨逸に於て見ることは出来ない。組合員以外の者は労働者たることが出来ぬと規定して居るものが九組合あるけれども、彼等は労働者でない者を組合員とする事を許可して居る。最も多數を占めて居る所のものゝは英國の所謂第三種に屬する組合であつて其數は七八十である。然し此等の組合は著しく排他的である。即ち組合員にあらざる傭人の數のみを増加して組合員の利益を増加する事に熱中して居る。其結

獨逸生産組合

生産組合
と他の共
働組合

果新組合員の加入を拒絶する爲に株金高及入會金高を出來得るだけ引上げることにして居る。尙此等の組合が多くストライキの後に設立されたのであることは佛國と同様である。

生産組合に對して一般労働者は如何なる態度を取つて居るかといふに彼等は生産組合が消費組合若しくは労働組合と密接なる關係を有する事を最も安全と考へてゐる様である。何となれば斯の如くして生産組合の經營は全く危険を免かれる事が出来るからである。其結果生産組合は漸次共働組合の附屬機關とならんとする傾向がある。今一二の實例を擧げる事にする。ハノーヴァーの印刷工會社は一八七三年の創立であるが、今は労働組合附屬の生産組合となつて居る。ドレスデン裁縫工生産組合も又消費組合の附屬となつて居る。此組合は一八九一年の創立であつて、一九一四年には八十名の組合員を有し、一年間に於ける賣上高は十五萬八千三百四十マークである。資本金に對しては僅なる配當をなし、顧客の購買高に應じて利益の一部を割戻すことにして居る。ノルドハウゼ煙草職工生産組合は毎年三百萬マークの生産をなしつゝ、あるが、今や消費組合附屬卸賣會社の買収する所となつた。

私は生産組合の利益と缺點に就て其概略を述べたのであるが、最後にこれに對する概評を試みることにする。生産組合は他の共働組合に比して最も理想に近き社會問題解決法である。前にも述べたるが如く若し労働者が資本家の力を借らずして生産事業を經營し、これによりて生活の道を見出すことが出来るならば、單に労働問題のみでなく總ての社會問題はこれによりて

生産組合
の概評

解決されることになる。労働者は自らの労働によりて得たるものを全部所有することが出来るのであるから、彼等の生活状態は充分に改善せられ、遂に全く貧乏といふ社會的疾を除去する事が出来る様になる。社會主義、共產主義及ギルド社會主義の理想もこれによりて實現される様になる。斯く論じれば生産組合の成敗は殆ど社會問題の運命を決するものであるといふことが出来る。然し私共が見たる如く生産組合の現状は決して満足すべきものでない。労働組合は勿論、消費組合及信用組合が堂々たる運動をなし日覺しき成功を來して居るに反し生産組合の事業が微々として振はないのは實に甚しき對照であると言はねばならぬ。消費組合や信用組合に成功した労働者は到底生産組合を經營する能力がないのであらうか。何人も此點に關して大に研究する必要がある。生産組合は他の共働組合に比して經營上極めて困難である。今其理由を少しく述べて見たい。消費組合の如き或は信用組合の如き何れも労働者の利益に密接なる關係を有して居るけれども、それは單に利益の一部を代表して居るに過ぎない。例せば労働者が消費組合に對する關係は彼の収入の三分の一もしくは二分の一に過ぎない。即ち組合員が消費組合に於て購買する所の金高は彼の總収入の約半分位のものであつて、而も彼がこれによりて得る所の利益は購買高に對する僅なる割戻しに過ぎない。且つ彼は自由意志により他の場所に於て其の必要品を買ふことが出来る。これと同じく労働組合や信用組合に於ても組合に對する彼等の利益關係は單に部分的である。これに反して生産組合に於ける組合員はこれにより

て収入の全部を得て居るのであるから、其利害關係は全部的であると言ふことが出来る。これが爲め生産組合に於ては總ての會員が強き利害觀念に支配せられ、少しの事にも相争ふといふ弊害を生ずる様になる。これは單に内部の事情を述べたに過ぎないのであるが、生産組合中の或ものは一般の生産者と競争せねばならぬ位置に立つて居る。社會主義や共產主義の理想として居る社會に於ては全然競争を度外視して居るのであるけれども、現在の生産組合は尙ほ自由競争の中に立つて奮闘せねばならぬといふ必要がある。これによりて見れば生産組合はこれを社會全體に行ふことによりはじめて成功すべきものであるけれども、今日の如く小規模に於て組織する場合には少なからぬ困難のあることを了解しなければならぬ。米國に於ては數十年前共產主義を理想として經營したる小團體が少なからず存在してゐた。然し此等の小社會は殆ど何れも失敗に終つたのである。社會主義や共產主義の理想は國民的若くは國際的に實行すべき所のものであるから、これを小區域に實行して其の成功を見る事の出来ないのは決して怪しむべきことでない。故に生産組合が多くの缺點を暴露して居るといふことは生産組合そのもの、弱點といふよりも寧ろこれを大規模に行ふ事が出来ぬといふ事情に原因して居るといふ方が適當であらうと思ふ。

私は社會問題の解決法を説くに當り先づ應急的なるものを初めとし漸次根本的のものに進んで來たのであるが、今や第六編を終るに臨み労働者の自立的解決法と私が根本的解決法として

認めて居る所の社會主義との關係に就き一言述べて置きたいと思ふ。本編に於て論じた所の共働運動は殆ど何れも労働者自身の活動であつて、國家及資本家の力に頼る事は殆どないといふても差支はない。偕て社會主義とは如何なる事を主張するのであるか。私はこれを簡単に説明して見たい。社會主義は生産機關の共有を主張するのであるから、今日の如き資本家と労働者との對立を許さない。換言すれば労働者をして自由に生産機關を使用せしめ、其の得たる所のものを彼等に平分することを目的として居る。故に社會主義の理想が實行されるれば、人類は盡く何等かの労働をなすこと、なり、資本家階級なるものは全く廢止せらる、様になる、ギルド社會主義が労働者の産業管理を唱へて居るのも全くこの精神に外ならない。斯く論じれば、今日行はれつ、ある共働運動が社會主義實現のため一種の準備運動であることは何人も容易にこれを認めることが出来る。

第七編 都市社會問題と農村社會問題

第一章 土地問題

ヘンリー・ジョージは「進歩と貧乏」といふ書籍に於て文明の進歩するに従ひ貧乏人の數が益々増加する有様を説いて居るのであるが、私共は都市に於て一層著しく此事實を見る事が出来る。競争の激烈なる所に於ては富の程度が甚しき懸隔を生ずる様になる。世界何れの國に於ても田舎の人民は甚しく都市に集注する様になつたのであるが、其結果殆ど總ての都市に於ては貧民窟といふ一種特別の社會を現出する様になつた。外面に於ては如何にも富裕に見ゆる所の都市も必ずその一部は憐れなる貧民の占領する所となつて居る。歐米の諸都市に於ては數十年來貧民窟を撲滅し若くはこれを改善するために努力して居るのであるから、今や貧民は或る一定の區域に其住所を限られて居るが如き有様であるけれども、我東京市の如きに於ては到る所に貧民窟が見出されるのである。貧民窟の存在は單に都市の美觀を害するのみでなく、衛生上或は風儀上から見ても最も恐るべきものであるから、市の當局者は之に對して改善の道を講ずる事が必要である。社會問題の目的は社會の疾病たる貧乏を除くといふ事にあるから、貧富の懸

貧富の懸
隔と都市

如何にし
て之を救
済すべき

隔の最も甚しき都市に於て特別な社會問題の存在して居るのは決して怪しむに足らない。都市に於ける貧民を如何に救済すべきかに就ては種々なる方法の有ることを記憶せねばならぬ。私が既に述べ來つた所の解決法は都市の場合に於ても之を適用することが出来る。例せば私が應急的手段として述べた所の救済事業や教育事業も都市に於ける貧民に對する救済法として或程度までは有効である。税制問題の如きも決して等閑に附すべき所のものではない。即ち市税の負擔を富者に重くし貧者に軽くするといふことは都市の場合に於て市民の大に注意せねばならぬ所のことである。殊に貧民に對して直接の關係を有する所のは食料品問題であると思ふ。貧民が其の収入の大部分を食費のために支出して居ることは何人も知れる事實であるから、出來得るだけ低廉なる食料品を彼等のために供給することは彼等の生活を向上せしむる所以である。殊に貧民は富者に比して比較的高き價を食料品のために拂うてゐるのであるから、卸賣商及び小賣商といふが如き仲介者を除くために消費組合を組織せしめ、若くは公設市場を改善して著しく物價を低廉ならしむるとは都市社會問題として大いに研究せねばならぬ所のものである。然し此等の問題を一々研究することは容易の事でないから、私は其内特に二大問題を選んで比較的詳細に之を論じて見たいと思ふ。即ち土地問題と家屋問題の二である。家屋問題は直接貧民の生活に大なる關係を有するものであるからその重要なことは何人も之を拒む事は出來ない。而して土地問題も家屋問題に對して密接なる關係を有するものであるから、私

土地問題

は先づ其根柢たるべき土地問題を初めに説明することにした。

土地は全國に共通なる問題であつて、必ずしも都市に限られたものではない。故に一般的に見た土地問題は第五編第四章第二節に於て税制問題を論じた時之を説明したのであるが、都市に於ける土地問題は一層重要な性質を有して居るのであるから、此場合に於て特に之を論ずることにする。何人も知れるが如く人口の増加に比例して地價は騰貴するのであるが、其結果大都市に於ける地價の騰貴は實に驚くべきものである。而して地價の騰貴が種々なる社會問題を惹き起すことは何人も容易に之を認めることが出来る。都市に於て一小區域の土地に多數の住宅が建築されるが如きことも全くこれが爲であつて、住宅の密集は衛生上及風紀上恐るべき結果を生ずることになる。故に都市の改善を謀る者は先づ土地問題に着眼することが必要である。以下土地問題を論ずるに當り私は土地所有權と地稅といふ二の立場から考へて見たいと思ふ。

土地の私
有

私共は空氣及び水の如き自然物を個人の財産となす事の不都合なるが如く土地を私有することも同じく不當であることを信するのである。若し私共が勞働して得た所のものを自分の所有とするのであるならば、是には相當の理由があるけれども、土地の如き勞働の結果でない物を一個人が占領するといふことは如何なる點から見ても辯護の出來ぬことである。土地は私共の生活に必要なのみでなく、私共の幸福にも缺くべからざるものである。土地は天が私共に與

へた物であるから、これを自由に使用するのは私共の権利である。然るに今日に於ては小數の人々が之を所有し、地代を拂ふにあらざれば何人にも之を使用せしめぬことになつて居る。野蠻時代に於て土地の供給が殆ど無制限であつた時には人々が各々入川の土地を所有することも差支はなかつたのであるが、今日の如く人口の増加したる時代に於て土地所有權を許し、地主をして各々其繩張りを設定せしめ、他人の其中に入來ることを排斥せしむるが如きは決して好ましき所の制度ではない。此等の點から見て土地國有論は正當なる説であるが、殊に都市に於て何人も痛切に其の必要を認めるのである。我東京市は人口二百三十萬を有して居る。然も東京市に於ける土地所有者の數は僅に二萬人に過ぎない。若し一家族の人數を平均五人とすれば十萬の市民は自分の所有地に住居してゐるけれども、二百二十萬の市民は何れも借地に住居して居るといふ有様である。若し二萬人の地主が其の土地を貸す事を拒んだならば、借地人たる市民は何れも市外に放逐される事になる。私共は幸にして斯の如き災を免かれて居るけれども、その代りに少なからぬ地代を拂うて居ることを忘れてはならぬ。而もその地代なるものは年々歳々甚しき割合を以て増加してゐるのである。地主が一度其土地を所有すれば、彼は何等の勞力を用ひずして年々その土地より生ずる所の地代を増加することが出来る。何故に都市の地代が年々増加するかといふに、是は全く人口の増加に原因して居るのである。斯の如くして地主は都市膨脹の爲に莫大の利益を得て居るのであるから、經濟學者は之を稱して不勞增收と言ふの

である。恰も私共の身體に寄生して居る蠅蟲が私共の營養分が増加すればする程益成長するのと同じ様に地主は都會膨脹の結果その營養の大部分を吸収してゐるのである。若し東京市が自ら市内の土地を所有してゐたならば、人口増加による地代の増加は全部これを自らの所有となすことが出来る。「第十一回東京市統計表」によれば市内に於ける土地一坪の地代は一年平均三圓六十錢であるから、私有地から生ずる地代の總額は約四千七百萬圓となるのである。而して東京市の地代は毎年少なくとも一割位の増加をなしてゐるのであるから、之から生ずる所の財源だけでも毎年約五百萬圓の増収を見ることが出来る。然るに今日の如き土地私有制度が行はれて居る限りは殆ど地代の全部が二萬人の地主に吸収されて居るのは免かれることの出來ぬ運命である。故に都市問題を研究するに當り先づ解決すべき問題は如何にして地主といふ階級を廢止すべきかといふことである。

よし市内の土地を一舉に市有にすることが出来ないとしても、都市は出來得るだけ多くの土地を買收し、漸次市有を實行するといふ政策を取らなければならぬ。然るに我國の都市は斯の如き問題に對して極めて冷淡である様に思はれる。大正二年に於ける東京市の市有地は二十五萬二千二百十三坪であるが、其内道路及堤塘を引き去れば、僅に二十二萬六千五百五十七坪である。之を東京市の全面積に比すれば單に百分の一に過ぎない。我國の都市は此點に於て大いに獨逸に學ぶ所がなくてはならぬ。獨逸の諸都市は市内及市外に於て大なる面積の土地を所有し

市 獨逸の都

て居るのであるが、此處にはたゞ市内に於ける所有地に就てのみ述べることにする。市内に於ける所有地の面積を市全體の面積に比較して言へば、ベルリン市の所有地は十分の一以上に達し、プレスロー市は約四分の一、フランクフルト、アム、マイン市及びライプチヒ市は約三分の一、シユテツテン市は二分の一以上である。是は單に三四の例を挙げたに過ぎないのであるが、獨逸の都市にして多くの市有地を所有してゐないものは殆ど一もないといふ有様がある。而して何れの市にも土地買収課が設けられ、賣地さへあれば市自ら之を買収することになつて居る。プレスロー市は一八八〇年から一九〇八年に至る二十八間に於て土地買収のために三千萬マートを費し、ベルリン市は一九〇一年から一九一一年に至る十年間に於て三億五千萬マートを費したのであるが、其内二分の一は市内の土地買収費であつた。東京の如きは土地買収どころではなく、折角自らの努力によりて埋め立てた芝浦及深川の市有地さへも賣却せんとして居る。實に近眼的政策ではないかと思ふ。

土地買収とか土地の市有とかいふ問題は寧ろ根本的解決法であるから、これを市の當局者若くは中央政府の當局者に要求する事は困難であるかも知れないが、之に比すれば尙容易に實行する事の出来る問題が残つてゐる。若し當局者が歐米諸國に於けるが如く五年若くは十年毎に地價修正を行ふことが出来るとしたならば、土地問題に關する不公平は幾分か之を矯正することが出来る。我國に於ては數年前一度地價修正を行つたのみであつて、維新以來殆ど之を實行

地價修正

しなかつた様である。これがため税制といふ立場から見ても多くの不公平が公然見逃される様になつた。我國全體を通じて田畑の地價は法定價の十倍位に増加して居るに拘らず、之に對して何等の修正も行はれてゐない。これがため地主は何れも當然納むべき地稅に對し僅に其一割乃至二割を納めて居るに過ぎない。而して斯の如き不公平は都會に於て殊に著しく之を見ることが出来る。今東京市の地價に就き少しく説明して見たい。明治三十八年に於ける東京市内の宅地は一千一百五十四萬九千五百十坪であつて、之に對する法定地價は一千七十萬九千八百圓であつた。即ち一坪に對する法定地價は平均僅に九十二錢に過ぎなかつた。其當時に於ては本所區の一部に一坪一錢五厘といふ法定地價を有する住宅地のあつたことを記憶して居る。其時に於ける實際の賣買價が既に十圓以上であつたことを考ふれば、我政府當局者が土地問題に對して如何に無頓着であつたかを想像することが出来る。其後政府も地價修正の必要を感じ、數年前之を實行することとなつた。め、今日は以前の如き不公平が幾分か矯正される様になつた。大正二年の統計によれば東京市内に於ける宅地の面積は千二百二十六萬九千四百七十六坪であつて、之に對する法定地價は九千四百三十三萬四千五百二十五圓七十六錢となつた。即ち一坪に對する法定地價は七圓六十六錢である。即ち地價修正の結果市内に於ける宅地の地價は一躍八倍以上に増加したのである。然し私共は數年前に行はれたる地價修正すらも甚だ姑息的であつた事を考へざるを得ない。若し東京市内に一坪七圓六十錢の土地があるとしたならば何人も其

の低廉なるに驚くことであらう。今日に於ては市に接近したる郡部に於てすら二十圓以下の土地を見出すことは殆ど不可能である。然らば市内に於ける土地が實際如何なる相場を以て賣買されて居るかと言へば、之は概略地代によりて算出することが出来る。前に述べたるが如く東京市内に於ける宅地一坪の地代は平均一年三圓六十錢である。若し市場に於ける金利を年六分と見積れば、三圓六十錢の利子を生ずるには六十圓の元金がなくてはならぬ。換言すれば市内に於ける宅地一坪の賣買價は六十圓である。然らば今日に於ける實際の地價は少なくとも法定地價七圓六十六錢の約八倍であることを知ることが出来る。前に述べたるが如く地主は土地の私有によりて莫大なる不勞增收を得て居ると同時に、地價修正の行はれないために莫大なる納税の負擔を免かれて居るのである。

人口稠密をもつて知られて居る東京市内に於て尙田畑、山林、原野等の名目を以て少なからぬ土地の存在して居ることは何人も意外に思ふ所のことであらう。而して此等の土地に關して大なる不公平の行はれて居ることは充分に之を市民全體に知らしむる必要があると思ふ。多くの貴族貴豪が其所有地を此等の名目の下に届け出で、多くの租税を免かれんとして居ることは苦々しきことであるが、これを看過して居る政府當局者の不注意も決して許すべからざることである。若し此等の土地を賣却せんとするならば、之によりて平均六十圓の收入を得ることは容易であるに相違ない。然も此等の土地に對して政府が評定したる地價は實に驚くべしと言ふ

脱税

よりも、寧ろ滑稽であると言ふのが至當であるかも知れぬ。私は『第十一回東京市統計表』により左に法定地價を示すことにする。同時に之を明治三十八年のそれと對照することにする。

	大正二年	明治三十八年
田	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
畑	五、〇〇〇	五、〇〇〇
山林	一、〇〇〇	一、〇〇〇
原野	五、五六	六、六三
池沼	二、二二	六、六七

東京市内に於ける住宅地内の田畑及森林等を田舎に於けるものと同一の價を附することは非常識極まる話である。市内に於ける庭園内の山林が一坪一錢の法定價を有するといふことは決して公平のこと、は思はれない。數年前地價修正の行はれた時何故此點に就いて一大改革を斷行しなかつたのであるか。然も地主は之がために脱税を企て、居るとの非難を招き、當局者もまた其怠慢の責を免かれることが出来ないではないか。更に驚くべき事は明治三十八年に於ける原野の法定地價が六厘三毛であつたのを地價修正の結果五厘六毛に減じ、池沼の法定地價六厘七毛を二厘二毛に減じて居ることはいよゝゝ以て奇怪千萬である。而して此等の脱税地が東京市内に於て八十三萬四千二百六十坪に達して居るといふことを思へば、これは決して棄ておくべき問題でない。此等の土地に對する現在の法定地價は僅に四萬七千八百十二圓であるけれど

も若し之を宅地と同様に(實際宅地の一部である)一坪六十圓の價を附すれば地價は忽ち五千五萬五千六百圓となるのである。東京市が財源を得るために將來庭園税を起すべしと云ふ議論も屢々聞くのであるが、以上述べたるが如き脱税を防止さへすれば、庭園税によるよりも一層多く収入を得ることが出来るかも知れぬ。勿論私は單に利益問題の上から脱税に反對するのではない。私は寧ろ公平といふ見地から斯の如き不都合なる事實の存在を除去することに努力したいと思ふのである。

歐米諸國の都市は凡そ五年毎に地價の修正をなすのであるから、之によりて市の歳入は著しく増加することになる。若し我東京市に於ても法定地價を賣買地價に接近せしむることが出来るならば、中央政府も東京市も之によりて著しく収入を増加することが出来る。我國に於ては地租は國税として中央政府の收入となり、市町村は單に之に對して附加税を課するだけの權能を有して居るのである。大正二年の統計によれば中央政府が國税として東京市から得た所の地租は僅に二百三十五萬四千七百二十三圓に過ぎない。私が前に示したるが如く東京市の地價を實際の賣買價に修正すること、なれば、其結果地租は八倍となるのである。中央政府は之によりて一千八百八十三萬七千七百八十四圓を得るのであるから、一躍して一千六百四十八萬三千六十一圓の増収を見る事になる。これと同じく東京市も亦少なからぬ歳入の増加を得ることが出来る。大正二年に於ける東京市の市區改正特別税の内地租割は僅に二十二萬六千三百六十八

地價修正
と地租増

地價と不
勞増收

圓であつたが、若し地價修正の結果地租が八倍となつたならば、東京市の得べき地租割は直に百八十一萬九百四十四圓となる。即ち百五十八萬四千五百七十五圓の増収を得ることになる。之によりて見るも中央政府が地價修正を怠つてゐるといふことは單に不公平なる行爲であるのみならず國家のためにも東京市の爲にも大なる損失となつて居る。私共が市政を論ずるに當り先づ土地問題に留意せねばならぬことは明な事である。

大都市の地價が年々驚くべき増加をなしつゝ、あることは何人も知れる所の事實である。東京市及大阪市に於ても既に或區域に於ては一坪二千圓といふ地價を有する土地を生ずる様になつた。然しロンドンやニューヨーク市に於ては一坪四萬圓の價を有する土地のあることを思へば、我國に於ける土地が將來に於て尙驚くべき騰貴をなすべき餘地のあることは明である。而して此等の地價増加が全く都市膨脹の結果であつて勞働の結果でないといふ事は私共が充分に記憶せねばならぬことである。都市の地價が如何なる速度を以て増加しつゝ、あるかを示すためにニューヨーク市の實例を引證することにする。同市の地價は一九〇四年から一九〇八年に至る四年間に於て七億八千六百萬四千三百七弗の増加を來したのであるから、一年毎に約二億弗の増加を來したのである。次に一九〇八年から一九一一年に至る三年間に於て地價は七億一千二百七十五萬九千七百八十弗、即ち一年毎に二億三千七百五十八萬六千五百九十弗の増加を來したのである。我東京市に於ては最近十四五年間に於て殆ど二十倍以上の騰貴をなした所の土地が

少なくない。殊に郡部に接近したる土地が驚くべき地價を有する様になつたことは何人も知れる事實である。斯の如く増加したる所の地價を個人に占有せしむるといふことは極めて不公平なることであるから、出來得るだけ之を都市の收入となし、其利益を市民全體に領つといふことが必要である。

五年若くは十年毎に地價の修正を行ひ、その結果地租を増徴するといふことは前に述べた通りであるが、是のみにては未だ満足なる土地政策といふことは出來ない。假に所有地によりて地主が收めて居る所の地代が百圓であるとする。而して彼は之に對して十圓の地租を納めて居るとする。然るに地價増加の結果彼が二百圓の地代を得るに對し二十圓の地租を納めるとせんか、彼は地價増加の結果結局二倍の不勞增收をなすことになる。勿論中央政府若くは市町村は之によりて二倍の地租を得るのであるけれども、地主が得たる九十圓の不勞增收に對しては何等適當の處分をして居るのではない。極端に言へば市及中央政府は不勞增收の全部即ち百圓を租税として徵集することも出来る。よし之を實行しないとしても、この不勞增收に對して幾割といふ租税を課することも決して不當なことでない。現に獨逸に於ては何れの都市に於ても地價の増加に對して或程度の課税を試みて居る。これが即ち地價増加税と稱する所のものである。之を約言すれば地價増加税は地價の増加に對してその幾部分を中央政府若くは地方政府に納むる所の地租をいふのである。獨逸が土地政策に於て何れの國にも勝つて居ることは前にも述べ

地價増加
税

地價増加
税の起源

た通りであるが、地價増加税の如きは我國に於ても速に之に倣はねばならぬと思ふ。私は以下詳細にこれが説明を試みることにする。

一八九三年プロシヤ政府は地方税徵集法を公布するに當り地價増加税が地方費の財源として最も適當なることを指摘したのであつた。然るに之を先づ實行したのは獨逸の諸都市にあらすして其の占領地たる膠洲灣であつた。同地の經營には莫大なる費用を要したのであるから一八九八年獨逸政府は最も適當なる財源として地價増加税を實行すること、なつた。獨逸國內に於て最初に之を實行したのはフランクフルト・アム・マイン市であつて、それは一九〇四年のことであつた。而してコローン市もその翌年に至り之を實行することになつた。斯の如くして之を實行した所の都市は一九〇七年未までに十一に達した。更に一九一〇年四月一日までにこれを實行した所の市町村は四百五十七の多きに達した。其内百六十三はプロシヤに屬する都市であつて更に之を分類すれば人口十萬以上の都市が二十七、人口二萬以上十萬以下の都市が七十二、及び人口五千以上二萬以下の都市が六十四であつた。ベルリン市は一九〇七年の市會に於て一旦地價増加税案を否決したけれども、一九一〇年三月には遂に之を可決することになつた。その通過に當りベルリン市長は次の如き意味の演説を試みたのである。『私は諸君が地價増加税案に對して誤解を抱く様なことを祈る。よし此法案が不幸にして否決される様なことがあつても、私は早晩是が採用される様になることを信ずる。諸君は到底時勢の赴く所には

反抗することは出来ない。諸君は監督官廳が此の課税法を採用すべきことを指示したのみでなく寧ろ私共に強請したことを記憶せねばならぬ。若しベルリン市會が他の課税法を採用するに至らんか、政府は必ず何故に私共が地價増加法を採用しなかつたかを質問するに相違はない。今や經濟學者の大多數は熱心に此の課税法に賛成し、且つこの實行運動は社會の各方面に普及して居る。』

私は地價増加税が如何なる方法に於て實施せられて居るかを示すためにプレスロー市が實行して居る所の税率を示すことにする。

地價増加額	課税率
一割以上二割以下	六
二割以上三割以下	八
三割以上四割以下	一〇
四割以上五割以下	一二
五割以上六割以下	一四
六割以上七割以下	一六
七割以上八割以下	一八
八割以上九割以下	二〇
九割以上十割以下	二二
十割以上	二五

此表によれば地價増加額が一割以上二割以下なる時は其の増加額に對して六分の租税を納めることになる。之を具體的に説明すれば次の如くである。若し一坪の地價が五年間に百圓から百十圓乃至百二十圓に増加したとするならば、十圓乃至二十圓は即ち地價増加額である。而して地主は之に對して六分の増加税を納めるのであるから、十圓の場合には六十錢、二十圓の場合には一圓二十錢が増加税である。若し又一坪の地價が百圓が二百圓に増加したる時は、十割の増加となるのであるから地主は増加税として二割五分即ち二十五圓を納めることになる。獨逸に於ては地價増加税を徵集することに於て先鞭をつけたのであるが、その課税率に至りては餘りに保守的ではないかと思ふ。私が屢々述べたるが如く地價の増加は不勞增收であつて全部を都市の收入とすることが原則である。然るに十圓の不勞增收に對しては僅に六十錢を徵集し、百圓の不勞增收に對してすら二十五圓を徵集するといふことは餘りに地主に對して遠慮してゐるのではないかと思ふ。然し他の歐米諸國をはじめとし我國に於ても全く不勞增收に對する政策を定めてゐないことを思へば、私共は獨逸の政治家に對し多くの敬意を拂ふことを躊躇しないのである。

地價増加税の成績は極めて良好であつた、め獨逸帝國政府は之を國税となさんとする案を一九〇九年の議會に提出したのであるが、一九一一年の二月遂に議會を通過して法律となつた。今その課税率を示せば左の如くである。

國税として
の地價
増加税

地價増加額	課稅率
一割以上三割以下	一・〇
三割以上五割以下	一・一
五割以上七割以下	一・二
七割以上九割以下	一・三
九割以上十一割以下	一・四
十一割以上十三割以下	一・五
十三割以上十五割以下	一・六
十五割以上十七割以下	一・七
十七割以上十九割以下	一・八
十九割以上二十割以下	一・九
二十割以上二十一割以下	二・〇
二十一割以上二十二割以下	二・一
二十二割以上二十三割以下	二・二
二十三割以上二十四割以下	二・三
二十四割以上二十五割以下	二・四
二十五割以上二十六割以下	二・五
二十六割以上二十七割以下	二・六
	二・七

二十七割以上二十八割以下
 二十八割以上二十九割以下
 二十九割以上

二・八
 二・九
 三・〇

而して其の徴集したる租稅の内五割は帝國政府、一割は聯邦政府、四割は市町村の收入となるのである。此の租稅より得たる所の收入は一九一二年に於て四千七百萬マークであつた。市町村は更に必要に應じて地價増加稅に對する附加稅を課することが出来る様になつて居る。尙この法律の實施以前に於て既に地價増加稅を徴收しつゝ、ある市町はそのまゝにて之を繼續するこゝとが出来る様になつて居る。

獨逸に於ける都市は殆ど全部地價増加稅を實施して居るのであるが、今その大都市が之によりて幾許の收入を得て居るかを示すことにする。

都市名	收入額
ベルリン	一、二三三、〇〇〇
シャルロッテンブルヒ	五八〇、〇〇〇
ヘムニッツ	四二四、〇〇〇
コローン	二三〇、〇〇〇
エツゼン	九三八、〇〇〇
フランクフルト・アム・マイン	三七六、〇〇〇
ライプチヒ	九四六、〇〇〇

大都市の
 收入

ノイケルン	五二四、〇〇〇
セーネベルヒ	八一八、〇〇〇
ドルトムンド	三九二、〇〇〇
ハノヴァー	二七四、〇〇〇

土地問題
の根本解
決

如何なる點から見ても土地國有は最も重要にして且つ有利なる政策である。然し經濟學者の中には土地國有に對して反對を唱へるところの者が少なくない。但し都市に於ける土地を市有とすべきとに就ては經濟學者の中にも賛成する所の者が少なくない様である。今日の如き都市が果して永續するものであるか否かは疑問である。都市は何れの點から見ても人類の居住地としては理想的でない。若し將來を豫測することが出来るならば、私は今日の都市が漸次その大きさを減することになるであらうと思ふ。今日の如き大都市の存在して居ることは全く現代に於ける經濟組織の結果であるから、若し將來に於て資本家的經濟組織が廢止されることになればロンドンやニューヨークの如き大都市の必要がなくなるに相違はない。従つて地價の如きも一坪幾萬圓といふが如き相場を維持することは出来なくなると思ふ。然しこれは數十年若くは數百年後に來るべき問題であつて、私共は先づ今日の都市に對して最も適當なる政策を講ずる外はない。土地問題に對する應急的政策としては地價の修正も必要であり、土地増加税の如きも多少有效であるに相違はないが、之を以て土地問題を根本的に解決する事は到底不可能の

ことである。私共は種々なる方面から見て土地市有の必要を感じざるを得ない。現在の都市に於けるあらゆる問題は多く人口の密集といふことから生ずるのであるから、先づその根本的原因である土地の私有制度と地代の騰貴とを防禦する策を講ぜねばならぬ。これが爲には土地の市有を斷行することが最も適切なる方法であると信ずる。

第二章 住宅問題

住宅數と
住宅衛生

都市社會問題に於て論ずべき第二の問題は住宅である。私共の生活には衣食住といふ極めて重要な問題が附隨して居るのであるが、暫く個人的立場を離れ、團體的立場から考へて見るならば、住宅問題は社會全體にその影響を及ぼす點に於て最も注意を要する所のものである。而して住宅問題に關して私共の考へねばならぬ二方面がある。第一は住宅の數に關する問題である。第二は住宅の衛生に關する問題である。如何に住宅が衛生的に建築されても、其數が不足であれば衛生上恐るべき影響をその住居人に及ぼすことは言ふまでもない。今や歐洲戰爭のために何れの國も住宅の不足に苦んで居るのであるが、英國の如きは戰爭の停止と同時に住宅建築といふ大問題のために非常なる努力を試みて居る。住宅の衛生といふことも多く住宅數の不足に原因して居るのであるから私は先づこの方面から説明をはじめする事にする。

一九二〇年のはじめに於て「ロンドンタイムス」は住宅問題に關する特別號を發行した位であるから、英國に於ける住宅問題が如何に國民の注意を惹きつゝ、あるかを想像することが出来る。何れの國も人口の増加と舊家屋の破壊とによりて年々少なからぬ住宅を新築することを必要とするのであるが、英國に於ては毎年十萬の新築住宅を要すると言はれて居る。然るに殆ど五年間に渉る大戦争のために英國は全く住宅を新築する暇がなかつた。これがために戦争の終結と共に多數の兵卒は歸國することになつたのであるから國民は忽ち住宅の不足を感じ、之を最小に見積りても其の不足数は五十萬に達して居る。一方勞働者側の言ふ所によれば住宅の不足数は約百萬に達して居るといふことである。今日に於て五十萬の住宅を新築するといふことは容易のことでない。三室位を有する所の住宅を新築するには戦争前に於て約三百磅を要したのであるが、今や建築費は殆ど九百磅となつて居る。よし之を最低限の七百磅位に見積つても五十萬の住宅を新築するには三億五千萬磅といふ莫大なる金額を要するのである。以上述べたる所は英國の全體に關する事實であるが、大都市に於ける住宅の不足は最も甚しい様に思はれる。リーズ市の如きは戦争前に於て毎年約三千の家屋を新築してゐたのであるが、戦争中には殆どこれを中止したのであるから今日に於ては住宅の數に大なる不足を告げて居る。即ち一九〇〇年には三千五十九の住宅を新築したのであるが、一九〇一年には三千三十、一九〇二年には二千二百一、一九〇八年には九百十九の住宅を新築するといふ有様であつたが、戦争の開

始以來一九一四年には新築住宅が二百八十七となり、一九一五年には二百二十八、一九一六年には百四十六、一九一七年には五十一、一九一八年には五、一九一五年には四といふ驚くべき減少を來したのである。今や住宅の不足数は五千八百となり、市は新築のために種々なる方法を講じて居る。エデンバラ市も約七千の新住宅を要求して居るのであるから、今後三年間に新住宅三千七百五十を建築することに決して居る。ロンドン市の如きは世界第一の大都市であるだけに住宅の不足を感じることも甚しいのである。然し今後五年間に二萬九千の新住宅を建築することに決したといふ事である

獨逸に於ては住宅及其他の建物の建築に關して嚴重なる法律が制定せられて居るけれども、政府は尙個人の住宅に對して補助を與へるが如きことはない。英國に於ても住宅問題は全く個人に屬すべきものと考へられ、單に住宅の建築に關して多少自治體の干渉を受くべきものであるといふ位に思はれて居るのである。然し歐洲戦争のため住宅問題に對する國家の態度は全く一變することになつた。戦時中物價の騰貴と共に建築費は非常に増加したのであるから、住宅の不足を告げて居るにも拘らず、個人は勿論、自治體さへも自ら進んで住宅を新築するといふ資力がなかつたのである。政府が勞働者のために數千の住宅を新築した例はあるけれども、これは政府が經營して居る軍需品製造工場に働く勞働者の爲めに住宅を供給する必要があつたのである。斯の如く國家の補助を與へなければ一切住宅の新築を見ることが出来ない様になつ

たから、政府は從來の方針を一變し住宅新築のために國庫の補助を與へることを決心する様になつた。

政府の決心

一九一七年七月二十八日政府は各自治體に命じて住宅不足の狀況に就き且つ之に關する彼等の意見をも報告せしめたのであるが、自治體は自ら積極的に住宅問題を解決する資力のないためその返答を躊躇したのである。之によりて政府は明に住宅新築に關し個人及自治體の力にのみ依頼することの拙策なることを知り、一九一八年三月十八日第二回の命令を各自治體に下すことにした。即ち各自治體の選舉したる地方委員には住宅新築地方債を募集する權能を與へ、若しその利拂ひに不足を生じたる時は國庫は其の七割五分を補助し、二割五分は地方税を以て支辨することにした。斯の如くして地方自治體に住宅新築を獎勵したのであるが、英國に於ける自治體千八百の内一千は直に政府の方針に賛成するといふことを返答したのである。政府が斯の如く住宅新築に關して斷乎たる政策を取るに至つたといふには少くこれを説明して置く必要がある。歐洲戰爭のため英國の壯丁は何れも戰場に於て大なる犠牲を拂うたのであるから國家は當然從軍者に對して相當の住宅を供給せねばならぬ。濠洲に於ても從軍者が住宅を新築する場合には國家は指定銀行をして七百磅の資金を貸與せしめ、之に對して年五分の利子を徵集し、五年乃至三十七年間に於て元金を返済せしむる事にしたのである。之を見ても英國政府が勞働階級のために住宅新築に要する補助を與へるに至つたのは決して怪しむべき事でない。

住宅新築法令

一九一九年七月三十日政府は住宅新築法令を發布する事になつた。此法令によれば新に建築せられる住宅は一エーカー(約千二百坪)の敷地に於て田舎は八軒都市は十二軒に制限される事になつた。即ち住宅一個につき田舎に於ては百五十坪、都市に於ては百坪の地積を必要とする事になつた。これは大なる進歩と言ふべきである。何となれば現今人口の密集したる所に於ては一エーカーにつき平均三十乃至四十の住宅を有して居るからである。斯の如くして五十萬の新築家屋に對して少なくとも五萬エーカーの敷地を要するのであるから、中央政府及地方自治體は一九一九年十一月末までに九千ヶ所に於て六萬一エーカーの土地を買ひ、之に對して一千一百万磅を投じたのである。全國を十一區に分ち、各區に地方委員を置き建築の事務を擔任せしむることになつた。住宅新築法令の發布と共に三ヶ月以内に各地に於ける成績を報告することを各自治體に命じたのであるが、其期限内に報告したものは自治體の大多數を占めてゐた。

最近の統計

以上述べたる所の報告書によれば、中央政府が住宅建築を認可したる敷地の數は三千一百六十五、其面積は二萬九千四百三十五エーカーに達した。此敷地に建築せらるべき住宅數は約二十九萬四千であるが、其内既に建築の認可を得たものは六萬三千三百六十二、既に建築に着手してゐるものは一萬六千九百四十である。而して一九一九年十月三十一日までに百六十四の自治體が新築に着手した住宅數は一萬九千八百四十九に達して居る。

斯の如く一度に多數の住宅を新築せんとするに當り最も困難を感ずるのは建築労働者を得ることである。中央政府の調査した所によれば、英國に於ける建築労働者總數の六割は現に住宅の修繕に従事し、三割は公共的建物及工場等の建築に従事して居るのであるから、住宅建築のために彼等を吸収することは容易のことでない。殊に労働者の住宅を建築して多くの利益を得ることは殆ど不可能であるから、建築労働者が此等の工事を好まないのは決して怪しむべきことでない。これがため政府は建築業者に對し一軒の住宅につき百三十磅乃至百六十磅の補助をとでない。これがため政府は建築業者に對し一軒の住宅につき百三十磅乃至百六十磅の補助を與へることにした。其結果十萬の住宅を新築するためにも政府は約千五百萬磅の補助を與へねばならぬのであるから、政府のためには實に一大事業であると言はねばならぬ。

私は住宅數に就てその大體を述べたのであるから、以下主として住宅衛生のことを説明するつもりである。都市に於ける住宅密集の原因が地代の増加にあることは前に述べた通りであるが、家屋の密集は必ずしも衛生上害ありと言ふことは出来ないものである。若し住宅の建築に關する完全なる法律が制定され、且つ充分なる修繕が行はれるならば今日の所謂貧民窟は存在の機會がなくなるかも知れぬ。然し多くの都市は敷地に對して住宅の數を制限してゐないから住宅の密集は必然に行はれる事となる。且つ又住宅の修繕を怠る事となれば中等階級は漸次新しき家屋に轉住すること、なるから、古き住宅には貧民のみが住居する様になる。我國の都市に於て幾許の人口が密集的生活をなして居るか之を示すべき統計がないけれども、ロンドン市に

於ては少なくとも二十萬人が密集した住宅に住居して居ると言はれて居る。而して所謂貧民窟に住居して居る者は其内四萬人位であると思はれる。歐米の都市に於ては數十年前から貧民窟の改造が行はれてゐるから、近年に至りてはその數もその住民も著しく減じて居る。貧民窟は多く一定の區域に制限される様になつてゐるけれども、我國の都市は此の問題に關して今日まで何等着手することがなかつた。其結果我東京市の如きに於ては人々に知られて居る有名なる五六の貧民窟以外殆ど到る處に密集家屋を見ることが出来るのである。然らば如何にして貧民窟の改善を謀るべきであるか。私共は貧民をその一區域から放逐するか、若くは彼等のために家屋の改造を行ふより外はないと信ずる。然し住宅の新築は必ず家賃の騰貴を來すのであるから、此等の住宅は貧民階級のためでなく察ろ中等階級のために占領される傾向がある。其結果單に貧民階級を一區域から他の區域に放逐するに過ぎないこと、なるから、市の當局者は市内に於ける貧民窟の全部を改造するといふ政策を探ることが必要である。

密集的生活と死亡率との關係に就ては充分研究する必要がある。ベルリン市は數十年前此等の調査を試みてその結果を報告したのであるが、何人も之を見て住宅の衛生に及ぼす大なる影響を認めざるを得ない。如何なる都市に於ても貧民階級の中には一家族にして單に一室の内に住居してゐる者が少なくない。或は二室若くは三室に住居して居る者があるけれども、四室若くはそれ以上を有して居るものは極めて少ない。ベルリン市は一家族が有して居る室數により

て人口千人に對する死亡者の數を調査したのであるがその結果は次の如くであつた。一室に住居して居る貧民の間には人口千人に對する一年間の死亡者は百六十三人五分といふ驚くべき數に上り、二室は二十二分五分、三室は七分五分、四室以上は五人四分に減じ、その間に著しき相違のあることを見たのである。最近に至りグラスゴー市は同一の調査をしたのであるがその結果は次の如くであつた。即ち人口千人に對する一年間の死亡者は一室が二十五人九分、二室が十六人五分、三室が十一人五分、四室が十人八分である。これをベルリン市の調査と比較すれば一室の場合に於ける死亡率が著しく減じて居る。これは兩者の調査の間に約二十年間の相違があるためである。兎に角密集生活が市民の衛生に恐るべき影響を及ぼすことは充分に之を了解することが出来る。以上述べたる所は極めて極端なる例を示したのであるけれども、若し都市に於ける生活を普通區域と密集區域との二に分つなれば後者の死亡率が前者に比して約二倍に達してゐることを發見するであらう。然らば都市は之に對して如何なる政策を探るべきであるかといふに、私は家屋の密集を防止する方法として衛生上の規定を設けるより外はないと信するのである。例せば前に述べたるが如く英國の住宅新築法令が一エーカーの敷地に對する住宅の數を制限したるが如き、或はベルリン市が建築敷地の三分の一を空地として残すべきことを規定して居るが如きである。東京市は幸にしてベルリン市の建築規定に合格して居るのである。何人も東京市の住宅が餘りに密接して居る様に考へるかも知れないけれども、市内十五

區に於ける住宅の有様を見れば平均三分の一以上の敷地が空地として残されて居る。たゞ京橋區のみが例外であつて、住宅は殆ど敷地の八割五分を占めて居るのである。此見地から言へば東京市の家屋問題は密集といふことよりも寧ろ換氣採光といふが如き衛生的方面に最も多く注意すべきであると思ふ。但し貧民窟の場合に於ては住宅密集といふことに就ても大に改善せねばならぬことと言ふまでもない。殊に一室に於ける群居を取締ることは極めて必要なことと思ふ。グラスゴー市は群居の虞ある住宅に對して各室につき幾人の宿泊を許すべきかを定め、その人員數を各室の人口に掲示して居る。而して市の巡廻委員は時々各室を巡廻して宿泊人の數を調査し、若し規定に違背してゐる者があれば之を罰することになつて居る。我國に於ても何等かの方法を以て住宅の密集及び住人の群居を取締ることが必要である様に思はれる。

労働者が自ら働く所の工場の附近に住居することは極めて便利である。彼等は工場に於て少なくとも八時間の労働をなさねばならぬのであるから、工場に通ふため多くの時間を費すことは彼等の休息時間を奪ふこととなる。然し今日の如く地代の騰貴及び家賃の増加が年々甚しくなる時に於て尙ほ彼等に都市生活を要求することは果して得策であるか、私は之に對して大に疑問を有してゐるのである。若し電車の改善が行はれたならば、労働者が郡部に於て住居することはあらゆる點から見て利益ではないかと思ふ。私が言ふ所の電車の改善は一方に速力を増加すること、一方に電車賃を低廉にすることである。若し電車の改良が行はるれば、郡部から

市の中心まで来るに二十分乃至三十分の時間を以てすれば充分である。更に將來に於て都市が市内に工場の設立を許さぬこと、なり、工場が盡く郡部に移轉すること、なれば、一層容易に此問題を解決することが出来る。何れにしても汽車若くは電車の改善を行ふことは労働者のためにも都市全體のためにも大なる利益である。私はベルギーの實例を引照して運輸機關の改善が決して不可能でないことを説明して見たい。白耳義に於ては労働者の多數が田舎に住居し、毎日工場に通ふことになつて居る。比較的工場の近くに住居してゐる者は自轉車にて通勤し、十里乃至二十哩を隔てたる所に住居してゐる者は汽車の便によりて通勤することになつてゐる。労働者のためには毎日朝夕二回づ、特別列車を運轉することになつて居り、且つ其乗車賃が極めて低廉であるから、労働者の多數は比轉的遠距離の地に住居して居る。これがため彼等は乗車賃といふ特別の支出をなして居るけれども、都會に於けるよりも低廉なる家賃を拂つて居るのであるから、決して彼等の負擔を増加することにはならない。殊に彼等の多數は住宅の所有權を有して居るのであるから、住宅附屬の庭園に於て野菜を作り、或は鶏、豚、牛などを飼ふことも出来る。斯の如くして彼等は衛生上にも亦財政上にも少なからぬ利益を得て居るのである。

住宅の所有權

労働者が何時までも借家生活をして居るといふことは決して望まじき事でない。労働者の住宅を改善することは最も必要なることに相違はないけれども彼等をして住宅の所有權を得せし

むることは更に必要なることである。白耳義は此點に於ても私共に最もよき實例を示して居る。白耳義の労働者は住宅建築のために低利の資金を借り入れることが出来るのみならず、之を年賦償還法により返済することが出来るのである。中央政府は各地方にある産業組合に低利の資金を供給するのであるから、産業組合も亦低利を以て之を労働者に貸しつける様になつて居る。假に労働者が一千圓を以て若干の土地を買ひ更に住宅を建築するとすれば、彼は産業組合に至りてその資金を得、之に對して毎年七十圓を拂ふのである。斯の如くして負債に對し年七分の利子を拂ふことになれば、四十五年の後に於てその住宅は彼の所有となるのである。而して年七分の利子といふ内には元金に對する利子四分と元金償還に對する拂込金二分五厘と千圓の生命保險に對する掛金五分が含まれて居る。若しその労働者が數年の後不幸にして死去する場合には彼の遺族は生命保險金として千圓を受取ることになるから、之を以て負債の全部を償却することが出来る。斯の如くしてその遺族は完全に住宅の所有權を得るのである。今やこの方法によりて労働者のために新築された住宅の數は三萬に達して居るといふことである。

田園都市

我國に於て近年田園都市を設けんとする計畫が大都市の附近に行はれて居る。これも亦都市に於ける住宅の密集を防止する一の方法であると言ふことが出来る。東京市の附近には玉川電車に沿つて新町といへる田園都市が既に設けられて居る。更に玉川の附近に於ても大なる田園都市が計畫されて居るといふことを聞いて居る。大阪市の附近に於て最も成功して居るのは箕

面有馬電車に沿うて設計された所の田園都市である。電車會社は鐵道の兩側に於て多くの土地を所有して居るから、人々の要求に應じその土地を賣却するのみでなく注文に従つて住宅をも建築することになつて居る。而して住居人はその土地及び住宅に對する代價を十ヶ年賦にて償還するのである。斯の如き方法が漸次我國に於て實行せられるやうになれば、これによりて都市社會問題の一部を解決することの出来る事は明である。今日までは田園都市の利益が單に中産階級のみに限られて居るけれども、將來之を勞働階級に及ぼすことが出来る様になれば、私共は確に白耳義に於けると同一の好結果を得ることが出来ると思ふ。然し勞働者のために田園生活の便宜を與へるには或程度まで國家の援助を必要とする。白耳義政府が勞働者の爲に住宅の新築を奨励する目的を以て低利の資金を供給して居ることは前に述べたる通りであるが、低廉なる乗車賃を以て勞働者のために運輸の便宜を與へて居ることも亦政府の援助であることを記憶せねばならぬ。何となれば政府は自ら損失を招きて勞働者の乗車賃を引き下けて居るからである。

住宅が私共の生活に大なる影響を及ぼすことは殆ど想像以上である。狭き不潔なる住宅は單に衛生上危害を及ぼすのみでなく道徳上にも恐るべき結果を生ずるのである。東京市に於ける貧民窟の生活は實に慘澹たるものである。彼等の多數は四疊若くは四疊半の一室に住居して居るのであるが、彼等は少しにても家賃の負擔を軽くせんがために往々家族以外の人をも宿泊せ

住宅と生活の改善

しむるのである。下谷區山伏町の「いろは長屋」に於て四疊半の一室に八人の住居人があることは極端なる一例であるけれども、此等の一室に四五人の者が宿泊して居ることは通常のことである。斯の如き境遇の中に在つて適當なる衛生と風儀を保つといふことは決して容易なことではない。故に貧民の状態を改善せんと思ふならば先づ住宅の改善といふことから着手せねばならぬ。或人は貧者が好んで不潔なる家屋の内に住居するのであると論じて居るけれども、これは決して貧民の心理を了解した所の議論ではない。若し低廉なる家賃を以て清潔なる住宅を得ることが出来るならば、彼等は必ず争うて其處に移轉するに相違はない。勿論住宅の改善は必ず家賃の増加を來すに相違ないけれども、今日の如く勞働者をして家賃の低廉なる住宅を撰擇せしむることは彼等のためにも社會全體のためにも甚だ恐るべきことである。私共の生活には何れの方面に於ても最低限度がある。而して私共の生活はその限度を下ることを許さない。例せば勞働者の要求する休息にも最低限度がある。若し私共の生活に平均八時間の睡眠と、娯樂或は修養に對して八時間の休息が必要であるとすれば、これが最低限度であつてこれ以上に時間を短縮することは出来ない。私共の教育に就ても同様である。若し國民生活をなすために六年間の小學教育が必要であるとすれば、これが最低限度であつて、これ以下に教育年限を短縮することを許さない。食物及衛生に就ても同じく最低限度のあることは何人も之を認めねばならぬ。今日の貧民生活は果して最低限度以上にあるといふことが出来るであらうか。若し四疊

半の一室に於ける群活生活が衛生上から見た最低限度を下つて居るとしたならば、私共は之を引き上げるために努力しなければならぬ。住宅の改善は家賃の騰貴を來し、其結果勞働者の賃金を増加せねばならぬ。若し賃金の増加が已むを得ぬとすれば社會は當然之を負擔しなければならぬ。今日の經濟組織に於ては貧民の生活は全く賃金の多少によりて定まることになつて居る。然し人を人として取扱ふことになれば、勞働者の生活は最低限度といふ標準によりて定まるのが當然であると思ふ。私は社會問題の理想が確にこの點にあることを信ずる。

第三章 農村荒廢の原因

農家の荒廢を論ずる所の人は多くその原因を農村の青年が都會に移住することに歸して居るけれども、これは大なる見當違ひである。世界各國の有様を見れば、外國移住といふことよりも農村から都市への移住といふことがより多く行はれて居ることは充分に之を知ることが出来る。都會の膨脹は前世紀から今世紀に繼續して行はれてゐる所の一大現象であるが、我國も亦同一の徑路を辿つて居る。言ふまでもなくその原因は世界全體に於ける商工業の發達といふことにある。而して農村に於ける人口の減少が果して農村荒廢の原因となつて居るか否かは必ずしも各國に於て同様ではない。英國の如きに於ては農村に於ける人口の減少が明に農村荒廢の

農家の戸數

原因となつて居るけれども、我國の事實は全く之と異なつて居る。先づ第一に考へねばならぬことは我國の總人口に對する農村人口の割合である。私は左に統計表を掲げて我國の農家が全人口の半分以上を占めて居ることを示すことにする。

	總 戸 數	農 家 戸 數
明治三八年	八、四八六、七七二	五、三七九、九六九
大正四年	九、七二九、七三三	五、四五三、九六九

之によりて見れば農家の戸數が全戸數の半分以上を占めて居ることが出来る。之を百分率にて表せば明治三十八年に於ける農家の戸數は總戸數百に對して六四、三八であり、大正四年に於ける割合は總戸數百に對して五六、〇五である。斯の如く明治三十八年に比すれば大正四年に於ける總戸數は約百二十萬戸の増加となつてゐるけれども、其割合からいへば明治三十八年に於て總戸數の六割五分三厘九毛を占めてゐた所の農家戸數は大正四年に於て五割六分五毛に減じて居る。然し農家の戸數が總戸數に對して五割六分五毛の割合を占めて居ることは殆ど文明諸國に於て之を見ることの出来ない事實である。勿論商工業の發達してゐない後進國に於ては更に我國よりも甚しき實例を見ることが出来るけれども、英米獨佛等の諸國に於ては總戸數に對する農家の割合は我國よりも著しく少ないのである。

私は歐米諸國に於ける總戸數に對して農家の戸數が占めて居る所の百分率を左に示すことに

歐米諸國との比較

する。

イギリス	一五・三	愛蘭	四四・七
イタリア	六〇・九	白耳	二二・七
フランス	八二・六	丁抹	四八・二
ドイツ	四二・七	獨逸	三五・二
和蘭	三〇・七	匈牙利	六九・七
以太	五九・四	露西	五八・三
瑞西	三〇・九	米亞	三二・九

我國よりも大なる百分率を示して居るものはブルゲリア、匈牙利、埃太利、以太利、及び露西亞である。而して丁抹、愛蘭土の如きは殆ど我國に等しき百分率を示して居るけれども、一等國と稱せられる英米獨佛の諸國は遙に我國よりも少き百分率を示して居るのである。或意味に於て農家の百分率が少ないことは其國の發達を示して居るものといふ事が出来る。米國の如き國に於てすらも百年前には農家の戸数が大部分を占めてゐたのであるけれども、國運の發達と共に農家の戸数は著しく減少することになつた。此等の事實によりて見れば我國農村の荒廢は人口の減少といふよりも寧ろ其多きに原因して居るといふことが適當であると信ずる。而して農家の戸数が餘りに多いといふことは種々なる點に於て農村荒廢の原因となつて居る。私は今此點に就て少しく説明を試みる積りである。

耕作地面積の平均

大正四年の統計によれば我國の耕作地面積は合計五百八十五萬九千三百二十六町歩であつて、其内二百九十六萬五千五百六十六町歩が田地であり、二百八十九萬三千七百六十町歩が畑地である。而して農家の戸数は五百四十五萬三千九百六十九であるから、全國に於ける農家一戸に對する耕作地面積の平均は僅に一、〇七四町歩に過ぎないのである。而もこの平均面積は北海道の如き比較的平地面積の大なる所をも包含して居るのであるから、本洲に於ける平均面積は一町歩に達してゐない所が大部分を占めて居る。これは左の表によりて知ることが出来る。

區名	耕作地平均面積
北海道區	三、九四三
東北區	一、五〇二
關東區	一、〇五五
北陸區	一、一〇五
東海區	〇、七八八
近畿區	〇、七三四
中國區	〇、七三六
四國區	〇、八八五
九州區	一、〇五〇
全國平均	一、〇七四

以上述べたる所は地主及び小作人の區別なくすべての農家に對して耕作地を割當て、其平均を

耕地所有者と耕地面積

得たのであるが、單に地主のみに耕作地面積を割當て、も、一人の所有地面積は決して充分ではないのである。
 若し全國に於ける耕地面積を耕地所有者の數に割當てれば、前に示したる所の統計よりも幾分か増加するのであるけれども、私共はこれによりて樂觀することは出来ない。今その統計を左に示して見よう。

區名	一戸當所有耕地面積
北海道區	四、五二二
東北區	一、六九三
關東區	一、二七八
北陸區	一、二〇四
東海區	〇、九〇二
近畿區	〇、八五三
中國區	〇、八一二
四國區	一、〇一一
九州區	一、一九
全國	一、二〇一

斯の如き小なる耕地面積を以て一家の生計を支へることの出来ないことは明である。白耳義の如き人口稠密なる國に於てすら農家一戸に對する耕作地面積は三町歩と言はれて居る。米國は

極端なる小農制度

新開地であるだけ農家一戸に對する耕作地面積は驚くべき程莫大である。其の平均は百三十八エーカーであつて、即ち我五十七町六反歩に當るのである。此等に比すれば我國の農家が耕作する面積は餘りに少なくしてこれがため我國農家が貧乏の状態にあることは決して怪しむに足らない。
 我國の農家一戸に對する耕作地面積は平均約一町歩であるといふけれども、農家の多數が實際に耕作する所の面積は一層小さいのである。我國には「五反百姓」といふ名稱があるが、僅に五反位の田畑を耕作して居る農家の少なくないことは事實である。今耕作地の廣狹により區別した農家の戸數を百分率によりて左に示すことにする。

耕地面積	百分率
五反以下	三六・四九
五反以上	三三・四四
一町以上	二〇・〇三
二町以上	六・〇五
三町以上	二・七四
四町以上	一・二五

これによりて見れば五反以下の田畑を耕作する所の農家は實に全數の三割六分五厘を占めて居る。更に一町以下の田畑を耕作する者に至つては全數の約七割を占め、三町以下を耕作する者

は全數の約九割六分を占めて居る。即ち我國に於ける農家の三分の一以上は五反以下の田畑を耕作して居るのである。私共は斯の如き極端なる小農制度を日本以外の國に於て見ることが出来ない。勿論我國の農業法は之を他國の其に比して遙に集約的であるけれども、斯の如く極端なる小耕作地を有する場合に於ては集約的耕作法も殆どその効がないのである。私は今英獨二國に於ける耕作地面積の現狀に就いて少しく述べて見たい。獨逸に於ける耕作地の廣狹により區別した農家の戸數を百分率にて示せば次の如くである。

耕作地面積	百分率
一町歩以下	四七・六
一町—十町	四〇・二
十町—百町	一一・八
百町以上	四

前に述べたる如く我國に於て一町歩以下の土地を耕作する者は全數の約七割を占めて居るに反し、獨逸に於ては四割七分六厘に過ぎない。更に英國に就いて見れば、その耕作地面積が一層大であることを知ることが出来る。今その耕作地の廣狹により區別した農家の百分率を左に示すことにする。

耕作地面積	百分率
五エーカー以下(二町三畝)	二二・七

五十エーカー以下(二十町三反)
 三百エーカー以下(百二十三町)
 三百エーカー以上

四五・三
 二八・四
 三・六

耕作地面積と國土の面積

然し我國の耕作地面積が何時までも今日の狀態に止まるであらうといふことは考ふべからざることである。我國の地勢は中央に大なる山脈を有するのであるから、獨逸及び佛國の如くに廣大なる耕作地を得ることの出来ないのば明であるけれども、同時に我國に尙開墾すべき土地のあることを記憶せねはならぬ。私共は我國土の面積に對する耕作地の割合を見ても我國に於て尙開墾すべき餘地のあることは容易に想像し得るのである。今諸外國に於て國土の面積に對する耕作地面積の割合を見れば、佛國は五割九分、獨逸は四割九分、以太利は四割八分、英國は二割三分である。瑞西の如き山國に於ても、その割合はなほ一割八分であるに、獨り我國に於ける耕作地面積の割合は一割五分二厘に過ぎないのである。或學者は我國に於て新地を開墾さへすれば米の産額を二千萬石位増加することは決して困難でないと言つて居る。我國の政府も近年米價の騰貴したるに鑑み、いよ／＼新しき開墾地を得ることに決し、既に主なる實業家をして開墾株式會社なるものを組織せしめ、之に對して相當の補助を與へることになつた。

我國の農家は自作農、小作農、及び自作兼小作農の三階級に分れて居る。私は我國の農家が漸次自作農から小作農若くは自作兼小作農に變じつ、ある事を統計表によりて示すつもりであ

農家の分類

る。換言すれば我國に於ても外國に於けると同じく自作農の数は漸次減少しつゝ、あるに反し、小作農の数は年々増加する傾向があることを示したのである。私は明治四十一年から大正四年に至る間に於て各階級の農家数が如何に増減しつゝ、あるかを百分率にて示す事にする。

年 號	自作農家	小作農家	自作兼小作農家
明治四十一年	三三・二七	二七・五八	三九・一五
明治四十二年	三三・二七	二七・六九	三九・〇四
明治四十三年	三二・八〇	二七・七一	三九・四六
明治四十四年	三二・五一	一七・七一	三九・七八
大正一年	三二・四四	二七・五四	四〇・〇二
大正二年	三二・〇五	二七・九四	四〇・〇一
大正三年	三一・七三	二七・八七	四〇・四〇
大正四年	三一・五二	二七・九二	四〇・五六

明治四十一年から大正四年に至るまで自作農家の数は年々その割合を減じて居るに反し、小作農家は年々多少の増加を來して居る。殊に著しいのは自作兼小作農家の増加である。然し自作兼小作農の内容に就きては充分にこれを知ることが出来ないから、小作農の増加が實際如何なる速度を以て進みつゝ、あるかは明瞭に之を示すことが出来ない。

土地兼併

土地兼併といふことに關しては我國は未だ英國の如く著しくはない。多數の農家は極めて僅

小なる面積の土地を耕作して居るけれども、一方に於て驚くべきほどの大地主を有して居ないのである。これは我國に於ける土地熱が未だ英國に於けるが如く著しくないからである。英國の社會的習慣に従へば土地所有といふ事は貴族富豪の一資格となつて居る。如何に莫大の富を有して居ても、若し相當の土地を有して居なければ決して社會的地位を得ることは出来ない。故に新しく巨萬の富を得た所の者は必ず都會の附近若くは田舎に於て若干の土地を得ることに腐心するのである。これがため英國に於ては多くの大地主を生じ、一方に於ては多數の小作人を有することになるのであるが、幸にして我國は未だ斯の如き極端なる状態に陥つて居ない。然し我國に於ても少しづつ、土地兼併の傾向が表れて居ることは左の統計表によりて明である。私は所有地の廣狭により區別した地主の戸数を百分率によりて示すことにする。

年 號	五反以下	五反以上	一町以上	三町以上	五町以上	十町以上	五十町以上
明治四十一年	四六・一五	二六・〇九	一八・七六	五・六五	二・四六	〇・八	〇・〇五
明治四十二年	四六・七五	二六・一五	一八・〇八	五・五八	二・五六	〇・八二	〇・〇六
明治四十三年	四七・四三	二五・六八	一七・八六	五・五四	二・五九	〇・八四	〇・〇六
明治四十四年	四七・三七	二五・六六	一八・〇二	五・四五	二・五九	〇・八五	〇・〇六
大正一年	四七・七八	二五・三六	一七・九五	五・四五	二・五六	〇・八四	〇・〇六
大正二年	四八・〇八	二五・一二	一八・〇一	五・三八	二・五二	〇・八三	〇・〇六
大正三年	四八・二二	二四・九七	一八・〇六	五・三二	二・五一	〇・八五	〇・〇七
大正四年	四八・五一	二四・七四	一八・〇九	五・二八	二・四七	〇・八四	〇・〇七

これによりて見れば五反以下の耕地を所有する地主の数は毎年増加してゐるけれども、五反以上五町以下の耕地を所有する地主の数は毎年減少して居る。然るに五町以上の耕地を所有する地主の数は年々増加して居るのであるから、此等の地主が將來に於て益多くの土地を買収し、遂に大地主となる傾向を有して居ることは疑のなき事實である。

大藏省の調査した所によれば大正二年迄に我國の農家が有する所の負債は約九億四千萬であつた。若し現在の農家が五百六十萬戸であるとすれば農家一戸の平均負債は約百八十圓となる。此金額は勿論大なる負擔ではないかも知れぬが、僅に平均一町歩の田畑を耕作して居る所の農家にとりては可成りの重荷であるに相違ない。故に農村問題を研究する所の者は必ず此等の負債を如何にして償却せしむべきかを考へねばならぬ。農家の負債は其の由來する所遠いのであるけれども最近二十年間に於て著しくその額を増加した様に思はれる。高岡博士の調査した所によりて見れば、明治二十年迄に我國の農家は既に二億八千三百萬圓の負債を生じて居る。而して明治二十八年から三十一年までに於て更に一億五千六百萬圓を増し、三十二年から四十一年までの間に於て三億二千萬圓を増加したのである。四十一年後は毎年殆ど三千五百萬圓の割合を以て増加して來た。今農家を地主、自作農、小作農、及び自作兼小作農の四階級に分類すれば、各階級の負債額は大略左の如くなるのである。

階級別	負債額
地主	二、一二四、二〇〇 <small>円</small>
自作農	四五六、一四〇、八二六
自作兼小作農	四一一、九八〇、六九五
小作農	七二、〇〇九、四一六
合計	九四二、二五五、一三七

地主の負債額が最も少ないといふことは彼等の生活に餘裕のあることを示して居る。彼等は單に小作米によりて生活し、自ら手を下して農業を営むのでないから、別に大なる資本を必要としない。これ彼等が負債を生ずることの少なき所以である。然しながら自作農及び自作兼小作農に至りては資本を要することが比較的痛切であると共に、彼等は負債を生ずるに便利なる抵當物を所有して居る。小作農に至りては最も多く負債を生ずる境遇にあるけれども、彼等には粗末なる家屋の外擔保として提供すべき物を有してゐないから、その結果負債額が比較的に少ないのである。此點から考へても國家が小作農に對して特別に金融の便宜を與へねばならぬとは明である。

農家が負債を起すにも種々なる原因がある、而してその原因の如何なるかによりては負債必ずしも恐るべきものではない。ゆゑに私共は我國の農家が如何なる目的のために負債を起したのであるか充分に之を研究する必要がある。左に示す所の統計は各種の目的のために起した所の負債額を百分率にて表したものである。

負債を生
じたる原
因

負債の種類	百分率
生計困難の爲め	三二・一
農業資金を得る爲め	三一・二
不測の災害の爲め	一五・六
舊債償還の爲め	一一・〇
土地買収の爲め	六・四
商業資金を得る爲め	三・七

以上示したる負債の種類を一々研究する時には私共は我國の農家が起したる負債の多くが如何に恐るべきものであるかを了解することが出来る。例へば生計困難のため起したる負債の如きは最も著しきものである。何となればそれによりて得たる資金は決して生産のために用ひられないからである。次に不測の災害によりて生じたる負債も決して樂觀すべき所のものでない。勿論これは已むを得ない災害であるから、豫め之を防止するといふことは出来ないけれども、之によりて生じた負債は單に災害の跡始末をなしたに過ぎないので、何等生産のためには助へを與へないのである。次に舊債償還といふことも生計困難と同じく負債を生ずるには好ましからぬ理由である。舊債償還は讀んで字の如く負債の借替をなすのであるから、大體に於て樂觀することの出来ぬ負債であると言はねばならぬ。斯の如く考へ來れば農家が農業及び商業のために或は土地買収のために負債を起す場合のみ私共は之を是認することが出来る。農家が商業

子 負債の利

資金を借り入れるといふ事は最も稀なることに相違ないけれども、五反歩位の田畑を耕作する者は農業のみによりて生計を支へることは不可能であるから、彼等が副業として商業を営むのは當然である。而してこれがため負債を生ずるのは恰も農業資金を得るために負債を生ずると同じく少しも恐るべきものではない。何となれば斯の如き負債は容易に償還することが出来るからである。然しながら我國の農家が農業及び商業のため或は土地買収のため起したる負債は全體の負債に對して僅に四割一分三厘に過ぎないのである。即ち負債總額の殆ど六割は生産的に起されたるものである。私共は農家のために痛切に之を悲しまざるを得ない。

我國の農家が負債の爲め大なる苦痛を感じて居るのには別に大なる原因がある。即ち彼等の負債の大部分が比較的高き利子を拂うてゐるからである。歐米諸國に於ける農家は比較的低位の資金を借る便宜を與へられて居るけれども、我國の農家には未だ充分に斯の如き便宜が與へられてゐない。何人も知れるが如く我勸業銀行及び農工銀行は常に農家のために低利の長期貸出をなして居るけれども、農家に貸付けられた金額は人々の想像するが如くに多額のものではない。大正二年の統計によれば、勸業銀行が農家へ對する貸付けたる金額は五千七百二十五萬六千二百九十二圓、農工銀行の貸出し高は六千九十八萬一千三百八十三圓に過ぎないのである。この二口を合計してもなほ一億二千萬圓には達しない。若し之に産業組合を通じて此等の銀行が間接に農家に貸出したる金額を加へたとしても總額二億圓には達しないであらうと思ふ。斯

の如き状態の下に我國の農家が已むなく高利の金を借るに至るは決して怪しむべきことではない。私は利子の高低により分類した所の農家の負債額を左に示すことにする。

利率	負債額
一割以下	三〇六、九四九、二二四 ^円
一割以上	三三三、九九二、一〇三
一割五分以上	一一六、二六六、六四七
二割以上	三二、一四九、七七二

此の統計は極めて不完全なるものである。何となれば茲に示した所の負債額は合計七億八千九百三十五萬七千七百五十六圓であるから、負債總額九億四千二百萬圓には達してゐないからである。之によりて見れば約一億五千萬圓の負債に關してはその利子が明でないのである。然しながら此表によりて私共は我國の農家が負債に對して如何に高き利子を拂ひつゝ、あるかを大體に知ることが出来る。

負債のため我國の農家が少なからぬ重荷に苦んでゐる事は既に述べた通りであるから、私は更に農家が負擔する租税及び寄附金に就て少しく述べて見たいと思ふ。曾て帝國農會が調査した所によれば農家が負擔する直接税は可成りの速度を以て増加して居る。而して關西地方よりも東北地方に於て一層著しい様である。帝國農會は關西地方に於ける二十六ヶ村と東北に於ける二十一ヶ村とを選んで、農家一戸の負擔する直接税を調査して左の如き結果を得た。

農家の負擔

年次	關西	東北
明治二三年	一二、八六 ^円	一三、〇六 ^円
明治三二年	一九、六八	二一、八七
明治四一年	三四、二八	三六、五六

次に農家が赤十字社、愛國婦人會其他の半強制的寄附金として負擔する金額は農家百戸につき平均次の如くである。

年次	關西	東北
明治二三年	四六、〇〇 ^円	九一、〇〇 ^円
明治三二年	九六、〇〇	一七九、〇〇
明治四一年	二〇三、〇〇	四六四、〇〇

此の統計に關して私共の注意すべき點は我國の農家が負擔する寄附金が租税よりも遙に大なる速度を以て増加しつゝ、あるといふこと、及び富の程度の低き東北地方が關西地方よりも租税及び寄附金に於て多くの負擔をなして居るといふことである。私共は此の點に於ても何等かの手段により救済法を講ぜねばならぬと思ふ。

我國に於ける農家の生活状態を知るには収入と支出を知ることが必要である。勿論農家の收支は各地に於て少なからぬ相違を見るのであるから正確なる統計を示すことは容易でない。私は二三の統計によりてその大體を示すことにする。而して此等の統計が何れも戦争前に於ける

農家の收入

農家の生活状態を示すものであることは言ふまでもない。最初に示す所の統計は農家を地主、自作農及び小作農の三階級に分ち、各階級の収入及び支出を示した所のものである。而してこれは日本全國に於ける農家の収入支出を平均したものである。

收入	支出		合計
	地主	自作農	
三二五	四四	八七(小作料)	九二二
二六二	二二九	七六	九二二
六〇	一五七	九四	九二二
四〇	二五	一五	九二二
七五	一三	五	九二二
三五	一三	五	九二二
一五	六五	三〇	九二二
二五	六五	三〇	九二二
七〇	六五	三〇	九二二
九二二	四四五	三〇七	九二二

これは日本全國に於ける農家の生活程度に關する平均を示したもので、我國の或部分分に於ては

小作農でありながら比較的多くの支出をなして居るものがある。愛知縣農會の調査した所によれば、同縣下に於ける某六ヶ村に於ける小作農の平均支出は一戸當六百二十三圓四十三錢五厘となつて居る。然るに岩手縣立農學校生徒の調査した所によれば、同縣和賀郡立花村に於ける農家の生活状態は上農が七百五十三圓、中農が三百五十七圓、下農が百五十六圓となつて居る。又模範村として知られて居る廣島縣廣村に於ける農家の平均支出は四百七十三圓である。此等の統計によりて見るも私共は日本全國に於ける農家の生活状態が甚だ貧窮であることを想像することが出来る。

先づ我國の農家が毎日食費として幾許を支出しつゝ、あるかを研究するに、若し農家の家族數を平均六人とすれば、日本全國に於ける平均一人一日の食費は地主の場合に於て十二錢であり、小作農の場合に於て四錢三厘である。愛知縣下の某六ヶ村に就て言へば一人一日の食費は九錢七厘に當つて居る。これは小作農の食費として先づ上等の部に屬するものというてよろしい。更に岩手縣立花村の下農に就て言へば一日の食費は四錢三厘である。然るに都會に於ける細民の食費は一人一日平均八錢位であると言はれて居るから、之に比すれば農家の生活は一層貧弱である様に思はれる。勿論農家に於ては自分の宅地に於て作りたる菜蔬果實を隨意に使用することが出来る便宜があるから、數字の示す程に農村の生活が悲惨でないことは想像することが出来るけれども、兎に角農村の生活が決して永久に農夫を農村に引き止むる程の引力を有して

るないことは明である。

第四章 農村救済策

以上述べたる所により我國の農村が漸次荒廢に赴きつゝ、あることは充分に之を認める事が出来るけれども、荒廢の原因に關しては誤れる考を抱いて居る所の人が少なくない。若し農村から都會に移住する青年の漸次増加するを見て、農業のため憂ふべきことであると悲觀する人があるならば、私は之に對して賛成の意を表することは出来ないものである。よし農村青年の移住が農村のため不利益であるとしても、私共は決して人爲的に農村青年の移住を禁止するわけにはゆかない。如何なる人も不愉快なる場所を去つて比較的愉快なる場所に住居せんことを好むものである。且つ私共は隨意に居住地を變更する自由を有して居る。若し現今の如く都會生活は農村生活に比して遙に勝つて居るとしたならば、農村の青年が競うて都會に移住せんとするのは恰も水の低きに流れるが如きもので、之を人爲的に防止せんとするのは殆ど不可能のことであると思ふ。まして農村青年の都會移住は悲觀すべきことでなく、或る意味に於ては寧ろ喜ぶべき事ではあるまいか。私は今その理由を述べて見たい。

我國農村の荒廢は主として人口問題に起因して居るのである。我國に於ける家族の全數に比すれば、農家は實にその五割六分以上を占め、居ることを發見するのである。この點から見て

農村青年
の移住

移住の奨
励

も農村に於ける人口が今日もなほ多きに過ぎて居るといふことを容易に知ることが出来る。それが如何なる結果を來して居るかといふに、農家の平均耕作面積が驚くべきほど小さくなつて居る。既に示したる統計によれば、我國の農家は平均一戸につき約一町歩の田畑を耕して居る。斯の如き僅なる面積の地を耕作して、如何で富裕なる生活をなすことが出来るか。若し各農家に於ける耕作者が一町歩以上の田畑を耕す事が出来ぬといふのであるならば已むを得ないことであるけれども、如何なる點から見ても農家の勞働力は一町歩の田畑を耕すには餘りに多きに過るのである。若し農家に於ける耕作者の數が平均二人であるとしても一町五反歩乃至二町歩を耕すことは決して困難でない。若し牛馬を使役すること、なれば、一農家にして四五町歩の田畑を耕作することは容易である。然るに農家の耕作面積が平均一町歩であるといふことは農村の生活を今日の如き窮狀に陥れた最大原因である。然らば我國の農業狀態が英國のそれに比して全く反對の位置にあることを了解せねばならぬ。英國に於ては出來得るだけ都會の人民を勧誘して農村に移住せしむることが必要であるけれども、我國に於ては寧ろ農村の人民を奨励して之を都會に移住せしむることが得策である。假に農村人口の半分を都會に移住せしむることが出来たとしても、農家の平均耕作面積はなほ僅に二町歩に過ぎない。私は之を以てしてもなほ農村問題を根本的に解決したものと考へることが出来ないのである。斯く考へれば農村の人民が都會に移住するといふことは少しも反對すべきことでなく、寧ろ農村問題の有効

なる解決法として之を歓迎しなければならぬ。

よし我國の農家が其數を半減して、平均の耕作面積が二町歩となつたとしても、之を歐米諸國に於ける平均耕作面積に比すればなほ大なる相違がある。然しながら農家の半數を都會に移住せしむることは殆ど不可能のことであり、且つ可能であるにしても都會に於ける由々しき社會問題を惹起すことになるのであるから、寧ろ之を不可能のこと、見るのが適當であらう。然らば我國の農家は未來永劫二町歩以上の耕作地を得ることは困難であるかといふに決して左様ではない。前にも述べたるが如く我國に於ける耕作地面積は之を國土の總面積に比してなほ極めて僅少であるから、若し將來資本を投じて開墾を試みさへすれば、耕作地の面積を増加することは決して困難なることではない。

私は農村問題の根本解決が農家の戸數を減ずるにあることを信ずるのであるけれども、若し國家が相當の管理をしなければ、單に土地兼併の弊を生ずるのみで、農村問題の解決に對しては何等の效果をも來さないことを信ずる。我國に於ては著しく土地兼併の弊を認めないのであるけれども、私が既に示した如く我國に於ても既にその徴候を見ることの出来るは事實である。若し小作農なり自作農なりが都會に移住する事となれば、其結果はいかになるであらうか。今日の如く自作農が賣却したる土地を漸次大地主が買収することになれば、その結果單に土地兼併の弊を生ずるのみであつて、各農家の平均耕作面積を増加することにはならない。更に他の

方面を見れば、土地兼併の結果として小作人の數は必ず増加すること、なる。されば國家が根本的土地政策を確定しない限り、農村人口の減少は單に土地兼併と小作人増加といふ結果を生ずることになるであらう。故に農村問題を解決するには農家の戸數を減ずると同時に小作農をして自作農たらしめ、且つ自作農の耕作面積をして増加せしめる様に努力しなければならぬ。然し斯の如きことは到底自然の成り行きに放任して得らるべき所のものでないから、國家が一定の土地政策を實行し、或程度まで土地の分配を管理するといふことは最も望ましき事である。

然らば國家が確定すべき土地政策とは如何なることであるか、私はその概略を述べることにする。國家は先づ小作農をして容易に土地を買収し得る様な方法を設けねばならぬ。これがために我政府は勸業銀行及び農工銀行をして農工業者のために低利の資金を融通せしめて居るが如く、小作農のためにも低利を以て長期貸付けをなす方法を講ぜねばならぬ。我國の農家が種々なる金融機關によりて借入れたる負債額は殆ど九億四千萬圓に達してゐるのであるが、其内土地買収のために費されたのは僅に六分四厘に過ぎない。果して然らば現在の勸業銀行や農工銀行をして専ら土地買収のために貸出しをなさしむることは實際不可能であるかも知れぬ。故に國家が農村問題解決のために根本的土地政策を確定しようと思ふならば、特別な金融機關を設け、土地買収といふ目的のみに限り低利の資金を貸出すといふことが必要である。勿論土地買収といふことにも相當の制限を設けねばならぬ。然らざれば大地主若くは中地主がその金融

機關を利用して更に多くの土地を買収すること、なり、益土地兼併の趨勢を助くること、なるに相違はない。故に土地買収法を制定する前に將來に於ける農家の平均耕作面積は幾町歩を以て標準となすべきかを決定し置くことが必要である。假に三町歩を以て將來の標準となさんか、國家は小作人が買収する所の土地三町歩に對してのみ何時にても低利の資金を貸出すことにする。而してこれは單に小作農のみに限ることではない。若し自作農にして一町歩若しくは二町歩を所有するものあらんか、彼もその所有地の總面積三町歩に達するまでは國家から貸出しを受けることが出来るのである。斯の如くして新に金融機關を設けることとなれば、之を利用するものは小作農と小自作農とのみであつて、大地主の如きは全くこの金融機關により貸出しを受くることが出来ないのみならず、小作農若しくは小自作農に先つて土地を買収することは出来ないことになる。

歐米諸國に於ては小農をして土地を買収せしむるために特別な金融機關を設けて居る實例が少なくない。私は今一二の實例を擧げることにする。佛國には農業銀行なるものが設立せられ、信用組合と共に小農のため低利の資金を提供することになつて居る。故に土地を買収せんとする小農は何等の擔保をも提供せずして必要の資金を得ることが出来る。貸出額は八千フロンを限度とし、之を十五年間に返済することになつて居る。償還法は元利済崩しであつて、利子は僅に年二分である。これによりて見れば國家が農業銀行に對して大なる保護を與へて居る

歐米の特
別金融機
關

ことは明である。獨逸にも地代銀行なるものがあつて殆ど同一の金融事業を行つて居る。獨逸には地代農地なる一種の内國移住政策が行はれて居るのであるが、その概略を説明すれば次の如くである。國家若しくは地主が比較的大なる面積の土地を賣却せんとする時には、之を一纏めにして一團の小農に引渡すことが出来る。其方法は新聞紙若しくは其他の手段によりて希望者を募集するのであるが、若し數十名の移住民を得ることが出来れば、其土地を數町歩若しくは數十町歩に分割して之を希望者に賣却することになる。斯の如き目的を以て賣却せられる所の土地を稱して地代農地といふのである。移住者の多數は現金を以て之を買収することが出来ないものであるから、地代銀行は彼等のために金融の便宜を與へることになつて居る。即ち銀行は現金若しくは債券を以て土地所有者に支拂ひ、而して移住者が全部その負債を償却するまでは普通の小作人が拂ふと同一の地代を請求するのである。斯の如き方法により移住者は普通の地代を拂ふ事により數十年の後には其負債を全部償却するのであるから、彼等は初めて完全に土地の所有權を得ることになる。この方法により一八九一年から一九一三年に至る二十二年間に於て約二萬戸の自作農を増加したのである。以上は單に獨佛二國の例を示したに過ぎないけれども、丁抹、愛蘭土及び米國に於ても同様の金融機關が設けられ、何れも好成績を示して居る。以上述べたる所によりても了解せらるゝが如く、今日の農村は本資缺乏のために大なる苦痛を感じて居る。私は現今の經濟組織に於て幾多の不公平が存在して居るのを見るのであるが、

不平等な
る資本の
分配

不平等なる資本の分配といふ事も確に其の一であると思ふ。若し資本が恰も身體に於ける血液の如き作用を經濟界に於てなして居るものと考へることが出来るならば、經濟界に於ける血液の循環は甚だ不平等に且つ無秩序に行はれて居る。歐米諸國に於ても多少同様ではあるが、殊に我國に於ては資本の大部分が常に都會に集中する傾向がある。例せば郵便貯金の如きものも全國に於て集めたものは其大部分之を東京に送ることになつて居る。保險金の如きも又同様である。而して一度東京に集りたる資金は容易に地方に歸つて來ない。何となれば資本が常に利子の高き所に投ぜられるといふことは恰も水が常に低きに向つて流れるが如きであるからである。故に資本の大部分が都會に於ける商工業に投ぜられるのは全く已むを得ない事である。商工業會社が平均一割乃至二割の配當をなして居るに反し、地方に於ける農業の利益は一割に達することすら極めて稀であるといふのではないか。斯の如く考へ來れば農村が常に資本の缺乏に苦んで居るといふことは敢て不思議なることではない。然し之を自然のまゝに放任しておくといふことは國家全體のために大なる不利益である。私共は勿論農業本位といふが如き思想に支配せられ、商工業を輕視するといふが如きことは豪もないのであるけれども、國民の生活問題を考ふる時には隨時も農業問題を閉却することは出来ない。國家は先づ如何なる問題よりも生活問題を解決すべき義務がある。これがため國家の力を以て資本の分配といふことに多少の干渉を試みることは當然であると思ふ。私が我政府に特別金融機關を設けて小作農を助け、自作

農を奨励すべしといふのは全くこれがためである。

歐洲戰爭の終結が種々なる意味に於て我國に大なる影響を及ぼすことは言ふまでもない。今回の戰爭が食料問題によりてその終りを告げるに至つたといふことは私共が記憶せねばならぬ事實である。戰爭の勝負が兵力及び武器の優劣によりて定まるといふことは争ふべからざることではあるが、獨逸をして遂に無條件降伏をなさしむるに至つたのは寧ろ食料品の缺乏であつたといふのが適當であるかも知れぬ。故に今回の戰爭によりて交戦國が最も痛切に感じたのは食料問題であつたと言ふことが出来る。英國は既に戰爭前に於て從來取り來つた所の農業政策の非を悟り、ロイド・ジョージは根本的農業政策を確定して英國の安全を圖らんと計畫したのである。若し將來に於て大戰爭が再び起るといふ虞があるならば、此度の歐洲戰爭に鑑み、何れの國も食料品に關して自給自足といふ主義を採用することになるであらうと思ふ。殊に我國の如き島國に於いては自給自足主義の必要なるとは言ふまでもない。今日の如く主要食物たる米の生産額が多少の不足を告ぐる場合に於ては、國家は宜しく之を補ふだけの方法を講じなければならぬ。外國米を輸入することは平時に於て何等差支へなきことであるけれども、若し戰爭を豫想する時には一時も早く我國内に於て必要なるだけの米を生産する様にしなければならぬ。若し又講和會議の結果幸にして各國が軍備を撤廢し若くは縮小するといふ事に同意すること、ならば、我國は多大なる陸海軍費を節約することが出来るのであるから、政府は先づ農業政

策を確立して、我國の農業に大々の改良を行ふべきである。農民のために特別なる金融機關を設けるが如きことは決して困難なることではないと思ふ。私は未だ精細なる計算を試みたことはないけれども、金融機關のために少なくとも十億圓以上の資金を要することは明である。現在の如き財政状態に在る我政府に斯の如きことを要求するのは無理であるかも知れないが、一大英斷を以て行へば決して出来難きことではない。彼の丁抹の如き小國が非常なる決心を以て新しき農業政策を實行したことを思へば、我國に於て之を行ふことは單に一舉手一投足の勞であるかも知れぬ。丁抹は其面積我が九州にも及ばない程の小國であつて、從來麥其他の穀物を主要なる農産物としてゐたのであつた。然るに合衆國及露西亞の小麥が漸次市場に於て競争を試みる様になり、丁抹の小麥は全く之に抵抗することが出来なくなつた。何となれば丁抹は其地味に於て到底米國及露國の競争者ではなかつたからである。此處に於て丁抹國民は一大決心をなし、穀物を生産することを止めて全部牧畜に従事するといふ方針を定めたのである。今や丁抹が英國だけに輸出する所の鶏卵及バターの金額は一億八千五百萬圓に達して居る。斯の如く我國に於ても農業の刷新を謀るために充分なる決心があるならば、特別なる金融機關のために十數億圓の資本を投ずることは必ずしも不可能のことではない。私は之を以て農村問題を解決する最も有效なる手段と考へるのである。

第八編 人口問題と人種問題

第一章 人口制限問題

マルサスの人口論

マルサスの人口論は廣く人々の間に知られて居るから、之を詳説する必要はない。私は單に其の大體を説明することにする。彼の言ふ所によれば生産力は等差級數によりて増加するけれども、人口の増加は等比級數によりて進むのである。即ち生産力は二、四、六、八といふ割合で増加するに反し、人口は二、四、八、十六といふ割合で増加するのであるから、人類は食物不足のため屢々飢饉の状態に陥ることとなる。若し何等かの防止法がなければ人類は必ず餓死するに相違はない。然るに幸か不幸か私人類に對しては斯の如き防止法が存在して居る。マルサスは之を稱して積極的及び消極的防止法と名づけて居るのである。積極的防止法とは死亡率を増進する法で、例せば疫病及び戦争等によりて多數の死亡者を出すが如きである。これに反して消極的防止法は出生率を減少するにある。例せば結婚を延期し若くは獨身生活を送るといふことである。マルサスが斯の如く人口論を公にして消極的防止法を説いたのは兩親の間に責任の觀念を強くせんことを目的としたのである。若し人々が妻子に相當なる生活をなさし

め、或は子女に充分なる教育を與へるだけの資力なくして結婚をなす時には、彼は妻子に對して充分に責任を盡して居るといふことは出来ない。故にマルサスは何人も子女の教育をなし得る準備の出来るまでは結婚を延期せねばならぬといふ教訓を與へたのである。彼の説に對して種々なる反對論を試みた者もあるけれども、現在に於ける社會の状態は明に彼の説が大なる真理を含んでゐることを證明して居る。今や何れの文明國も人口過多に苦んで居ることは明な事實であつて、現代に於ける最も重要な社會問題の如きも主として人口問題に原因して居るものと見ることが出来る。單に社會問題のみでなく國際問題にも大なる關係を及ぼして居るのは又この人口問題であることを忘れてはならぬ。私が第八編に於て殊に人口問題及び人種問題を論ぜんとするのは全くこれがためである。

人類が何時までも今日の如き割合を以て蕃殖するか否かは大なる疑問である。動植物が驚くべき速力を以て蕃殖するに比すれば人類の蕃殖力は決して恐るべきものではないかもしれぬ。更に野蠻人の間に於けるよりも文明人の間に於ける出生率が少なく、無學なる人々の間に於けるよりも教育のある人々の間に於ける出生率が少ないのを見れば、今後文明の進歩と共に出生率が著しく減少するに至ることは事實である様に思はれる。園藝家の實驗する所によれば、莓に對して充分なる肥料を與ふる時には比較的大なる實を結ぶけれども其數は極めて少ない。之に反して肥料を與へることが少なければその實は小さいけれどもその數は極めて多い。何れの

生物學上
より見た
る人口問
題

國に於ても貧乏人の間に比較的子供の多いといふことは營養と出生率との間に何等か生物學的關係のあるのではないかと思はれる。且又教育が一般に普及すれば人々は自然に性慾を制限することになるから出生率も亦減少するものと考へることが出来る。斯の如く將來を豫想する時には人口問題に對する私共の杞憂は全く消散するかも知れないと思ふ。然しこれは將來に期待すべき所のこと、目下の問題を解決することにはならない。人口問題は既に貧民階級の上の大なる壓迫を加へ、且國際間に種々なる困難問題を惹き起して居る。されば私共は當坐の問題として何等かの方法を見出すことが必要である。

前に述べたるが如く人口問題は目下私共が解決を急ぐ所の問題であるから、之を自然の成行に放任することは出来ない。而してこれが解決法として人々の注意を惹く様になつたのは新マルサス主義である。舊マルサス主義は結婚を延期し若くは獨身生活を送る事により人口の増加を防止することを主張するのである。言ふ迄もなく之に對して多くの異論を唱へる者はない。何となれば倫理上から見て何等不都合と認むべき點がないからである。然し結婚を延期するといふことは他の一面に於て恐るべき弊害の生ずることを考へなければならぬ。現代に於ける多くの青年男女は單に經濟的理由のためにその結婚を延期して居る。我國に於ては廿才前後に於て結婚することが男女青年にとりて普通の事であつたけれども、今や教育ある男子は三十才前後に於て結婚し、女子もまた普通二十才以上に於て結婚することになつて居る。これは歐米諸

新マルサ
ス主義

國に於ても同様である。若し青年男女が充分に貞操を守ることが出来るとすれば、舊マルサス主義の主張に對して何等の反對論はなき筈であるが、結婚の延期により男女道徳が驚くべき程度にまで墮落して居ることを見れば、私共は結婚の延期といふことが最も有效無害なる防止法であると考へることは出来ない。新マルサス主義の起つたのは全くこの弊害を除去せんがためである。今その主張を説明すれば大略次の如きものである。新マルサス主義は出生率を減少するといふ點に於て舊マルサス主義と意見を同じうするけれども、その採る所の方法は全く異なつて居る。即ち人爲的に産兒制限を行はんとするのである。青年男女は男女道徳を守るために成るべく速に結婚することが得策である。但し彼等の資力が子女を教育するに充分でないならば、彼等が經濟的能力を得るに至るまで人爲的に産兒制限を行ふといふのである。私共は暫く倫理的立場から此主義を批評することを保留するとすれば、之によりて人口制限の目的を最も有効に達し得ることは明である。若し産兒制限といふことが何等兩親の身體に危害を及ぼすことなく、彼等の資力が充實したる時何時にてもその子女を得ることが出来るとしたならば、經濟上及び教育上に於て少なからぬ利益のあることは疑もなきことである。英國に於ては一八七六年に新マルサス主義協會が設立せられ、目下和蘭に於ては最も好成绩を擧げて居るといふことを聞いて居る。兎に角産兒制限といふことは如何なる文明國に於ても或程度まで行はれて居る所の事實である。殊に此事が上流階級若くは中流階級に行はれて、貧民階級の間には餘り多

社會問題
より見た
る産兒制
限

く行はれてゐないといふことは私共の最も注意すべき事實である。曾て英國のフェビアン・ソサイティーの會員は警察の了解を得てロンドンの貧民窟に産兒制限法に關する印刷物を配布したことがあつた。新マルサス主義が何故に人爲的産兒制限法を主張するに至つたかと言へば、これには種々なる理由があると思はれる。人口問題は私共の政治生活、經濟生活及び社會生活に重大なる關係を有してゐるのであるから、今此等の諸點を研究する必要がある。私は以下新マルサス主義を唱へつゝある人々の意見を紹介する積りである。

暫く國家的立場を離れ個人的立場からのみ人口問題を考へるならば、産兒制限といふことは多數の勞働者にとり最も重要な問題であるといふことが出来る。今日の勞働者は確に一の商品である。彼等は其の勞働力を賣つて生活費を得ねばならぬのであるから、彼等にとりて勞働市場を求めることが必要である。然るに多數の市場に於ては勞働力の供給が常に需要に超過して居る。斯の如く供給が需要に超過すれば商品の値段が必ず下落するといふことは經濟の原則である。私共は經濟界の景氣好き時に於て勞働賃銀が騰貴し、不景氣の時に於て下落することを見ても、勞働者の賃銀が常に需要供給の關係によりて左右せられることが出来る。故に資本家の立場から見れば勞働力の供給過多なることは大なる利益である。何となれば彼等は比較的安き賃銀を以て勞働者を備ひ得るからである。極言すれば資本家は常に勞働者の供給過多なることを希望して居る。軍隊に豫備後備のあるが如く勞働軍に多くの豫備後備のあるこ

とは資本家の最も歓迎する所である。即ち如何なる場合に於ても多少の失業者あることは資本家にとりて大なる利益である。然し資本家に對して有利なることが労働者にとりて最も不利であることは言ふまでもない。軍隊に於ける豫備後備は必要缺く可らざるものであるけれども、労働階級にとりて常に遊軍の存在して居ることは此上もなき不利益である。何となれば此遊軍の競争により労働者の賃銀は常に下落する傾向を有するからである。要するに労働者の數が多きに過るといふことは労働者のために大なる不利益である。少なくとも現在の經濟組織に於て労働階級の人口が増加することは彼等を益貧乏に陥れることになるから、彼等の生活状態を改善するには産兒制限といふことが最も重要な方法の一であると考へられる。

古來人口問題に對しては多くの迷信が行はれて居る。基督教の如きも其の一例である。舊約書の始めに神が人類を造つた時人類の前途を祝福して「生めよ繁殖よ」と言つたことが基督信者の信仰となつた様に思はれる。彼のモルモン宗が一夫多妻主義を奨励したのも又この信仰から出たものと思はれる。然し斯の如き信仰が今日までも繼續して居るといふことは寧ろ驚くべきことではないかと思ふ。野蠻時代に於て人々が人口の蕃殖を希望したといふことは當然のことであるけれども、現今の社會に於て人口の増加を奨励する理由が果して何處にあるか。アフリカ及び濠洲の如き廣漠なる土地に於ては尙人口の蕃殖を奨励すべき理由があるかも知れぬが、これとても決して急を要することではない。寧ろ世界全體のためにはなほ此等の空地を存して

おく必要がある様に思はれる。世界の富源は無盡蔵であるが如く見ゆるけれども必ずしも左様でない。若し富源開拓のために人口が不足であるといふならば、人口を増加するよりも寧ろ機械を利用することが得策ではないか。地球上に於ける現在の人類をして幸福なる生活をなさしむるには今日の人口を増減せしめぬ様な方法を講ずることが最も適當である。これがため私共は單に宗教的迷信を脱却するのみならず、同時に國際的關係に附隨する所の迷信をも打破しなければならぬ。世界の列強は何れも戦争を豫想して居るがため人口の増加を奨励して居る。歐洲戦争前に於ける佛國は各文明國の疑問となつて居た。何人も知れるが如く佛國に於ては廣く産兒制限が行はれて居るため出生率は殆ど停止の状態にあつた。これがため佛國が一朝他國と戦端を開くに至つたならば如何なる運命に陥るであらうかとは多くの人々が心配して居た所のことであつた。然し戦争の結果を見れば佛國は決して人々の豫想するが如き弱國ではなかつたのである。よし人口の増加が望まじきことであるにしても今日の如き經濟組織の下に於て國民は果して國家の要求するが如く多くの子女を生むであらうか。これは實に大なる疑問である。佛國の産兒制限を嘲笑して居た所の獨逸、而も侵略的野心を有して居た所の獨逸は十數年以來著しき出生率の減少を見たではないか。之によりて見れば戦争を豫想して人口の増加を奨励するといふことは殆ど不可能のことであると言はねばならぬ。若し強ひて人口の増加を奨励すれば、國民の一部は生活難のために必ず移住を企てねばならぬことになる。獨逸が絶えず米國に

移住民を送つてゐることは確にこの事實を證明して居る。然し外國移住が行はれて居る間は何等の危険が生じないかも知れぬが、若し平和的に外國移住を企てる事が出来ぬとすれば、國家は兵力に訴へても海外に植民地を得ねばならぬことになる。其結果戰爭を惹き起すに至ることは私共が屢々歴史上に見る所の事實である。戰爭は一種の投機であるから、之によりて國家の滅亡を來す場合のあることを考へねばならぬ。斯の如き危険を冒すよりも寧ろ人口の増加を防止する方が國民のため最も安全なる方法ではないかと思はれる。

産兒制限といふことは何となく人々に厭な感じを與へる。甚しきに至りては私共の倫理觀念に反對するが如く思はれる。然し産兒制限そのものが必ずしも非倫理的のものでないことは充分に之を證明することが出来る。若し母親の健康が到底妊娠を許さないといふことであれば、その場合に産兒制限を行ふといふことは果して非難すべきことであらうか。私共は出産のため死ぬる所の女子が極めて少ないことを知つて居る。勿論彼等の中には産後の不養生によりて生命を失ふものもあるに相違ない。然し彼等の健康が多くの子女を生むに堪えないにも拘らず、産兒制限に對して疑問を抱いて居るがため遂にその生命を失ふに至つた者も可成り多いことを私は知つて居る。斯る場合に於て産兒制限を行ふことは當然であつて、何人も之を非難する者はあるまいと思ふ。又兩親ともその健康の不十分なるためその子女が極めて虚弱である場合が少なくない。若し彼等が斯の如き子女を生むことを彼等のためにも子女のためにも不幸

衛生上より見たる
産兒制限

優種學

であると考へ遂に産兒制限を行つたとしたならば人々は之を何と批評するであらうか。私は多數の人々が必ず之を認容するであらうと信ずる。斯の如く衛生上より見て産兒制限が兩親のためにも子女のためにも幸福であるとするならば之に對して何等反對すべき理由はないのである。故に産兒制限の是非はその理由の至當であるか否かによりて定まるのである。

人種改良は現代に於ける重要問題の一であつて、今や優種學なる新しき科學が出現するに至つた。優種學に關しては第二章に於て稍委しく説明するつもりであるから、此處には其の概要を示すに止めて置く。人類がその體質及び性質を子孫に遺傳することは最早疑ふことの出来ぬ事實である。優種學の目的はその善良なる性質を子孫に遺傳して漸次人種を改良するにあるのだから、人口の多からんよりも寧ろ人種の優良ならんことを主とするのである。私共の社會に於て優良なる體質及び性質を有する所の人が多くあると共に、子孫に遺傳してはならぬ様なものを有して居る所の人も少なくない。優種學上より見れば優良なる人々のみにその子孫を繼續せしめ、惡質を有する所の者に對して産兒の制限を行はしむることは最も適當なる方法であると言はねばならぬ。今日の如く肉體的及び精神的の不具者をして自由にその子孫を繼續せしむることは人類にとりて重大なる問題である。若し人類全體の幸福を目的とするならば劣等なる體質若くは性質を有する人々に對して多少の管理をなすのが當然のことである。而して産兒制限の如きは何人に對しても苦痛を與ゆるものではない。寧ろ社會に對しても又個人に對しても

幸福を來す所の原因となるのである。殊に優種學上より見れば花柳病の蔓延は最も恐るべき事實であることを記憶せねばならぬ。両親がその優良なる體質及び性質を子孫に遺傳することは事實であるけれども、時としてこの原則に反する事實の現出することは全く花柳病の結果である。如何に優秀なる人物でも一度花柳病の冒す所となれば、決してその優良なる性質を子孫に遺傳することは出来なくなる。前に述べたるが如く花柳病の蔓延は多く結婚の延期若くは獨身生活から來るものであるから、花柳病を根本的に撲滅せんと思ふならば、新マルサス主義の唱へるが如く青年男女をして出来得るだけ速に結婚せしむる外はない。而して之を實行するには結婚者をして任意に産兒制限を行はしむることが當然の方法であると思はれる。これが新マルサス主義者の主張する要點である。

結婚者が人爲的に産兒制限を行ふことは一般人民の倫理觀念に反對する様に思はれる。彼等は男女關係を以て劣等なる慾望と考へて居るのであるから、生殖を目的としない所の男女關係は不正不純の行爲であると論ずるのである。甚しきに至りては斯の如き男女關係を以て單に獸慾を満足せしむるものであると攻撃する人すらもある。然し新マルサス主義論者は之に對して次の様な説明を試みて居る。人類の間に於ける男女關係は下等動物の間に於ける雌雄關係と趣を異にして居る。下等動物の雌雄關係には單に生殖といふことが大なる目的となつて居るけれども、人類の男女關係には二の目的があることを記憶せねばならぬ。即ち生殖と戀愛とである。

戀愛と生殖

勿論下等動物の間にも全然戀愛といふものがないとは言へないけれども、それが極めて幼稚なる状態にあることは言ふまでもなきことである。然し人類の場合に於ては戀愛が男女關係に於ける唯一の目的ではないかと思はれる程に發達して居る。青年男女の中には單に戀愛のみを考へて子孫の事などを少しも考慮の中に置いてゐないものが決して少なくないと言ふことは何人も知れる所の事實である。勿論戀愛のみを考へて子孫の事に思ひ及ばざないといふことは大なる誤りであるけれども、子孫の事のみを考へて戀愛を無視するといふことも同じく大なる誤りである。約言すれば結婚には戀愛と生殖との二大目的が含まれて居ることを私共は記憶しなければならぬ。斯の如く論じれば子女を生む望みのなき場合、若くは子孫を生むことを避ける場合に於て尙ほ男女關係を繼續することが果して倫理觀念に背くことであらうか。單に戀愛といふ事實があればそれだけにても男女關係を繼續する理由があるではないか。勿論人類の結婚に戀愛と生殖の二大目的が作つて居ることは望まじきことであるけれども、單に戀愛のみの爲めに男女關係を繼續することを不道德と呼び若くは獸慾を縱にするものと嘲るのは決して正當ではない。若し論者の言ふが如く子孫を生むといふ目的がなくして男女關係を繼續することが不道德であるならば、私共が屢々見るが如く數十年間子女を生まずして尙ほ且同棲して居る所の夫婦は不道德者として責むべきであらうか。或は妻の健康を考へて産兒制限を行つて居る所の人、若くは子女を生むことの出来ぬ年齢に達したる後尙ほ夫婦關係を繼續して居るものは盡く

これを不道徳者として責むべきであらうか。斯く考へ来れば産兒制限に對する反對論者は結婚に於て重要な要素と認むべき戀愛を無視して居るものと言はねばならぬ。戀愛は決して彼等の言ふが如き劣等なるものではない。戀愛の最高潮に達したる時其處に男女關係の生ずるといふことを忘れてはならぬ。

私共は新マルサス主義に對して多くの異論があることを知つて居るけれども、單に感情を以て斯の如き重大問題を取扱ふのは得策ではない。男女の間に不正なる關係が行はれ、その結果肉體的にも精神的にも恐るべき結果を生じつゝ、あることは萬國共通の事實である。今日の有様を以てすれば此等の弊害を矯正するには宗教も道徳も殆ど無力であるかの如く思はれる。若し人類社會が一般の人々に對して衣食住の供給を與へることが出来なければ、此處に恐るべき社會問題を生ずるが如く、今日の如く總ての社會があらゆる人々に對して性慾の満足を與ゆることが出来なければ、之に對して恐るべき反動の生ずることは決して怪しむに足らない。將來に於ける社會の改造は人々の生存慾と性慾とを如何に満足せしむべきかといふことを標準としなければならぬ。若しこの二のうち何れかに失敗することあれば社會の改造も又必ず失敗に終るに相違ない。私共の理想は總ての人々に衣食住の満足を與ゆると共に性慾の満足をも與ゆるに在る。此立場から見れば新マルサス主義の如きは確に根本解決の一方法であるかもしれぬ。

男女問題
の根本解
決

第二章 優種問題

人種改良

教育問題は個人を主とするけれども人種問題は社會を目的とする。私共は個人の向上發達を來すためにあらゆる教育的設備をなすのであるけれども、教育の範圍は主として個人に限られてゐるから、その勢力を社會全體に及ぼす事は困難である。この缺陷を補ふために社會的事業として人種改良問題が唱へられる様になつた。更に教育問題と人種問題との區別を説明すれば、前者は生後の教育であつて、後者は生前の教育であると言ふことも出来る。教育の職務は此世に生れ來た所の兒童を保育することに始まり、小學から大學に至るまでに於て彼等の進歩發達を謀るにあるのであるが、人種改良は寧ろ子女の兩親に溯つて優種の繼續を謀ることを目的とする。教育は或程度まで人々を發達せしむることが出来るけれども、到底その素質を改造する力はない。恰も銅を磨きてその光澤を増すことは出来ても、これを變じて黄金となすことが出来ない如く、低能兒をして天才となすことは出来ないのである。故に人種全體の改良を謀るためには生後の教育をなすと共に生前の教育即ち父母の教育に努力する所がなくてはならぬ。換言すれば優良なる兩親のみにその子孫を生ましむるといふ方法を講ずることが必要である。優種學の目的は明にこの點に存して居る。人種の改良は貧乏を撲滅するに最も有效であるから、之によりて人類の幸福を増進することの出来るは明である。私は以下優種學の主要なる點に就

遺傳の原

いてその概略を述べることにする。

子孫が父祖の性質を遺傳することは餘りに廣く知られて居る事實であるから、私は改めて之を詳説する必要はないと思ふ。或人の言へるが如く宇宙に於ける如何なる物體も一度運動を起せば永久に直線を書いて動くことが物理學の原則であるが如くに子孫は總ての點に於て全く父祖に似るといふことが遺傳の原則である。然らば子が親に似るといふことが常態であつて、少しでも異なる所があればこれは變態であると言はねばならぬ。私共は體格及び容貌に於ても必ず兩親に類似したる多くの點を有して居る。而もその類似が極めて些細なる點にまで及んで居ることは私共が常に認める所の事實である。若し肉體に於て斯の如き遺傳の事實を認めることが出来るならば、精神上に於ても同様であることは容易に斷定することが出来る。

以上述べたるが如く私共は遺傳の事實に就て何等の疑をも抱かないのであるけれども、今や精細なる研究が行はれて益々遺傳の事實を確むる様になつて來た。専門家は種々なる方面に於て周到なる調査をなしたのであるが、天才の遺傳も或は精神病の遺傳も數字的に之を證明することが出来る様になつた。殊に一人の天才又は一人の惡質者の子孫に關して精細なる調査を行つた所の人がある。これによりても私共は遺傳の事實を明に認めることが出来る。私は今廣く社會に知られて居る所の一二の實例を舉げて見よう。米國に於て神學者及び哲學者として有名なるジョナサン・エドワードは何人も天才として認むる所の人であるが、彼の血液を受けた子孫

遺傳の研

の數は一九〇〇年の調査によりて一千三百九十四人であることが明になつた。今此等の子孫を一々調査したのであるが、その結果次の如き統計を得たのである。先づ教育界に頭角を現した者の數を舉ぐれば、千三百九十四人の内大學を卒業したる者が二百九十五人であり、其内大學の總長となつた者が十三人、大學教授となつた者が六十五人である。其他醫師になつた者が六十名であるが、其内の多數は有名なる醫師となつた。更に牧師となり、神學校教授となつた者は一百名に達したのである。尙ほ其他の方面を見れば陸海軍の將校となつた者が七十五人、有名なる作家となつた者が六十名である。法律界に於て頭角を現した者が一百人以上、裁判官になつた者が三十名に達して居る。其他官吏になつた者が八十名であつて、其内副大統領になつた者が一名ある。これに反して一人の惡質者がその惡質を遺傳した實例として私はジュークの子孫に就いて述べて見たい。ジュークは十八世紀の初期に於て米國に住居した所の漁夫であつたが、彼は怠惰にして且つ甚しき大酒家であつた。彼には五人の娘があつたが、五代の後その子孫は千二百人となつたのである。今其子孫に關し大體の統計を示せば次の如くである。千二百人の子孫のうち夭死した者が三百名であつたといふことを見れば體質の遺傳に於ても充分に惡結果を見ることが出来る。而して生殘者九百人に就て調査した所の結果を見れば、其内三百十人は常習的乞食である。更に一方に於ては自ら招いた惡性病で死亡した者が四百四十人に達して居る。以上は男女全體に就て示した所の統計であるが、若し女子のみに就て言へばその總

數の二分の一は醜業婦であつた。尙ほ犯罪といふ立場から言へば、九百人の内百三十人は犯罪者であつて、其内六十五人は常習的窃盜、七人は殺人犯であつた。而して以上述べたる社會的劣敗者のために國家が費した所の金額は百二十五萬弗に達したといふことである。以上述べたる事實によりても遺傳の研究が益々精細に行はれつゝ、あることを知ることが出来る。

遺傳の事實を充分に認めこれを利用して居る所のは園藝家と牧畜家である。私共はダリヤ及び菊の花が最初から今日の如き美麗なる花であつたと考へることは出来ない。園藝家は遺傳の事實を充分に了解して居るのであるから人爲的に今日の如き美麗なる花を造ることが出来る様になつた。即ち彼等は優良なる種子を選択することにより己の欲するが如くに美麗なる花を造ることが出来るのである。勿論植物は自然淘汰によりて進化することは出来るけれども、園藝家は人爲的に種子を選択することにより一層速にその發達を遂げしむることが出来る。單に花のみでなく果實に於ても同一の事を見るのである。オレンジ或は蜜柑の種子が漸次その數を減じ、遂に皆無に至つたのは全く園藝家の人爲的淘汰に因るものと言はねばならぬ。彼等にして果實から一切その種子を除かんと欲するならば、先づ種子の最も少なきものを選択し、此種の果實のみを蕃殖せしむるのである。斯の如き方法を幾度も繰り返せば、その結果全く種子のなき果實を得ることが出来る様になる。今や園藝家は種子のなき葡萄を得ることに成功して居る。近き將來に於て植物學者は霸王樹の針を除去することにも成功するであらうと期待され

園藝家と
牧畜家

優種學の
目的

て居る。霸王樹は牛馬の食物として最も適當であるけれども、全部針を以て蔽はれて居る限りは決して其用をなすことは出来ない。然し植物學者は人爲淘汰によりてその針を除去することが出来ると思つて居るから、遂には牛馬のために最も豊富なる食物を得ることの出来るのは疑なきことである。斯の如く植物學者が人爲淘汰を實行しつゝ、あると同時に動物學者も亦久しき以前から遺傳の原則を利用して居る。牧畜家が牛馬を飼養するに當りて常に適用して居る所の原則は優種にのみ其子孫を蕃殖せしむるといふことである。若し數百乃至數千頭の牛馬を飼養する所の牧場に於て牛馬の蕃殖を自然のままに放任して置いたならば、決して今日の如き牛馬の改良は見ることが出来なかつたに相違ない。牧畜家の目的は優良なる動物を得るにあるのだから、その蕃殖を謀るに當りて常に優良なる動物にのみこれを制限することは言ふまでもない。これが即ち優良なる性質を遺傳せしむる唯一の方法であることを知らねばならぬ。斯の如く論じれば、遺傳は決して疑ふことの出来ぬ事實であつて、園藝家及び牧畜家は既に野蠻時代に於てもこれを利用して居たことは明なる事實であると言はねばならぬ。

最近人々の注意を惹く様になつた優種學の目的はこれを簡單に説明することが出来る。即ち園藝家及び牧畜家が植物及び動物に對して遺傳の原則を利用するが如く優種學は人類に對して同一の方法を取らんとすることを目的として居る。即ち惡質を除去し、優良なる質のみを遺傳せしめ以て人種の改良を謀らんとするのである。若し人爲的に動物及び植物の進化を謀ること

が出来ぬならば、同じく人為的に人種の改良を謀ることが出来ぬ筈はないのである。前に述べたるが如く動物及び植物は自然のまゝに放任して置いても進化の法則により多少の發達は出来るが如く、人類の場合に於ても、自然淘汰の方法によりて多少の改良は見る事が出来るとしても、これのみに依頼することは決して人類の幸福を速進する所以ではない。動植物に對すると同じく人類に對しても出来得るだけ多く人為的方法を適用することが出来るならば、比較的短年月に於て人種の改良を見るに至るのは疑なきことである。私共は今日の場合必ずしも人口の増加を望む必要はないけれども、人種の改良に對してはあらゆる手段を講ぜねばならぬ。量よりも質に於て優るといふことが國際競争に於ても重要な問題である。私共は世界列強が歐洲戦争の如きことを度々繰り返すことに反對するけれども、若し將來に於て尙ほ戦争を廢止することが出来ぬとすれば、我國民は如何なる方面に於て充分なる準備をなすべきであらうか。或人は武器の優秀なることが現代戦争の第一要件であるといふかも知れぬが、私共は過去に於けるが如く現在に於ても、尙ほ人物が戦争の第一要件たることを信するのである。人種の優秀なることは戦時に於ても平時に於てもその國民を強大ならしむる要素であることは勿論であるが、殊に平和的競争に於て優秀なる人物が常に勝者の位置に立ち得ることは争ふべからざる事實である。されば我國民が軍備のため熱中するよりも人種改良のためにより多く努力せねばならぬといふことは瞬時も忘れてはならぬ重大事件である。然し動植物の改良を謀るが如くに人

類の改良は容易に行はるべきものではない。動植物の生命は概して人類の生命よりも短いのであるから、人為淘汰は比較的短時期に於て行はれるけれども、人種の改良には比較的長年月を要するのである。且又動植物の人為淘汰は園藝家若くは牧畜家一人の考へにより自由にこれを實行することが出来るけれども、人種の改良は一人乃至數人の力によりて實行し得べきものではない。これによりて見れば優種學の目的を達するためには單に個人のみでなく社會全體の努力を要することは明なことである。

人種改良はこれを個人の考へに放任することが出来れば最も理想的である。概して言へば高等教育を受けた人々は自らのため及び子孫のために優良なる遺傳をなさねばならぬことを充分に了解して居るから、彼等に對して何等干渉がましきことをなす必要はない。斯の如くして高等教育が普及すればするほど人種の改良は自然に行はれるわけであるけれども、斯の如きことを多數の人に對して要求することは無理である。而して教育ある人々の數はこれを全國民に比して僅に一小部分に過ぎないのであるから、人種改良の目的を達するには國家それ自身が國民に對して多少の干渉を試みる必要がある。換言すれば法律の力によりて優良なる遺傳をなさしむる様に干渉することも決して反對すべきことではない。或人々は人種改良の如き或は禁酒禁煙の如きことに對して法律の力を借ることを非難するけれども、若し一方に道徳及び教育の力を頼み、一方に法律の力を借るといふことであれば何等反對すべき理由はないのである。

法律は或意味に於て國民的意志の發現であるから、これを以て國民全體を指導するといふことに何の不都合があるであらうか。法律は國民の輿論であるといふことも出来るから、これによりて國民の行くべき道を指導することにもなる。私は以下人種改良のために法律が如何なる働きをなし得るかを示す積りである。

社會全體の利益を考へれば人種の改良といふことは最も重要な問題である。而して人種改良のためには優良なる性質を子孫に遺傳することが必要であるから、惡質を有する者の結婚に對して制限を加へることが必要となつてくる。故に優種學の目的を達するためには法律の力を以て或人々の結婚を禁止することが當然のことである。然し法律を以て結婚を禁止するといふことは人々の自由を束縛することになるから、文明人は斯の如き法律に全然服従することは出来ぬと反對するものがある。勿論結婚といふが如き重要なことに關して漫に干渉を試みるといふことは好ましきことでないけれども、社會全體の利益といふ立場から言へば、實に己むを得ぬことであると言はねばならぬ。私共は何れの國に於ても結婚に關して多少の制限があることを知つて居る。私共は必ずしも結婚に對して絶對的自由權を有してはゐない。例せば如何なる文明國も近親結婚を禁じて居るではないか。更に結婚年齢に關しても多少の制限が加へられて居る。此等の事實を考へれば社會公共のために或程度の制限を設けるといふことは必ずしも不都合なることではない。米國の或州に於ては赤貧者の結婚を禁止して居る。其他白痴、癲癩

結婚制限
に關する
法律

離婚に關
する法律

病者、精神病者の結婚を禁止して居る所もあれば、又大酒者及び常習犯罪者の結婚を禁止して居る所もある。以上述べたるが如き人々は到底其子女を養育するだけの資格がなく、結局其子女は國家が養育せねばならぬことになるから、よし優種學の主張を暫く度外視しても、國家は自らの利益を擁護するために此等人々の結婚を禁止するのは至當であると言はねばならぬ。

優種學上から見れば惡疾を隱匿して結婚した場合には一方の當事者がこれを發見した時離婚の請求を許すことが得策である。瑞西に於ては惡疾を隱匿して行つた結婚は無効であるといふことが法律に制定せられて居る。葡萄牙及びブラジルも惡疾及び犯罪を隱匿して行つた結婚を無効にすることを規定して居る。勿論此等の法律は決して離婚を強制するものではない。若しその當事者が惡疾を發見しても尙ほその結婚状態に満足すれば決して離婚する必要はないけれども、法律は單に彼が離婚を請求する場合に彼を保護することになつて居る。以上述べたる所は比較的簡單であつて、何等面倒なる議論を引き起すことはないけれども、若し結婚後に於て惡疾が突發したる場合その當事者は如何なる態度を取るべきかこれは複雑なる問題である。離婚は輕率に行ふべきものでなく、殊に突發的に惡疾を得たる場合に於て當事者が離婚を要求することは決して好ましきことでない。さればとて夫婦關係を繼續することは其惡疾を子孫に遺傳することになるから、優種學上から見ればこれを是認することは出来ぬ。然らばこれを解決するに如何なる方法を取るべきかと言へば、私が第一章に於て論じた如くこの場合に於て産兒

制限を行ふことが最も適當なる方法ではないかと思ふ。

結婚せんとする者に彼等の健康に關する醫師の證明書を提出することを必要とする法律を設けることは優種學上から見て多少有効である。今日の如く結婚當事者が何等健康上に關する證明なくして結婚して居るといふことは餘りに輕率なる行爲ではないかと考へられる。たゞ健康證明に關して反對すべき點は醫師が果して正直なる證明をなすか否かといふことである。然し政府が今日公證役場を設けて居るが如くに健康證明のため特別なる醫師を選定すること、なれば、彼等をして忠實なる證明をなさしむることは決して困難でない。我國に於ては結婚の多數が單に媒介者の證明によりて行はれてゐることを思へば、醫師の證明がこれ以上に不確實であるといふことは私共の考へ得ないことである。兎に角健康證明といふことには何等の弊害がないのみでなく、或程度までは確に有効であると信すべき理由がある。青年男女が結婚前に於て醫師の健康診断を受けねばならぬといふことは青年男女に大なる警戒を與へることになる。これがため彼等は平常體育に注意するのみでなく、彼等の品行をも慎むことになる。米國の某州に於ては既にこれを實行して居るのであるが、私は確に多少の好結果を得ることが出來ると信じて居る。

惡質を有する所の男女がよし夫婦關係を繼續してもその子孫を遺さない様に適當なる手術を行ふべきことを法律にて規定して居る所の實例が少なくない。外科醫の言ふ所によれば男子に

對する手術は何等の苦痛をも與へず、且安全であるのみならず、性交に對しても何等の影響を及ぼさないのである。然し女子に對する手術は往々危險を伴ふのであるから、彼等に對しては別に安全なる方法を見出すことが必要である。米國に於ては一九〇七年以來法律を以て生殖防止法を實行して居る所の州が十二に達して居る。而して此等の法律は州立の監獄、精神病院及び白痴院等に收容されて居る者に適用することになつて居る。インディアナ州に於ては三人の外科醫が委員となつて惡質者に生殖防止法を行ふべきや否やを決定するのであるが、一般米國人の態度は此等の法律を非難する傾向を示して居るのであるから、今や此等は殆ど死法となつて居る。然し反對論者の主張が果して正當であるか否かは大なる疑問であると言はねばならぬ。何となれば彼等の議論は多く感情に傾いてゐるからである。若し惡質者自身及び親戚の承諾を得てこれを行ふことになれば、何等不都合がないのみでなく、案外に好結果を得る様になるかも知れぬ。然し新マルサス主義の主張するが如く安全なる産兒制限が行はれることになれば生殖防止のために手術を行ふといふが如き方法は全然これを廢止することが得策である。

惡質所有者はあらゆる點に於て弱者であるから、競争場に於て優者と勝敗を争ふことは出來ない。故に彼等をして子孫を遺さしめぬ様な方法が行はれるとしても、彼等を自由に競争場裡に散在せしむるといふことは決して彼等のために親切なる方法ではない。故に社會の利益から見ても彼等自身の利益から見ても彼等を一定の場所に收容するといふことは國家が當に爲すべ

きことである。勿論これがためには納税者の負擔を増加するに相違ないけれども、若し收容者を教育して相當の職業を與へることになれば國家の負擔を軽減することは必ずしも不可能のことではない。米國の如き國に於てすら白痴の女子を放任して置くがために彼等は自由に其惡質を子女に遺傳して居るといふことであるから、彼等を救済すると同時に社會の利益を擁護するためには特に彼等を收容する場所を設けなければならぬ。

法律によりて惡質の遺傳を防止するといふことは今日の場合に於て已むを得ないことであるけれども、若し社會進歩の結果他の方法によりて優種學の目的を達することが出来るならば、私共はこれを望ましき方法と考へるのである。よし法律の力を借らないにしても、男女が理性によりて互に選擇することが出来るならば、これによりて人種の改良は充分に行はれることになる。私共は一方に於て充分に遺傳の事實を認めて居るに拘らず、一方に於ては殆ど何等の用意なくその配偶者を選択するといふ矛盾に陥つて居る。勿論男女の結婚に戀愛が重要な部分を占めて居ることは既に述べた通りであるけれども、戀愛のみによりて結婚をなすといふことは大なる誤りであると言はねばならぬ。優秀なる子女を有するといふことは父母のために最大の幸福であるのみならず子女その人に對しても此上なき恩恵である。而して優秀なる子女を得るには配偶者の選擇に周到なる注意を要するのである。若し青年男女が身體及び精神に於て最も優秀なる配偶者を選択することになれば、彼等の幸福は言ふまでもなく、人種の改良はこれ

男女の撰

によりて充分に行はれ、遂には法律の力を借る必要がなくなる様になる。私共は斯の如き理想點にまで達することを希望せざるを得ない。

優秀なる人がその美質を子孫に遺傳し、劣等なる人がその惡質を子孫に遺傳することは生物學の原則であるが、時として優秀なる人が比較的劣等なる子女を生むことがある。これによりて遺傳の原則に對し疑を懐く所の人もあるけれども、これは必ずしも遺傳律を破壊したものと云ふことは出来ない。何となれば遺傳の原則を破るには相當の理由が存在してゐるからである。今その理由の最も著しきものを舉ぐれば梅毒と酒毒との二である。如何に優秀なる才能を有する所の人でも梅毒若くは酒毒のためにその血液を汚す様なことがあれば、彼は決してその才能を子女に遺傳することは出来ない。遺傳の原則は茲に全く破壊されるのである。人々の蓄積する財産は往々子孫の爲めに蕩盡されることがあるが、私共の蓄積する人格及び才能は屢々一代限りにてこれを破壊する場合がある。若し有名なる政治家、軍人、實業家等に不肖の子女があるとするならば、これを以て遺傳律の破壊と言ふのは決して當を得ない。私共は先づその人が梅毒若くは酒毒によりその血液を汚してゐないかどうかを考へなければならぬ。故に優種問題を論ずるに當りては同時に賣淫問題及び飲酒問題を考へる必要がある。

優良なる遺傳を妨害するもの

第三章 賣淫問題

賣淫制度
と人道問
題

歐米諸國に於ても賣淫制度を稱して奴隸制度というて居るが、我國の藝娼妓も亦一種の奴隸であることは何人もこれを疑ふことの出来ぬ事實である。勿論我國の藝娼妓は表面に於て自由を得て居るが如く見ゆるけれども、實際に於ては全く一種の奴隸たるに過ぎない。彼等が藝娼妓として賣り渡される場合に於ては全く自由契約の下に行はれるのであるけれども、一度買主の手に渡されたる藝娼妓は全く自由を束縛されることになつて居る。若し一部の女子が自由意志によりて醜業を營む場合に於てもその醜業たる點に於ては何等相違がないけれども、彼等は尙ほ普通人の如く完全なる自由を有して居ることを認めねばならぬ。若し彼等が賣淫の罪惡であることを知るに至らば、彼等は何時にてもその醜業を中止することが出来る自由を有して居る。若し又彼等が悪疾に悩むことがあるならば、彼等は其病の全治するまで養生することも出来る。然し今日の藝娼妓には殆ど全く斯の如き自由が與へられてゐない。彼等の多くはよし契約年限を終つても尙ほ種々なる欺偽手段のために其の苦界を脱することが出来ないのである。よし又悪疾に罹つたとするも彼等は決して充分なる治療を受けることが出来ない。斯の如くして今日の賣淫制度は二重に罪惡を行つて居ると言ふべきである。公娼制度が私娼制度に比して一層排斥すべき理由もこの點にあることを記憶せねばならぬ。

公娼制度
と私娼制
度

人道上から見れば藝娼妓が抱主によりて使役せられて居る限り公娼制度も私娼制度も殆ど同一であると言はねばならぬ。若し藝娼妓が全く獨立的に醜業を營むのであれば、よし道徳上から見て同一であるとするも、人道問題から見れば公娼制度に比してその弊害の少なきことを充分に分認すべきである。概して言へば公娼制度と私娼制度との間に人道上若くは道徳上から見た優劣はないけれども、一度風紀上から觀察すれば、兩者の間に大なる優劣の存することを發見するのである。公娼といひ私娼といひ何れも憎むべき罪惡であるに相違はないけれども、斯の如きものを社會の表面から驅逐し、これを社會の暗黒裡に葬ることは社會風紀の上から見て最も重要なことである。公娼設置論者はこれに反對して公娼制度が私娼制度に比してその弊害の少なきことを説き、且つ藝娼妓を社會の裏面に閉ぢ込めることは所謂「臭い物に蓋」と同じく偽善的行爲であると酷評するのである。然しこれは全く社會衛生といふことを無視したる説であると言はねばならぬ。藝娼妓は恰も都市に於ける下水の如きものである。若し公娼設置論者の如く汚物に蓋をする事に反對するならば、我國の都市に於けるが如く道路の兩側にある下水を開放して置くことが最も賢き方法であると言はねばならぬ。然し斯る議論が決して人々の贊成する所とならぬは言ふまでもない。社會衛生の立場から言へば、下水は深く地下に埋めたる下水管にこれを流すことが必要である。都會の人々は斯の如くして危険を免かれることが出来る。これによりて見れば公娼制度は恰も道路の兩側にある開放した下水の如く風紀上多くの人

々に不健全なる影響を及ぼすものであることは私共が充分に注意せねばならぬことである。若し藝娼妓が社會の裏面に閉ぢ込められることになればその害を受ける者は單に此等醜業婦に接近する者のみに限られるけれども、我國に於けるが如く到る所に於て公然貸座敷、藝者屋及び待合を見ることが出来る様では、その青年男女に及ぼす影響が如何に恐るべきものであるかは容易に想像することが出来る。これを約言すれば公娼制度は青年男女を誘惑する所の公設機關である。而して其毒を散布する點に於ては道路の兩側を流れる下水と少しも異なる所はない。

私はこの意味に於て公娼制度の設置に極力反對する者である。

以上述べたるが如き大なる理由のあるにも拘らず、我國に於て尙ほ公娼廢止の實行せられぬのは何故であるか。私共は極めて簡單にこれに答へることが出来る。我政府當局者は恐るべき梅毒の蔓延を防止するには公娼制度が唯一の有効なる方法であると信じて居る。換言すれば梅毒の蔓延を防止するために人道問題及び風紀問題の全部を犠牲に供して居るのであるといふても差支はない。然し今日の公娼制度は果して當局者の信ずるが如く梅毒の防止に對して有効なる方法であるか。私共は専門の知識を有して居ないからこれに對して充分に是非の判断を下すことは出来ないけれども、私共が専門醫のいふ所によりて判断を下せば、公娼制度が決して梅毒の蔓延を防止するに有効なる方法であるとは信ずることが出来ない。我國に於て一二の専門家は大膽にその意見を發表して居るけれども、多數の専門家が公娼制度に對して殆ど沈黙を

公娼制度
是觀の論

守つて居るのは私共が常に不思議に思ふ所のことである。梅毒は決して不治の病ではないけれども、然も應急手段によりて全治すべきものでない。されば現在行はれて居るが如き娼妓の身體検査によりて梅毒の有無を判断することが出来ると思ふ者はあるまい。私共は身體検査が娼妓彼自身のために有利であることを信ずるから、今日の如き身體検査法に對してすら決して反對を試みるのではない。何となれば激烈なる病毒に犯されたる娼妓を病院に收容して數日間乃至數週間の治療を受けしむることは娼妓のために望ましきこと、考へるからである。然し斯の如き身體検査法により梅毒の蔓延を防止することが出来るか否かは全く別問題であることを記憶せねばならぬ。私共は屢々梅毒に犯されたる者の比率に於て私娼は常に公娼よりも多いといふことを聞いて居るけれども、これが果して事實であるか否かにつき私共は少なからぬ疑を懐いて居る。梅毒の有無を検査するには顯微鏡の必要があることはいふまでもなきことであるに拘らず、歐米諸國に於てすら單に肉眼を以て検査する場合が少なくない。若し私娼の患者率が公娼のそれに比して高いといふことであるならば、これは單に肉眼によりて検査した所の結果ではあるまいか。果して然らば顯微鏡を以て検査したる結果は遂に公娼と私娼との間に何等の區別をも見ることが出来ない様になることを考へねばならぬ。

米國のロックフェラー研究所附屬社會衛生部に於ては先年梅毒科の専門家なるフレキスナー博士を歐洲に派遣し、二年間に涉りて大都市に於ける賣淫制度を調査せしめたのであるが、その

不完全な
る身體檢
査法

結果は數年前一卷の書物となつて公にせられた。フレキシナー博士は歐洲諸國に於て行はれつつある娼妓の身體検査法がいかに申譯的のものであるかを述べて大略次の如くいつて居る。獨逸に於ては二十四才以下の娼妓に對し毎週二回の検査を行ふことになつて居る。而して二十四才以上三十四才以下の娼妓に對しては毎週一回、三十四才以上の娼妓に對しては二週間毎に一回の検査を行ふことになつて居る。パリ市に於ては娼家に居る者に對しては毎週一回、娼家以外に住居して居る者に對しては二週間毎に一回の検査を行つて居る。更に娼妓一人に對して要する検査時間はベルリン市に於て三分、パリ市に於て一分半、ヴァーン市に於て五分である。ゼネヴァ市の醫師は一時間に八十六人の娼妓を検査したといふ記録を有して居る。身體検査に顯微鏡を用ふると否とにより患者の數には大なる増減を來すのであるから、私共は單に検査醫の報告のみによりて患者數の多少を知ることが出来ない。私共は先づ検査醫が顯微鏡を用ひつつあるや否やを知らねばならぬ。

娼妓に對する身體検査法が極めて不完全であることは以上述べた通りであるが、私共は更にその検査に伴ふ弊害を研究せねばならぬ。我國に於ても歐米諸國に於ても殆ど同一の弊害が行はれて居る。娼妓を長く病院に於て治療せしむることは抱主のために大なる損失であるから、彼等は成るべく速に娼妓を退院せしむるためにあらゆる手段を講ずるのである。警察官すらも往々抱主のために買収されるのであるから、まして検査醫に對して種々なる誘惑や壓迫の來る

身體検査
に伴ふ弊
害

ことは容易にこれを想像することが出来る。よし検査醫が極めて強硬なる人であるにしても、娼妓は彼を欺くに種々なる方法を以てするといふことである。歐洲諸國に於てはかゝる欺偽手段を娼妓に教ふることを専門にして居る醫師すらもあるとフレキシナー博士は言つて居る。これによりても公娼の身體検査は決して信頼するに足らぬことが明である。

娼妓が一度梅毒に犯される時はこれによりて再び梅毒に罹ることを免かれることがある。即ち彼等は免疫となるのである。然し彼等はよし無毒であるとしても尙ほ梅毒の媒介者たること出来る。故に男子の梅毒を取締らざる限り娼妓の身體検査によりて梅毒の蔓延を防止することは全く不可能であると言はねばならぬ。若し身體検査のため公娼制度は梅毒の危険を減ずるものであると考へるならばこれは大なる誤りである。これによりて見るも梅毒の蔓延を防止するには一切娼妓に接近しないといふ外別に安全なる方法はないのである。

私は歐洲諸國に於ける公娼制度が梅毒の蔓延防止法として如何に失敗して居るかに就きフレキシナー博士の著書から次の一節を引證する。ピントクス教授は男子の梅毒患者二千五百十二人を診察し一々其病源を調査したのであるが、其内千五百七十一人(六割二分五厘)は娼妓から其病を得たことが明になつた。而してその内千三百五十人は公娼から傳染したのである。即ちその病源たる娼妓の内八割五分九厘といふ大多數は公娼であつたことが發見された。メロスキーはギムナジオムの學生百二人に就き調査をしたのであるが、其病源の殆ど半數が公娼であつた

梅毒の媒
介者

公娼制度
の失敗

ことを発見したのである。ストックホルム市の調査によれば六百六十一人の梅毒患者の内二百九十七人は娼妓から其病毒を得たのであるが、其内百五十一人は公娼であつたことが発見された。此等の統計は僅に二三の事實を語るに過ぎないのであるから、これによりて確乎たる決論に達することは出来ないけれども、人々の信ずるが如く公娼制度が必ずしも梅毒蔓延の防止法として有効でないことを證明する参考材料と爲すことが出来る。

公娼制度を辯護する人は成るべく娼妓を一區域に集めることを主張する。何となれば身體検査を行ひ或は其他の監督をなす點に於て便利を感じるからである。然し私娼制度をよりよき方法であると信ずる人々は風紀上から出来得るだけ娼妓を處々に散在せしむることを得策であると考へて居る。而して梅毒といふ立場から見れば、散娼制度は必ずしも集娼制度に比して梅毒患者を生ずることが多くない。私は左にハンブルヒとベルリンとの統計を比較して見たい。前者は集娼制度をとり後者は散娼制度を取つて居る。然るに娼妓の患者數に於て前者は遙に後者よりも多いのである。今その統計を次に示すことにする。

公娼數	ベルリン		ハンブルヒ	
	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年
ベルリン	三、七〇九	三、二八七	三、一三五	三、五二八
ハンブルヒ	一、二六六	一、二五八	一、二九一	一、〇三九
右患者數	六二〇	五〇五	五七六	六六〇
ハンブルヒ	七五九	八四三	七一九	七二一
				七九一

右百分率	ベルリン		ハンブルヒ	
	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年
ベルリン	一六、七	一五、三	一八、三	一八、七
ハンブルヒ	五九、九	六七、〇	五五、七	六九、三
				八五、九

これによりて見れば病毒を蔓延せしむる點に於て集娼制度は散娼制度よりも明に有害であることを知ることが出来る。要するに集娼制度は抱主の下に在つて醜業を營むのであるから、病毒に犯されたる娼妓は充分にその手當をなすことが出来ない。これに反して散娼制度の下に於ては獨立的に醜業を營んで居る娼妓が少なくない爲めに比較的充分なる治療をなすことが出来る。斯の如く考へ來れば抱主の下に行はれる所の公娼制度は人道上からも衛生上からも最も有害なる制度であることを了解することが出来る。

今から約三十五年前に於ては歐洲大陸は一般に公娼制度を實行し、英國に於ても一八七〇年の頃にこれを行ふてゐたのであるが、今や一般に公娼制度を廢止せんとする徵候が充分に現れて居る。佛國に於ては人口五千以上を有する自治體六百九十五の内百五十は既に公娼制度を全廢することになつた。其他法律上尙ほ公娼制度を維持して居るに拘らず、實際に於てこれを廢止して居るものが少なくない。獨逸に於ては都市百六十二の内四十八は既に公娼制度を全廢して居るのであるが、其他の都市に於ても公娼制度の運命は殆ど旦夕に迫つて居ると言うてもよい。瑞西はゼネヴァ市を除く外總ての都市に於て公娼制度を全廢して居る。其他丁抹、諾威、英國に於て公娼制度が既に全廢されて居ることは一般に知られて居る所の事實である。佛國政府

公娼制度
廢止の大
勢

は公娼制度廢止の可否に就き充分なる調査をなすため特別委員を擧げたのであるが、彼等は研究の結果公娼制度の全廢を勧告して居る。瑞典に於ても同一の目的を以て特別委員が擧げられたのであるが、彼等の意見も公娼制度全廢に傾いて居る。

若し普通の傳染病、例せばチフス、赤痢、虎列刺、ペスト等の微菌を故意に散布したとしたならば、法律は必ずこれを重く罰するに相違はない。然るに梅毒の如き恐るべき傳染病に對し殊に除外例を設けて居るのは實に矛盾の甚しきものではないか。然るに諾威は梅毒を普通の傳染病と同一に取扱ふといふ點に於て世界各国に一大模範を示して居る。諾威が既に公娼制度を全廢して居ることは前に述べたる通りであるが、一方に於て梅毒の蔓延を撲滅するために徹底的方法を實行して居る。即ち梅毒を普通の傳染病と同一に取扱ふてゐるのであるから、梅毒を他人に傳染せしむる者に對しては嚴重なる刑罰を執行することになつて居る。私は諾威に於ける刑法の一部を引證して讀者の參考に供したい。

刑法第五十五條 自ら傳染的花柳病に罹れる事を知り若くは推測し得る者にして交接若くは其他の猥褻行爲によりこれを他人に傳染せしむる時は三年以下の禁錮に處せらるべし。

同じく傳染的花柳病に罹れる事明白なる場合若くは其嫌疑ある場合其人が前記の方法によりこれを他人に傳染せしむることを默許する者も同一の刑に處せらるべし。

若し傳染されたる者にして傳染したる者と既に結婚し居れる場合には被害者より告發した

傳染病と
しての梅
毒

る時に於てのみ法律の適用を見るべし。

第三百五十八條 左の行爲ある者は六ヶ月以下の禁錮に處せらるべし。

傳染的梅毒を有し若くは其疑ある兒童たることを知りつゝ、之に保母を周旋し若くは傭入れたる者。

男女に拘らず自ら傳染的梅毒に罹れることを知り若くは其疑を有する者にして他の家庭に入りて僕婢となり或は保母となり或は之を媒介したる者。

此等の法文によりて見れば第五十五條の第二項により娼妓の抱主も娼妓と同様に刑罰を受けねばならぬは明である。諾威は斯の如くして花柳病の撲滅に努力して居るのであるが、今や丁抹も同一の方法により好成績を擧げて居るのである。法律を以て梅毒を傳染する者を嚴罰に處することは餘りに慘酷なるが如く思はれるけれども、これは決して不合理のことではない。言ふまでもなく前記の刑法は男女の不正なる關係を禁止することを目的として居るのではない。極言すれば女子が醜業を營むことも男子がこれに接近することも全く彼等の自由であるけれども、彼等は一度其恐るべき病毒に感染したる以上これを全治するまでその治療法を講じなければならぬ。若し之を怠つて其病毒を他人に傳染せしむる時初めて刑の適用を受けるのである。私共は之を以て寧ろ合理的なる方法であると信ずる。

あらゆる傳染病を撲滅することは全く不可能であるが如く考へて居る人もあるけれども、こ

獨逸の勞
力

れは大なる誤である。私が第五編第二章に於て示したるが如く獨逸政府は勞働保險法を實施した以來肺病撲滅のために全力を注いだのであるが、今や肺病のために死亡する者の数は著しく減じたのである。獨逸政府は更に梅毒を全滅する決心を以て大々の運動を起さんとしたのであるが、不幸にして歐洲大戰の爲めに已むなく其の計畫を中止することとなつた。私共は人種改良といふ大目的の爲めに大なる努力を試みねばならぬのであるから、先づ肺病と梅毒に對して最も有效なる撲滅法を考へなければならぬ。

以上述べたるが如く諾威及び丁抹に於て行はれつゝ、ある方法も梅毒の蔓延を防止するに極めて有効であると信ずるけれども、是によりて充分にその目的を達し得るか否かは疑問である。よしその目的を達し得るとしても、これがため多くの年月と努力とを要することを覺悟しなければならぬ。梅毒は男女の不正なる關係から生ずる所の病であるから、之を全滅せしめるには男女の關係を正當なる状態に存立せしめるといふことが、最も有效なる方法であるに相違はない。今日の如く多數の青年男女が結婚を延期し若くは獨身生活を送るといふことが不正なる男女關係を生ずる最大原因となつて居るから、私共は先づ如何なる人も容易に結婚生活を送り得る方法を考へなければならぬ。而してこの事が如何にして實行し得られるかは私が既に新マルサス主義を論ずるに當りて紹介した通りである。されば梅毒撲滅の根本的解決法としては人類社會が漸次新マルサス主義を是認するより外ないと信ずるのである。

根本的解決法

第四章 禁酒問題

經濟上より見たる飲酒問題

人類が酒の爲めに年々費して居る所の金額は實に驚くべきものである。私共は我國に於ける酒類の爲め幾許の金額が消費されつゝ、あるかこれを精密なる數字によりて示すことは出来ないけれども、決して十億圓以下に下ることはあるまいと思ふ。米國人が酒類の爲め毎年如何に多くの金を消費しつゝ、あるかは種々なる報告によりて概略之を知ることが出来る。私は今タウンの『社會問題』中から左の一節を引證する。一九一四年に於ける米國人の酒類消費高は二十二億五千二百二十七萬二千七百六十五ギャロン（一ギャロンは約二升五合）であつたといはれて居る。即ち米國人は一年間に約五千六百萬石の酒類を消費して居ることになる。これを米國の總人口に平均すれば一人の消費高は毎年二十二ギャロン半となるのであるが、若し女子及び二十才以下の男子を除くとすれば、一人の消費高は平均八十ギャロン、即ち我が二石となるのである。若し大西洋岸から米國を横斷して太平洋岸に至るまで幅四尺深さ四尺五寸の溝を掘つたとすれば、一年間に消費される酒類を以て充分にこの溝を滿すことが出来るのである。而して酒類の消費高は年々驚くべき速力を以て増加して居る。即ち一九一四年に於ける消費高を前年度のこれに比較すれば約二千萬ギャロンの増加を見たのであつた。更に之を金錢に見積れば酒類のため米國人の消費する額は十七億五千萬弗である。而して之を米國全體に於ける公立學校の

費用に比較すれば約三倍半であり、之を米國の通貨總高に比すれば約二倍以上であり、之を國債總高に比すれば二倍である。國民が寧ろ有害無益なる飲料の爲めに斯の如き巨額の消費をなして居ると思へば、米國が遂に禁酒法を斷行するに至つたのは決して怪しむに足りないのである。我國民が酒の爲めに消費する所の米は殆ど五百萬石に達して居るのであるから、如何に小く見積りても我國民は酒のために七億五千萬圓を消費して居る。若し此の他に麥酒、葡萄酒及び其他の酒類の爲に消費して居る所の物を加へたならば、一年間に於ける消費高を十億圓と計算するのは最小の見積りであらうと思ふ。若し我國民が禁酒を斷行するならば、約十億圓の金額は之を有益なる目的の爲めに使用することが出来る。例せば一億圓の基本金を有する大學十個を設立することも出来る。而も毎年之を行ふことが出来るのであるから驚くべきことではないか。若し之を他の目的に使用するとすれば、國家は忽ち水力電氣事業を買収することも出来る。或は鐵道の延長、或は港灣の造築、道路の改築等も容易に行はれるのである。其他勞働保險、勞働者教育機關の如き社會問題を解決する方法も容易に之を實行する事が出来る。若し又之を全部中央政府の費用に當てるとしたならば、國民は全く國稅の負擔を免かれることになる。我國民の多數は貧乏なる生活をなして居るのであるけれども、一方に於て有害無益なる酒類の爲めに驚くべき浪費をなして居ることは大なる矛盾であると言はねばならぬ。要するに私共人類は酒類の爲めに大なる浪費をなして居ると共に、酒類のため其の能力を滅殺して貧乏の素因

を形成して居る。若し人類社會から貧乏といふ疾病を除去せんと欲するならば私共は斷乎として飲酒の惡癖を改めなければならぬ。

今日まで資本家は禁酒運動に對して寧ろ冷淡であつたが、近年に至り彼等も亦禁酒が勞働能率の上にも亦其他の點に於ても有利であることを確信する様になつた。米國の法律によれば業務中勞働者が負傷する時は相當の賠償をなし、若し又死亡したる時には三年分の賃銀を弔慰金として與へねばならぬことが規定せられて居る。然るにコロラド州に於て禁酒法が通過した以來業務中に於ける勞働者の死亡率は殆ど二分の一に減じたのであるから、資本家は自己の利益といふ點から見ても禁酒運動に賛成せざるを得ないやうになつた。獨逸の政府が調査した結果によれば業務中に於ける勞働者の災害は月曜日 に於て最も多いといふ事實が證明せられて居る。これは何れの國に於ても殆ど同様であるが、其原因が勞働者が土曜日の晩或は日曜日に於て殊に多量の酒を飲むといふことにあるは一般に認められて居る所の事實である。勿論勞働階級の爲めには酒が唯一の娛樂であるかも知れぬが、彼等の幸福から見ても、或は彼等の勞働能率から見ても禁酒が彼等のために極めて重要であることは疑がない。殊に鐵道從業員の如く多くの人命に關係を有する所の事業に働く者は義務として禁酒を斷行する必要がある。米國の鐵道會社が從業員全部に對して嚴重に禁酒を要求して居ることは我國に於ても速に倣ふべきことであると信ずる。

資本家と
禁酒

貧乏と飲酒は互に原因となり結果となるものである。貧乏者は常に苦しみ生活をなし、何等物質的快樂を得ることが出来ないから、往々一時の苦痛を免かれないため酒の力を借ることがある。斯る場合に於て貧乏が飲酒の原因となつて居ることは明であるけれども、貧乏者が一度飲酒の悪癖に挿へられる時には彼は益貧乏の深みに陥り、遂にはこの苦境から脱出することが出来ない様になる。斯の如くして飲酒は貧乏の原因となることが少なくない。然し貧乏者の内果してその幾割が飲酒のために貧困の状態に陥つて居るかは容易に判断すべきことでない。然し或専門家の間には貧乏者の二割五分位は確にその原因を飲酒に歸することが出来ると言つて居る。

我國に於ても古來「酒は狂水なり」といふ言葉があるのだから、飲酒が精神上に少なからぬ悪影響を及ぼすことは言ふまでもなきことである。精神病患者に就きその原因を研究したる所の専門家は少なくとも彼等の二割が両親の飲酒に原因して居ることを認めて居る。然し飲酒の精神上に及ぼす影響は單に此等の數字によりて知ることは出来ない。何となれば精神病者は飲酒の悪影響が最も極度に表れたる結果に過ぎないからである。私共は精神病者に比して稍輕微なる影響を受けて居る者に白痴低能兒等のある事を記憶しなければならぬ。思ふにこの階級に屬する不幸なる人々の三割乃至四割も亦両親の飲酒にその原因を歸すべきは明である。更に進んで中等教育若くは高等教育を受くるだけの能力なき人々をも精細に調査したならば、私共は此

處にも明にアルコールの悪影響を見出すことが出来るに相違ない。故に優種學の目的を達するには常に個人的禁酒のみならず國民的禁酒を奨励する必要がある。

犯罪の約五割が直接及び間接に飲酒に原因して居ることは多くの専門家が認めて居る事實であるが、これは社會問題を研究する者の最も注意すべき點である。若し禁酒の實行により犯罪の五割を減ずることが出来るとしたならば、國民はこれによりて如何に大なる利益を得るであらうか。罪人の五割を減ずることは國家經濟の上から見ても重要問題である。然し犯罪の減少は單に金錢の問題のみではない。犯罪の數が増加すればそれだけ國民は不安の念を強くすることになる。故に犯罪の半を減ずることは社會安寧のために大なる關係があることを記憶せねばならぬ。

概して言へば飲酒の悪癖は品性を破壊するものである。飲酒者の内には酒量を適宜に節し得る所の人もある。又或程度まで飲酒しても何等狂態を演じない人もある。然し飲酒の結果全く理性を失ひ、平常とは全く反對したる醜態を曝露する者もある。甚だしきに至りては他人の迷惑をも考へず亂暴狼藉を働く者もある。要するに飲酒は紳士たる品性を傷つけるものであるから、常に修養に志す所の人は絶體的に禁酒することが最も安全なる道である。

何れの國に於ても數十年以來禁酒運動が盛に行はれて居るのであるが、米國は遂に率先して國民的禁酒を斷行することとなつた。米國が斯の如き花々しき成功を來たしたものは久しき間

に於ける禁酒運動家の功に歸せねばならぬ。而して彼等の運動が極めて秩序的であつたことは私共の大きいに注意すべき點である。彼等はあらゆる方面に於て活動を試みたのであるが、殊に兒童の精神に禁酒の必要を鼓吹するために全力を注いだのである。而して彼等の政治運動は先づ市町村といふ自治體に於て禁酒法を通過せしむることにはじまつたのである。斯くの如くしてその勢力は州全部に及び、毎年州議會に於て禁酒法の通過を見るものが少なくなかつた。今や時來つて禁酒法は遂に合衆國全體の法律として通過する様になつたのである。然し米國人は單に一國民の禁酒實行を以て満足しない。彼等は近き將來に於て世界的運動を起し、あらゆる國民に禁酒の福音を宣傳せんとして居る。私は獨逸が肺病撲滅の爲めに國民的運動を起したること、米國が國民的禁酒を斷行したことを以て二十世紀に於ける社會的・二大運動であると信ずる。

私共は如何なる方法によつて國民的禁酒を斷行することが出来るかといふに、先づ第一に小學校兒童の心に禁酒の必要を打ち込むことが有効であると信ずる。よし國民の多數が飲酒の習慣に囚はれてゐるとしても、若し彼等に子孫の幸福を考へる誠意があるならば、彼等自身の爲めではなく、子孫のために禁酒の道を開くことが當然である。而してその最も有效なることは小學及び中學の教科書に於て明瞭にアルコールの害を説明することである。米人はこの方法によりて彼等の運動に大なる成功を來して居る。私共もまた同一方法によりてその目的を達する

禁酒と教育

禁酒と女子

ことが最も賢き方法である。

多數の女子が飲酒に反對して居ることは論ずるまでもない。若し勞働者の多數が酒の爲に賃銀の少なからぬ部分を消費することがなかつたならば彼等の家庭は如何に其幸福を増進する事であらうか。大酒家の妻が常に人知れず悲嘆の涙にくれて居ることは何人もよく知つて居る所の事實である。勿論酒のために少しも態度を亂さぬ所の人々もあるから、飲酒家の妻が悉く非常に迷惑を蒙つて居るとは言へないけれども、主婦の大多數が夫の飲酒によりて大なる苦痛を感じて居ることは何人もこれを認めねばなるまい。若し飲酒のため不幸にして狂的情態に陥いる人があるならば妻子の苦痛は一層甚しいのである。彼等は單に罵詈雑言の憂目を見るのみでなく、往々其身に危害を加へられることも覺悟しなければならぬ。斯の如くして幸福なるべき家庭は全く此世ながらの地獄と化し去るのである。故に女子の多數が酒を以て家庭の破壊者と考へて居るのは決して怪むべきことでない。若し女子に禁酒に對する賛否の意見を問うたならば、百人の中九十九人までは必ず熱心に賛成の意を表するに相違ない。米國の諸州に於て女子が參政權を得るに至つた時彼等が何れも禁酒法通過のため努力したことは顯著なる事實である。私は此意味に於て我國の女子に參政權を與へることの極めて得策であることを信ずる。女子參政權獲得運動は決して男子に對抗するとか、或は男子の既得權を侵害することを主たる目的とするものでない。女子參政の結果から見れば女子は子女の利益を謀り男子の幸福を増進す

禁酒と社會教育

るために最も多く盡力して居る様である。米國が他の諸國に率先して徹底的禁酒主義を斷行するに至つたのも女子の努力に負ふ所が少なくない。

前に述べたるが如く禁酒を實行するには小學及び中學の教科書に禁酒の必要なることを説き、兒童の心にアルコールの恐るべきことを知らしむる事は最も有效なる方法であるが、私共は同時に社會教育の方面からも禁酒の實行を促進する方法を講じなければならぬ。社會教育の要は社會を指導すべき任に在る人々をして社會全般の爲めに好模範を示さしむるに在る。社會心理の見地から言へば如何なる人も多少に拘はらず他人を模倣する性質を有して居るのであるから、これを巧に利用さへすれば私共は多大の効果を擧げることが出来る。飲酒を絶對的に禁止することは容易なることではないけれども、これを交際場理から葬り去ることは多くの苦痛なくして實行することが出来ると信ずる。酒を嗜む人が獨り家庭に於て其慾望を満足せしむることは、よし害毒があるとしても、其は家庭といふ範圍に限られて居るから影響の及ぶ所も比較的に狭い。然し飲酒の習癖が社會的になれば凡ゆる機會に於て酒を用ゆることになる。結婚、出生、祭禮、祝勝、歡迎、送別といふが如き歡喜の席に於ては勿論、葬式、盆祭といふが如き悲哀の場合に於ても酒が殆んど缺くべからざる附物になる。これは明に社會一般に對して飲酒の習慣を宣傳するような結果となるから、私共は先づ此點だけでも改めたいものと常に思うて居る。若し社會の指導者を以て任ずる宗教家と教育家及び飲酒の害を科學的に説明することの出来る

實行し易き禁酒法

醫師とが率先して社交的に酒を用ふることを廢止したならば、其影響の及ぶ所果して如何であらう。私は決して此等三階級の人々に難きことを要求するのではない。彼等の中に禁酒することの出来ぬ人があるならば彼等の家庭に於て飲酒すれば宜いではないか。多人數の集會に於て彼等指導者が公然酒を用ゆるといふことは單に飲酒を是認することになるのみでなく、後進者たる青年に對して飲酒のプロバガンダをやつて居るに等しき行爲である。私共社會教育といふ立場から此等三階級の人々に公衆の面前に於て飲酒することを遠慮してもらひたい。

禁酒禁煙の如きは道德宗教の力によりて行ふべきもので、法律の力に頼るべきものでないと論ずる人があるけれども、これは單に理想論たるに過ぎない。我國の幼年禁煙法案が議會にて討議せられた時にも私共は同様の反對論を聴かされたのであつたが、同法案が法律となつて實施せられた以來私共は確に立法の目的が大部分達せられて居ることを信するのである。勿論私共は法律萬能を信するものではないが、同時に又宗教道德の萬能を信するものでもない。若し禁酒禁煙の如き事を全く宗教道德の力のみによりて實行せんとするならば、百年の年月を待つても到底其目的を達することは出来ないであらう。故に或場合に於て法律の力を借ることは最も有效なる方法であるかも知れぬ。米國は或程度まで道德宗教の力に頼りて國民の輿論を造り、最後に法律の力によりて禁酒を斷行すること、なつた。然し我國が果して法律の力により禁酒を斷行することが出来るや否やは大なる疑問である。多數の人々が法律の制定に反對するや否

やは主として其人々の利害關係によりて定まるもので、社會全體の利害は殆んど彼等の關する所ではない。酒を嗜む人々は必ず禁酒法の制定に反對するに相違ないが、若し彼等のみは法律の適用を受けないといふことであれば、彼等は法律の通過に賛成するかも知れぬ。少なくとも反對の態度を取ることがあるまい。然らば他日我國に於て禁酒法の制定せられる時、私共は人類共通の心理を利用することが最も賢き方法ではないかと考へる。今日既に飲酒の習慣に囚へられて居る人に禁酒を強ゆることは勞多くして效少ないのあるから、私共は未だ此惡癖に染んで居ない少年を保護することに重きを置かねばならぬ。換言すれば速に幼年禁酒法を制定し、滿十五歳以下の者に絶對的禁酒を強制し、違背者に對しては比較的重き刑に處することにする。而して禁止年齢を毎年一年宛繰上ぐることにすれば、少なくとも五六十年後に於て國民的禁酒を實行する様になる。國民には凡て生年月日を記したる役場の證明書を所持せしむことになるから、反則の嫌疑ある者は容易にこれを取調べることが出来る。我が國民が米國の如く近き將來に於て禁酒を斷行することが出来れば此上もなきことであるけれども、若しこれが不可能であれば、私は以上述べたる所のものを容易に實行すべき方法として推薦する。

第九編 社會主義

第一章 社會主義の哲學

第一節 物質的方面と精神的方面

各種治療法の長短

私は最後の治療法として社會主義を説明するに當り、先づ今迄述べ來つた所の治療法につき其大體を説明することの必要を感じる。換言すれば今迄述べ來つた所の治療法が最後の根本的治療法たる社會主義と如何なる關係を有するかを説明することは、社會主義を了解するためには少からぬ便宜を與へると信するからである。今迄説明した所の治療法は何れも相當の效力を有して居るに相違はないけれども、決して貧乏といふ社會的疾を根本的に治療することは出来ないように思はれる。これが爲め最後の治療法として社會主義を紹介せねばならぬことになつたのである。然らば如何なる點に於て他の治療法には缺陷があるか、一々これを説明することは社會主義の因て起る所以を間接に説明することになる。私は他の治療法につき大略其長短を論ずることとする。私が第三編に於て説明した如く救濟事業は現代の社會に於て尙盛に行はれ

て居る。若しこれ等の事業を突然廢止することになつたならば、社會はこれがため如何なる打撃を受けることであらうか。今日の國家は到底公費を以てあらゆる不幸者を救濟することは出来ない。故に救濟事業が一朝廢止されることになれば社會に於ける弱者は全く滅亡するより外はあるまい。萬一これ等の弱者が團結して社會に反抗すること、なつたならば、社會は彼等の絶望的行爲により恐るべき災害を蒙るに至るかも知れぬ。斯の如く考へれば現社會に於ける救濟事業は弱者を扶助するといふ點から見ても、或は社會それ自身の安寧を謀る點から見ても、極めて必要なるものであると言はねばならぬ。故にこれに代るべき救濟法を行はずして一切の救濟事業を中止するが如きは全く亂暴なる政策と言ふべきである。然し救濟事業が決して貧乏病を根本的に治療することの出来ないことは明かなることである。何となれば救濟を受ける人々の數はよし増加することがあつても、決して減少することはないからである。元來救濟事業なるものは一時的のものであつて決して永久的のものでない。若し不幸者を永續的に救濟する様なことがあれば、單に彼の獨立心を失はしむるのみであつて、彼を獨立せしむる所以ではない。人類の理想から言へば、救濟事業を必要とする社會には必ず何等かの缺陷があることを考へねばならぬ。若し社會の組織を完全にすることが出来れば救濟事業の如きは全く無用物となるべき筈である。斯の如く論じ来れば私共は決して救濟事業に満足することは出来ない。寧ろ一日も早く救濟事業の必要を感じないような社會を現出せねばならぬと考へて居る。私が第四

編に於て紹介した所の教育事業がこれを救濟事業に比して遙かに優つて居ることは何人も容易にこれを認めることが出来る。救濟事業は主として物質的扶助を與へることを目的として居るけれども、教育事業は弱者のために精神的開發を謀ることを目的として居る。物質的援助は一時的であるに反し、精神的援助は永久的である。前者は人々の獨立心を失はしむる傾向があるけれども、後者は彼等に獨立自營の途を與へるのである。斯の如く考ふれば教育事業には殆ど何等の缺點なきが如く思はれるけれども、深くこれを研究すればこれにも尙満足することの出来ない點のあることを私共は發見するのである。大學植民事業の如きは立派なる教育事業に相違ないけれども、尙一種の救濟事業たることを免かれない。教育事業の經費は一切篤志家の寄附金によりて得られて居るから、此點に於ては普通の救濟事業と何等異なる所はない。たゞ其方法が精神的であるといふ點に於て優つて居るのみである。全體如何なる形式に於ても他人の援助を受けるといふことが、決して好ましくないことは何人もこれを認めるに相違はない。他人の恩恵によりて教育を受け或は生活するといふことは現社會に於て少しも珍しきことではないけれども、私共の理性は斯る社會に生存することを好ましくないこと、思はない、若し社會の改造が行はれ、何人も權利として教育を受け且つ生活することが出来るやうになるならば、何人もこれを以て理想社會と考へるに相違ない。然らば教育事業其物も決して現代の社會病を根本的に治療するものでないことは容易にこれを了解することが出来る。

第五編に於て説明した所の社會政策は其範圍が極めて廣く、其影響の及ぶ所も極めて大である。歐米諸國は勿論、我國に於ても社會問題の解決法として社會政策が最も盛に行はれつゝ、あることは人々の知れる事實である。殊に我國に於ては救濟事業及び教育事業の時代から初めて社會政策の時代に進んで來たのであるから、政府の當局者も資本家階級も社會政策に對して最も多く努力して居るのは當然のことである。然し社會政策も貧乏病の治療法として完全なるものでないことは私が既に述べた通りである。勿論救濟事業や教育事業に比すれば其規模が廣大であるだけ其効果も著しい。然し社會政策は現社會の組織を其儘に保存することを主張して居るのであるから、社會の病根に對して徹底的治療法を講ずることが出来ないのである。換言すれば有産階級が好意を以て、無産階級の幸福を謀らんとするのが社會政策の中心思想であるから、これ又一種の救濟事業に過ぎないのである。有産階級と無産階級との對立を前提として貧乏病の治療を試みんとする社會政策が決して其目的を達することの出来ないのは心ある人の充分に了解し得べき事であると信ずる。

第六編に於て私が説明した所のものは勞働組合、消費組合、信用組合及び生産組合といふが如き勞働者の共働運動であつた。これは社會政策の如く他人の力を借るのではなくて、全く自治的運動である。故にこれ等の共働運動は社會主義に到る第一歩であると言つても差支はない。若しこれ等の勞働團體が更に大同團結をなし、全く資本家階級を廢止することが出来るならば、

これは即ち社會主義の實現である。社會主義を以て一の空想に過ぎないと論ずる人があるけれども、今日の如く發達し來つた所の共働運動を見れば社會主義の實現が必しも不可能でないことは何人も多少これを認めることが出来ると思ふ。私共は此意味に於て勞働者の共働運動が將來如何なる點に迄發達すべきかにつき大なる興味を以てこれを注意して居る。最近我國にも紹介されるようになったギルド社會主義の如きは確に勞働者の共働運動と社會主義との間に密接なる關係のあることを示すものである。ギルドとは組合の意義であつて、今日の勞働組合は即ちそれである。英國に於て現今盛に稱へられつゝあるギルド社會主義は勞働組合をしてあらゆる産業を經營せしむることを目的として居る。勿論資本家階級を廢止し勞働組合をして産業全體を經營せしむるには現在に於ける勞働組合の組織に幾多の改善を加へねばならぬことは言ふまでもない。然し勞働組合を基礎として社會主義を實現せんとするギルド社會主義の主張には私共が大いに注意せねばならぬ眞理を含んで居るやうに思ふ。要するに社會主義の實行せられる社會に於ては消費組合が行ひつゝ、あるが如く卸賣商及び小賣商といふが如き仲介者を除去し、信用組合の如く高利貸及び現在の金融機關を廢止し、生産組合の如く勞働者自ら共同資本を以て生産を營むこと、なるに相違はない。社會主義の行はれる社會に於ては單に勞働階級のみの存在が是認せられ、地主及び資本家階級は全く廢止せられるのであるから、勞働者の共働運動は一步づ、社會主義の理想に進みつゝ、あるものと見るべきである。故に貧乏病を治療する

といふ點から見れば共働運動は社會政策に比して遙かに根本的である。但し今日の狀態から言へば共働運動は尙充分なる發達を遂げて居るといふことは出来ない。第一はこれ等の運動が未だ全く資本家との關係を絶つことが出来ぬといふことである。労働組合員は依然として資本家の雇人となつて居るのではない。消費組合員も其商品の大部分は資本家階級から得て居るのではない。現在に於て殆ど全く資本家の手から獨立して居るものは信用組合及び生産組合に過ぎない。而も絶對的獨立を維持して居るものは生産組合のみであつて、信用組合員の多數は依然として資本家の雇人である。彼等はたゞ金融關係に於てのみ資本家の援助を仰がないといふに過ぎない。第二は現在の共働運動が個々別々の團體となつて居るといふことである。勿論何れの共働運動も労働階級によつて行はれて居るに相違はいけれども、これ等は何れも獨立の狀態にある。若し社會主義が實現すること、なればこれ等の共働運動は當然統一せらるべきものである。斯の如く考へ來れば、労働者の共働運動が社會主義に達する第一歩であることはこれを認めることが出来るけれども、共働運動と社會主義との間には尙少なからぬ距離のあることを考へなければならぬ。

前に述べたる如く労働者の團體は共働を以て原則として居る。此點に於ては社會主義も同様である。然し共働運動は部分的の團結であり且つ資本家階級との關係を繼續して居るといふ點に於て社會主義と異なつて居ることは既に述べたる通りである。社會主義は現社會に對して一

根治法と
しての社
會主義

部分の改善を爲すことを以て満足しない。社會的疾を根本的に治療するには社會を改造するより外はないと主張するのである。而して如何なる點を改造するかといふに、社會主義は現在の私有財産制度を改めて公有財産制度となすことを主張して居る。要するに社會主義は貧乏病の原因が私有財産制度にあることを信じて居るのであるから、此制度を改めない限り貧乏病を全滅せしめることは不可能なりと主張するのである。若し社會主義が實行されるようになれば、社會主義以外の治療法は全く其必要を感じないやうになる。私有財産制度の廢止は必ず公平なる分配法の實行を見ることになるから、今日の如き貧富の懸隔は全く消滅することになる。人々が殆ど同一程度の生活を爲すこと、なれば、一部の人が他の人々の救済を受けて生活するといふことは想像することすら出来ぬことである。何人も教育を受けるには同一の機會を有することになるから、大學植民事業の如き教育事業の必要はなくなる筈である。其他社會政策の如きもこれを實行する餘地が無くなるに相違はない。然し社會主義が實現せられるまでは何人も他の治療法を無視することは出来ない。現在の社會組織が繼續する限り貧乏病は必然起り來る所の社會的疾であるとして考へなければならぬ。若し社會主義の如き理想のみを追うて應急的治療法を怠るやうなことがあるならば、社會はこれがために大なる損害を蒙るに相違ない。私

が屢述べた通り應急的治療法は根本的治療法の補助として併用すべき所のものである。兩者の間には何等の矛盾も無い事を記憶しなければならぬ。社會主義の理想は應急的治療法を全く不

用に歸せしむるにあるけれども、社會主義の實行を見る迄は決して應急的治療法を輕視してはならぬ。但し應急的治療法を以て完全に貧乏病を治療し得るものと考へるのも近眼的である。社會問題を研究するものは兎に角あらゆる治療法を調査して其の適不適を判断しなければならぬ。私共が現代に於ける一大思潮たる社會主義につき是非の研究を爲さんとするのは全くこれがためである。

社會主義には物質的及び精神的の二方面があるから、此兩方面より研究することが必要である。一部の人は社會主義が餘りに物質的であるといふ理由からこれを攻撃するのである。トルストイの如きは社會主義を以て最も物質的であるといふ判断を下して居る。人々の知れるが如く彼は最も精神的に基督教を解して居るのであるから、精神的生活を爲すためには或程度まで物質的幸福を犠牲にすることを必要として居る。少なくとも彼は物質的方面に心を用ゐることすらも罪惡であるが如くに考へて居るのである。然し社會主義が單に物質的方面のみを力説するものであると考へるのは誤解であるやうに思はれる。或人はマルクスの唯物史觀といふことを聞いて直ちに社會主義の説く所を物質的であると判断するけれども、これも亦決して正當なる見解ではない。マルクスは人類歴史の進化には常に經濟的事情が根柢となつて居ることを説いたのであるから、彼の歴史觀は明に物質的であるやうに思はれる。然し彼の意見がよし物質的であるにしても、それは唯歴史的進化を説明する所の哲學に過ぎないのであつて、社會主

社會主義
の二方面

義を根柢とする社會が全く精神的方面を無視するといふ事を意味するのではない。社會の進化が主として經濟的事情により左右せられることは争ふことの出来ぬ事實であるけれども、それは單に社會進化の道程を説明するだけのことであつて、社會そのもの、真相を解釋するものではない。社會主義は勿論貧乏病を根本的に治療することを目的として居るのであるから、其關係する所は主として人類生活の物質的方面にあるかの如く思はれるけれども、私共は更に進んで何故に貧乏病を撲滅するために社會主義の如き手段が提案されたかを考へなければならぬ。人類を貧乏病から救済するといふことは要するに人類の幸福を謀るといふにあることは争ふべからざることである。然らば貧乏病撲滅は人類の幸福を來す一の手段たるに過ぎない。若し社會主義が單に貧乏病を撲滅することを目的として居るのであるならば、其は決して私共の注意を惹くだけの價值はないのである。私共の見る所によれば、貧乏病撲滅は單に第一歩に過ぎないのであつて、社會主義は更に進んで人類の幸福を來すことを主なる目的として居るやうに思はれる。即ち社會主義の主張する所によりて考へるも、精神的方面が主であつて、物質的方面は單に従屬的に過ぎないといふことは明かなることである。古來精神的方面を力説する所の人々にして社會主義の主張に共鳴する所の者が少なくない。基督教信者の間に社會主義を信する者が比較的が多いのであつて、彼等が基督教社會主義なる團體を作つて居ることも、或はラスキン及びモリスの如き第一流の美術家が熱心なる社會主義者であることも確かに社會主義が

精神的方面を主として居ることを證明して居るのである。斯の如く論じ来れば、社會主義を以て單に人類の物質的要求のみを満足せしむるものであると考へるのは大なる誤解であると言はねばならぬ。私は以下社會主義の精神的方面に於ける主張に對して少しく説明を試みることにする。

社會主義が其精神的目的を達するために先づ物質的の一大不幸とも稱すべき貧乏病を撲滅せんとして居る事は社會主義を研究せんとするもの、先づ知らねばならぬ所のことである。換言すれば社會主義が先づ人類生活のために物質的幸福を與へんとするのは、全く精神的幸福を得せしむる手段であつて、物質的幸福それ自身が決して其の最終目的では無いのである。然らば社會主義は人類が如何なる精神的状態にあることを以て最も幸福であると考へて居るのであらうか。私は社會主義者の主張を綜合して彼等の目的とする所が自由、平等、博愛の三者にあることを信ぜざるを得ない。これ等の標語は佛國革命以來自由主義者の間に信條として採用せられた所のものであるが、デモクラシーの理想も亦此三者に外ならないと信ずる。然し佛國革命以來既に百十數年の星霜を經過して居るけれども、これ等の理想は未だ其實現を見るに至らない。今日も尙依然として自由平等の精神に反する政治は世界何處に於ても行はれ、弱肉強食の非行は尙全世界を支配して居るではないか。私共は我國の政治が其理想に對して相去ること甚だ遠きを見るのみでなく、歐米諸國の状態を考へても、デモクラシーの理想は未だ容易に其實現を

社會主義
の目的

見ることの出来ないことを感ずるのである。斯の如く百十數年の努力を以てしても尙其理想に接近することさへ出来ないのを見れば私共は最早デモクラシーの主張に對して充分信頼することの出来ないの感ずるやうになつた。然し此行詰りの状態にあつて社會主義は尙一の活路を指示することが出来るといふことを主張して居る。現代の政治に於て未だ自由、平等、博愛の精神が徹底して居ないのは其根柢に横はる經濟組織に缺陷があるから、先づこれを改造せねばならぬといふのが社會主義の主張である。若し政治的に自由平等を得んと欲するならば先づ經濟的にこれ等のものを得なければならぬ。經濟界に於て奴隷生活を爲して居る者が如何にして政治的自由を得ることが出来るやうか。政治的に平等主義を實行せんと思ふならば先づ經濟的にこれを實行するより外はない。經濟は本であつて政治は末である。百數十年間に於て人類がデモクラシーの理想を實行することの出来なかつたのは全く經濟組織の改造といふことに注意しなかつた、めである。故に社會主義は經濟組織を改造することにより初めて自由、平等、博愛の精神を完全に實現することが出来るといふことを主張して居る。

立憲政治の行はれて居る現代に於て政治的自由を各人に與ふことは殆ど政治の原則であるが如くに考へられて居る。然し我國人は政治上に於ける自由平等すらも充分にこれを獲得して居ない。私共は憲法によつて言論の自由、集會の自由及び結社の自由を保障されて居るに拘らず、實際に於てはこれ等の自由に多くの制限が加へられて居る。國民の中には斯の如き權利の

産業的自
由

制限に對してすら何等の不平を感じない者さへある。これ等の状態に比すれば歐米の人々は遙に政治的に自覺し且つ多くの權利を獲得して居る。勿論彼等と雖も其權利に對して多少の制限を加へられて居るけれども、決して我國に於ける如く甚しきものではない。故に彼等は我國民に比してより多くの自由を有して居るといふことが出来る。彼等自身も亦左様に考へて居るかも知れない。然らば彼等は眞に自由の民であるかといふに決して左様ではない。彼等は政治上に於て比較的完全なる自由を有して居るかも知れないが、彼等は果して經濟上同一の自由を有して居るのであらうか。換言すれば歐米人が政治的自由と同じく産業的自由をも有して居るといふことは大なる疑問である。彼等には職業選擇の自由があるけれども、資本家を離れて獨立的に勞働する自由はない。勿論勞働者の中幾分かは自らの小資本を以て獨立勞働を爲し、或は數十人若くは數百人の資本を合して共同勞働を爲して居る所があるけれども、彼等の大部分が間接直接資本家に使役せられて居ることは事實である。今日の如き經濟組織に於て多數の勞働者が資本家によりて職を得るといふことは已むを得ないことであるといはねばならぬ。若し彼等が資本家の手を離れることあらば恰も水を離れたる魚の如く、全く餓死するより外はない。彼等は斯の如く政治的には完全なる自由を有するけれども産業的には殆ど何等の自由をも有して居ない。彼等は實に資本家の手を離れるといふ自由すら有して居ないのみならず、屢働くといふ自由さへ失ふことがある。彼等には働かぬべき場合に働かぬといふ自由はあるけれども、

働かんと欲する時に必ず働くことが出来るといふ自由はない。失業し今日の經濟組織に於て當然起り來るべき事實であるから、人々はこれを不可抗力と解するかも知れない。若しこれが不可抗力であるとすれば失業者は天に對して其不平を訴へる外はない。然し失業が決して已むを得ぬ出來事でないことは何人も容易にこれを了解することが出来るのであるから、私共は其責任を現代の經濟組織に歸する外はないと思ふ。要するに勞働者が働かんと欲して働くことの出來ないのは即ち勞働の自由を束縛されたものと見ることが出来る。これでも尙勞働者は産業的自由を得て居るといふことが出来るであらうか。而して失業は單に勞働者のみに限られたることではなく、精神勞働者にも亦同一の不幸が襲ひ來ることを記憶せねばならぬ。故に失業は總て他人に雇はれて勞働する人々の上に来るべき運命である。斯く考へ來れば現社會に於ける大多數の人々には生活の保障といふものがない。従て産業的自由がないのである。更に勞働時間といふことを考ふれば、多數の勞働者が甚しき束縛を受けて居ることは明白に證明せられて居る。從來の如く工場に於て毎日十時間乃至十二時間勞働を爲す必要があれば、勞働者は何れも奴隸の状態に陥いるの外はない。勞働時間は恰も鐵鎖の如く彼等を工場に繋ぐのである。然も十時間乃至十二時間其自由を失ふのであるから、彼等は如何に修養せんとするも其に必要な時間を得ることが出来ない。故に今日の工場制度が繼續する限り勞働者は何時迄も無學無智の状態に甘じなければならぬ。國際勞働會議の結果勞働時間は八時間に減せられたのであるから、

從來に比して労働者が多少修養の時間を得るに至ることは勿論であるけれども、八時間の労働も尙労働者に對しては大なる負擔であるといはねばならぬ。資本家が果して意識的に労働者に長時間の労働を爲さしめて居るか否かは疑問であるけれども、長時間の労働が労働者を無學の状態に留らしむるには最も有效なる手段であることは、何人も容易にこれを認めることが出来る。兎に角今日の労働時間が労働者をして奴隸の状態に留らしめて居ることは明白なる事實であると言はねばならぬ。現代の經濟制度が私共から自由平等の權利を奪去つて居ることは他の方面からこれを見る事が出来る。資本家が其大なる金力を以て彼等の思ふ如く政治界を左右せんとして居ることは何れの國に於ても見る事の出来る事實であるが、彼等は自己の利益を保護するために往々多數民衆の言論に對して壓迫を加へることが珍しくない。此點から見ても政治上の自由を得るためには先づ經濟組織の改造を行ふことが必要になつて来る。

社會主義の立場から言へば平等主義は實に其中心思想である。換言すれば自由、平等、博愛の中等等は實に社會主義の特徴と言ふことが出来る。殆ど如何なる人も自由及び博愛といふことに對して異見を發表する必要を認めない。よし反對の意見を有するとしても、これを發表するには多少躊躇する所があるのである。故に現社會組織を辯護する所の人々も自由及び博愛の思想に對しては比較的好意を示すのである。何となればこれ等の思想は必しも彼等の利益を傷けるものでないからである。然し平等主義は餘りに明白に現在の社會組織に反對するのである

有名無實
の平等主
義

から、これに對して猜忌心を抱く者が少なくない。私共は如何なる方面を見ても多くの不平等が存在して居るのを見るのであるから、若し徹底的に平等主義を唱へることになれば、優勢の地位にある所の人々がこれに對して反抗するのは少しも怪しむべきことでない。若し社會主義が一部の人々に蛇蝎視せられることがあるとすればこれは全く其中心思想たる平等主義に因るものと言ふべきである。平等主義は斯の如くして一部の人々に最も多く敵視せられて居る。然し社會主義の強味は又此點にあることを記憶しなければならぬ。私共は今日政治的に平等である。然し政治的平等は私共に取りて何程の價值を有して居るのであらうか。言ふ迄もなく私共は政治的にも社會的にも絶對的平等なるものを有して居ない。例せば政治上に於て選舉權を有する者と有しない者との區別があり、社會上に於ては貴族と平民の區別がある。然しこれ等の不平等は私共の生活に對して何等著しき影響を及ぼすものではない。選舉權を有する者と有しない者との間に反感もなければ競争もないのである。これに比すれば貴族平民の區別は幾分か私共に面白からぬ感情を與へるけれども、別に私共の幸福に對して著しき影響を及ぼすものがない。斯く論じれば私共は政治上に於て殆ど完全なる平等主義を實現して居ると言ふことが出来るけれども、一度經濟的方面を考ふる時には私共の平等主義は全く有名無實であることを發見する。今日の如く貧富の懸隔甚しき社會に於ては富の程度を標準として嚴格なる階級の區別が存在して居る。而して其階級は社會的にも經濟的にも對立して居るのであるから、單に彼

等の間に同情心の存在を見ることが出来ないのみならず、反つて年と共に其猜忌心を高めつ、あるが如く思はれる。而して經濟的不平等は政治的不平等に比して其根柢の極めて深きことを考へなければならぬ。例せば貴族と平民との間には多少の交際が行れて居るのみならず、時には結婚關係を生ずることさへもある。然るに資本家と労働者の間には殆ど越ゆることの出来ない深淵が横つて居る。彼等の間に交際の行はれて居ないことは言ふ迄もなきことであるが、彼等の間に結婚關係を生ずるが如きことは絶無である。これによりて見れば經濟的不平等があらゆる不平等の根柢を爲して居ることは容易にこれを推測することが出来る。斯く論ずればとて私共は決して總ての不平等を除去することが出来ると信するものではない。人々の才能及び人格が同一でない以上は其處に不平等が必ず生じて来る。斯の如くして優者が劣者の上に立つて支配するといふこともある點迄は是認しなければならぬ。若し社會的及び政治的不平等が人々の眞價によりて定まるならば私共はこれに對して何等反對を試むべき理由を見出さないけれども、財産の多少によりて優劣が定まること今日の如くであるならば私共はこれに對して飽迄も反抗せざるを得ない。故に經濟的不平等を矯正せずして政治的及び社會的平等を得んとするのは全く其本末を顛倒したものと云ふべきである。才能及び人格の相違といふことも大部分は教育の結果であることを考へなければならぬ。同時に教育の有無は多く財産の有無に因ることを記憶しなければならぬ。故に經濟的平等主義が實行せらるれば教育上にも人々に同一の機會を

與へることが出来る。教育の程度が同一になれば才能及び人格も或程度迄其差異を減ずることが出来る。社會主義の唱へる所は實に斯の如き平等主義を理想として居るのである。

博愛といふことが人生々活の最高標準であることは何人もこれを認むるに相違ない。何となれば宗教道德の理想も畢竟博愛の二字に歸着するからである。然し現代の社會に於て博愛の精神が充分に實現されて居ないことも争ふことの出来ぬ事實である。博愛は單に宗教道德の理想であるのみならず、又經濟の理想でなくてはならぬ。私共が經濟的行動を爲すに當り自他共に利益を得るといふことは當然のことである。己の欲する所を人に施すといふことは經濟の原則であらねばならぬ。然し今日の實業は果して此の理想に合致して居るであらうか。更に政治の方面を見、殊に國際的關係を考へるならば、私共は博愛的精神の缺乏を見るといふよりも寧ろ利己主義の跋扈を見るといふのが適當であると思ふ。競争主義が行はれて居る處に博愛的精神の發達する筈が無い。物質的競争制度の下に於て博愛主義を唱へる者は終に自滅する外はないのである。若し下等動物の間に博愛の精神が存在して居たとしたならば彼等は果して自己の生命を全うすることが出来るであらうか。人類の場合に於ても博愛的精神が競争制度の下に充分其勢力を伸ばすことの出来ないのは明かなることである。私共が敵を倒すにあらざれば、敵は必ず私共を倒すに相違無い。優勝劣敗は生存競争の原則であるから、博愛主義によりて競争場裡に立たんとする者は結局自滅するより外ないのである。元來戰爭は博愛と兩立し得べきもの

ではない。然るに今や世界の強國は何れも戦争の爲めに出来得るだけの準備を爲し、機會さへあれば何時でも相争はんものと待ち構へて居る。何故に現代の社會は斯の如く博愛の精神を没却する迄に競争を恰も人生々活の原則であるが如くに考へて居るのであらうか。言ふ迄もなく現代の競争は主として食物競争から來るのであるから、競争を杜絶するためには今日の經濟組織を改造してこれを共働主義の基礎の上に置かねばならぬ。斯の如くして博愛の精神は初めて私共人類を支配する所の道徳律となる事が出来るのである。

古來理想社會を説いた人は少なくない。宗教家の中にも經世家の中にも種々なる方面から理想社會は斯の如きものであると説明した所の人がある。然し何れも空論に過ぎなかつたのである。彼等は容易に理想社會を想像することが出来たけれども、如何にしてこれを實現すべきかに就いては適當なる考へを有して居なかつた。彼等は人類の精神的方面が發達さへすれば理想社會の實現は決して不可能ではないと考へて居たらしい。然し精神的發達が常に物質的條件のために制限せられて居ることには考へ及ばなかつたのである。勿論人類が悉く完全なる人間となるならば理想社會は直ちに實現するに相違ないけれども、私共が悉く完全なる人間となるには多くの物質的條件が準備されて居なければならぬ。日常生活の經驗によりて考ふるも、私共の精神が多く私共の身體に支配されて居ることは争ふことの出来ぬ事實である。私共が如何に勇氣を奮つて遠距離の道を走らんとしても私共の身體が虛弱であれば決して其目的を達するこ

社會主義
の強味

とは出来ない。前に述べたるが如く自由、平等、博愛の理想を實現することは佛國革命以來多數の有識者が熱望した所のことであるけれども、百數十年を経過した今日に於て尙其希望を達することが出来ない。よし今後數百年を費しても今日の儘では容易に此理想を實現することは出来まいと思ふ。然るに社會主義の唱ふる所は先づ物質的方面を改造して理想の實現に對する障害物を除去するにある。私共の理想が何時迄も實現されないのは現代の經濟組織が其最大原因を爲して居る。若し今日の經濟組織を根本的に改造するならば自由、平等、博愛の理想は容易に實現することが出来るのである。社會主義の説く所が從來唱へられた空論と其趣を異にするのは全く此點にある。宗教家及び經世家の多くは精神的改造を爲すことにより物質的改造の可能なることを説いたのであるが、社會主義は先づ物質的改造を行ふのでなければ精神的改造は全く不可能であると主張するのである。私は此處に社會主義の強味があることを認めざるを得ない。

第二節 自由競争と社會主義

現社會のあらゆる方面に於て競争が行はれて居ることは明かなる事實であるが、これと同時に共働の勢力が年々増加しつゝ、あることも亦争ふことの出来ぬ事實である。私共は自由競争にも亦或意味の進化がある事を記憶せねばならぬ。即ち個人間に行はれたる競争は漸次團體の競

競争より
も共働

争となりつ、あると共に團體其物の中には競争の代りに共働が行はれるやうになつた。而して團體の競争が常に小團體から大團體に移りつ、あることを認めねばならぬ。要するに團體の大きくなるだけ共働の範圍は廣くなり、これに反して競争の區域は比較的狭くなるといふ傾向が現はれて居る。私はこれを政治的方面に於て例示したいと思ふ。昔は個人と個人との間に勢力競争が行はれたのであるが、人口の増加するに従ひて競争の範圍は擴大し、個人的競争から部落競争となり、民族競争となり、國家競争となり、終に人種競争とならんとして居る。斯の如くして小区域内に於ける競争は共働に變じたのであるから、若し國際聯盟の理想が充分に實現されること、なれば私共は全く政治的競争の廢止を見ることが出来るに相違ない。更に經濟的方面を見ても私共は同様の事實を見ることが出来る。昔は個々の事業家が互に競争を試みたのであるが、合資合名會社若しくは株式會社の制度が行はれるやうになり經濟的競争は著しく大規模となつたのである。然し會社と會社との間に競争の行はれることも明かに不利益であるから、今や同一事業に従事する大會社は更に大なる聯合組織をなし、所謂ツラストなるものを設立して出來得るだけ競争を避けんとして居る。マルクスは數十年前に於て經濟界が終に大規模の聯合組織を取るに至るべきことを豫言したのであるが、今や其徵候は充分に現はれて居る。若しあらゆる經濟的活動が國家の手によりて統一せられ、更に進んで國際聯盟の如く世界各國が經濟的にも聯盟を爲すこと、なれば、今日の如き經濟的競争は全く其影を潛め、共働主義が

物質競争
と精神競争

あらゆる經濟活動を支配すること、なるに相違はない。現在の社會制度を擁護する人は自由競争を以て恰も金科玉條であるが如くに信じて居るけれども、有力なる實業家の多數が常に競争を避けんがためにツラストといふが如き獨占的事業を組織することに苦心して居ることは私共の大いに注意せねばならぬ點であると思ふ。激烈なる競争を爲すことが如何に不利益であるかは實業家が最も多くこれを經驗して居る。これがため彼等は常に意識的に若くは無意識的に競争を避けることに努力して居る。これによりて見れば共働が終に競争に代るべき運命を有して居ることは明かである。社會主義の哲學は實に此點にあることを記憶しなければならぬ。

生物の進化は競争に因るのであるから、競争によりて人類の進化を説明せんとするのは必しも不當でない。然し人類を下等動物と同一視し、人類も亦下等動物と同じく食物競争を爲すべきものであると考へるのは誤である。人類は下等動物と異なつて精神生活を爲すべき運命を有して居る。従つて私共の競争は精神的であつて物質的であつてはならぬ。言ふ迄もなく物質競争には大なる弊害の伴ふものである。下等動物の間に行はれる物質競争は即ち食物競争であるから、其慘酷なることは到底人類の堪へ得る所でない。食物競争は優勝劣敗といふことを意味するので、文字通りに弱肉強食である。故に動物界に於て劣者となることは直ちに滅亡といふことを意味する。即ち食物競争に於て失敗すれば、優者のために殺されるか若くは食物不足の爲めに餓死するより外はない。斯の如き競争が或程度迄人類社會に行はれて居ることは折むこ

との出来ない事實であるけれども、私共人類の道德観は果して何時迄も斯の如き罪惡を看過することが出来るであらうか。私共の目的は精神的發達にあるのだから、其目的を達する手段として或程度迄衣食住の必要を感じるのである。精神的競争は決して私共に害を與へるものではない。人類の發達は食物競争によりては無く精神的競争によりて求むべきである。然るに食物競争は常に私共の精神競争を沮害するのであるから私共は斷乎として食物競争に反對せねばならぬ。

食物競争が精神的競争に妨害を與ふことは既に述べた通りであるが、或種の物質的競争にすら食物競争は有害である。例せば力士が腕力の競争を爲す場合に於て、若し彼等が食物を得るために心を勞するといふことがあつたならば、彼等は果して其技倆を充分に發揮することが出来るであらうか。力士が其技倆を闘はす場合は全然食物競争を度外視しなければならぬ。換言すれば彼等は何れも充分に食物を得て居るといふ假定の下に其勝敗を決せしめねばならぬ。若し甲の力士には充分なる食物を與へ、乙の力士には少量の粗惡なる食物を與へたとしたならば、何人もこれを公平なる競技と言ふことは出来まい。ランニングの場合に於ても其理は一である。若し競走者に同一の食物を與へないで競走を爲さしめたならば、これは決して公平なる競走ではない。斯の如く食物に區別を設けることは一方の競走者にハンディキャップを與へるのであるから、何人もこれを公平なる競技といふことは出来まい。堂々たる競技に於て何等の

運動競技
と競争

ハンディキャップをも與ふることの出来ないのは言ふ迄もなきことであるが、現在の社會組織に於てあらゆる競争に食物のハンディキャップが附いて居るのは實に不公平なる事であると言はねばならぬ。私共は自由競争を以て全科玉條の如く考へて居る人々の心を了解するに苦しむ者である。若し總ての人々が同一の食物を得て居るならば自由競争にも意義があるけれども、今日行はれつゝある競争には悉く何等かのハンディキャップが附いて居るのであるから競争といふことも全く無意義となつて居る。中學若くは大學教育を受けた人々を僅かに小學教育を受けた者と競争せしむることは實に慘酷である。これ等の競争を見て自由競争であると考へて居る人は恰もアムフィシエーターに於て人間と猛獸とを闘はしめ、これを見て樂んだ所の羅馬人にも優る残忍性を有する人であると言つても差支はない。私は更に他の實例を擧げて私の言はんと欲する所を充分に説明して見たい。若し此處に兩軍相對して將に戦争を開かんとして居る場合を想像したならば、何人も其處に食物のハンディキャップが附いて居ることを考へる者はあるまい。兵士は單に戦争するだけであつて食物のために心を勞する必要は無い。何となれば彼等のために兵站部が絶えず必要の食物を供給して居るからである。然るに明治二十七八年の日清戦争に於ける支那兵は自ら戦役に従事すると共に各自食物を調理するとなつて居たのである。例せば彼等は兵器と共に鍋釜といふが如き炊事道具をも携帯すべき義務を有して居たのである。斯の如く甲の軍隊は専ら戦争に従事し、乙の軍隊は自ら食物の世話迄も爲さねばならぬといふこ

とであれば、公平に兵士としての競争を行ふことの出来ないのは明かである。これ等の實例によりて見れば、腕力競争の如き物質競争に於てすら食物競争が如何に妨害を與へるものであるかは容易にこれを了解することが出来る。況して精神的競争が食物競争のために少なからぬ害を蒙つて居ることは言はずとも明かなることである。

食物競争が盛に行はるれば其の結果人類が終に墮落するやうになるのは已むを得ぬことである。私はこれを證明するために或進化論者の説を紹介する。彼の説によれば人類が他の動物に比して優者となつたのは彼が石若くは木枝を握ることの出来るやうになつたことに原因する。彼はこれ等の武器を使用することにより終に優者の位置を占めるやうになつた。然し武器の爲めに優者となつた人類は益々優秀なる武器を發見するやうになつたから、終には優秀なる武器を所有さへすれば如何なる人も優者となることが出来るやうになつた。而して文明の進むに從ひ優秀なる武器は多額の金を要することになつたから、富者にあらざればこれを所有することが出来ないやうになつた。換言すれば如何に個人として劣等であつても、優秀なる武器さへ所有すれば優者として社會に立つことが出来るやうになつた。其の結果武器の發達すると逆比例に個人其者は墮落するやうになつたのである。以上は進化論者の意見であるが、現今の社會に於て私共が常に見て居る所の事實は明かにこれを證明して居るやうに思ふ。現今社會に於て重要な位置を占めて居る人々は必ずしも眞實の優者ではない。若し彼等から財産や位地を取除

人類の墮落

いたならば、赤裸々になつた彼等は多く劣者であるに相違ない。若し今後食物競争に成功した者が優者として尊重さる、やうになつたならば、個人としての眞價は益々下落するに相違はない。

私共の目的は下等動物の境遇を離れて人間らしき生活を送るにある。下等動物は勿論であるが、野蠻人も亦食物競争の爲めに最も多く努力して居る。何となれば彼等には自然を征服するだけの知力が無いために已むなく食物の爲めに競争せねばならぬからである。然るに私共人類は自らの努力によりて多量の食物を生産することが出来る。若し又人口増加の爲めに苦しめられることがあれば、彼等は人爲的に人口を制限する方法を知つて居る。これがため人類は當然食物の爲めに競争する必要を感じることがないから、彼等は充分精神的發達のために努力することが出来る。勿論私共は下等動物や野蠻人が食物のために競争することの必要であつたことを認めると同時に食物競争が彼等を進化せしむるために大なる刺戟であつたことを信ずるのである。然し下等動物に適用すべき進化律を以て同じく文明人に適用せんとするのは大なる誤ではないかと思ふ。私共は進化律にも亦進化が必要であることを信ずる。私共人類に適用せらるべき進化律は食物競争ではなくて精神競争である。凡そ物質的進化には或種の制限がある。若し其制限に達する時は私共は最早物質的進化から精神的進化に移るべき時期に到着したのである。進化論者として有名であつたドラモンド教授は其著書に於て次の如きことをいうて居る。

進化の目標

「私共が所有する五本の指の中拇指のみが他の四指と分れて反對の位地に立つやうになつたのは驚くべき進化であると言はねばならぬ。何となれば人類はこれによりて如何なる機械でも自由に取扱ふことが出来るやうになつたからである。然し人類の指が尙これ以上進化するものであるとは考へられない。物質的進化は此點に於て止つたのであるけれども、人類は更に精神的進化を來した、め、指よりも遙かに巧妙なる機械を發明することが出来るやうになつた。これによりて見るも物質的進化には或種の制限があることを明かに知ることが出来る。私共人類は過去に於て食物競争のために努力したけれども、今や其競争を中止して精神競争のために奮勵すべき時代に到達したのである。今日尙私どもが食物競争に満足して居るとは寧ろ大なる恥辱ではないかと思ふ。多數の人々が毎日其努力の八九分を食物競争のために費して居ることは事實であるけれども、これは實に人類生存の目的を無視したる行爲であると言はねばならぬ。若し私共の住宅を建築するに當り客室及び書齋などを極めて小さくし、臺所のみを大きくしたならば人々は何とこれを評するであらうか。現代に於ける人類生活が正に斯の如き矛盾を現はして居るに拘らず、多數の人々がこれを怪しまないのは實に驚くべきことである。私共の理想から見れば食物のために費すべき時間は毎日二三時間で充分なりと信するのである。其他の時間を悉く文化生活のために費することが出来れば、私共は初めて人間らしき生活を送ることが出来る。而してこれが進化の目標であることは言ふ迄もなきことである。

食物競争
と職業

食物競争に種々なる弊害の伴ふことは既に述べたる通りであるが、今日の如くあらゆる職業が直ちに食物を得る手段となつて居る場合に於ては其弊害が一層露骨に現はれるのである。即ち職業によりて報酬を得んとするものは益々其報酬を増加するために職業を勤むことになるから、肉體的にも精神的にも病的結果を來すといふ虞がある。私は今一二の實例を舉げて見よう。角力若くは拳闘を職業とするものはこれによりて出来るだけ多くの報酬を得んとする考へから其筋肉の發達を謀るがために其結果終に怪物の如き偉大なる體格を有するやうになる。然し斯の如き體格が決して人類の理想でないことは言ふ迄もなきことである。若し人類が身體の大なることを理想とするならば彼等は到底象の如き下等動物に匹敵することは出来ない。若し競馬用の馬を養ふが如き考を以て私共の體格を發達せしむるのであるならば、私共は其處に何等の價値をも認むることが出来ないのである。私共は或程度迄身體の敏活ならんことを希望するけれども、決して玉乗や輕業師の如くなることを理想とするものではない。玉乗と輕業師は其職業によりて報酬を得るのであるから、終に斯の如く驚くべき部分的發達を爲すに至つたのである。故に職業によりて食物を得んとすることは人類をして病的發達を爲さしむる所以であるから私共は絶對的にこれを排斥せねばならぬ。私共は更に進んで一二の例を舉げて食物競争を目的とする職業に如何に多くの弊害の伴ふかを示すことにする。如何なる人も職業によりて食物を得る以上は人情として必ず其職業の盛ならんことを希望するに相違はない。疾病は人

類に取りて大なる不幸であるから、一日も速かにこれを撲滅することは私共の幸福を増進するのであるけれども、醫師を職業とするものは必しも自己の職業の衰滅することを喜ばないであらう。戦争は人類社會に起る最も不幸なる出来事であるけれども、戦争を職業とする軍人は寧ろ此不幸の起ることを歓迎して居るかも知れぬ。以上述べたる事實を見ても報酬を得るがために職業をなすといふことには大なる弊害のあることを十分に了解することが出来る。全體職業なるものは社會一般の利益を目的とすべきものであつて、個人の利益のために爲すべきものではない。若し社會主義の如く總べての人に職業を要求すると同時に總べての人に職業を保障すること、なれば、醫師の如きも決して病人の續出することを喜ぶ必要はない。總ての疾病が撲滅せられること、なれば、社會は必ず醫師に對して相當の職業を與へるに相違はない。故に社會主義の實現せられる社會に於ては如何なる人も自己の職業の隆盛ならんことを希望する必要はなくなるのである。

私共が食物競争を排斥するのは決して競争そのものを否認せんとするのではない。競争は如何なる人にも共通する所の大なる動機である。私共の活動は多く競争のために刺戟されて居るといふても差支はない。私共は食物競争以外に斯の如き刺戟を求むることが出来るのであるから、食物競争の如き弊害の大なるものに對しては極力反對せざるを得ない。食物競争は今日の社會に於て最も激烈なる競争であるから、若しこれを廢止することになれば人類の活動は殆ど

食物を目的とせざる競争

全く其刺戟を失ふかも知れぬと懸念する人があるかも知れぬ。然し精神的競争は其實に於ても量に於ても決して物質競争に劣るものではない。私は一二の例を擧げてこれを證明して見たい。或人の語に「黄金を以て買収することが出来なければ女色を以て買収することが出来る。女色を以て買収することが出来なければ名利を以て買収することが出来る」といふことがある。如何なる人も名譽心を有する點に於て異なる所はないのであるから、私共は此點に於て人生の活動を刺戟する所の一大動機を見出すことが出来る。如何に巨萬の富を蓄ふる人でも單に金錢だけを以て満足するものではない。彼等が或程度迄富を得ること、なれば、彼等は富の一部を犠牲に供しても何等かの名譽を得んことに苦心するのである。政治家や軍人が勳章若くは爵位を受けて喜ぶのも全く名譽心の發現であるといふの外はない。殊に運動競技を試みるものには何等實質的報酬の必要はないのである。昔希臘のオリンピックに於て勝利を得た者は單に月桂樹の葉を以て造りたる冠を得るに過ぎなかつたけれども、彼等はこれを以て無上の名譽と考へて居た。若し人類社會から全く食物競争を排斥することが出来るならば、名譽の競争は人類の活動を刺戟する唯一の動機となるに相違ない。而して名譽の競争には多くの種類があることを記憶せねばならぬ。第一は職務の競争である。何人が最も多く職務に忠實であるか。或は最も職務に熟練であるかといふが如き點に於て多くの競争が行はれるに相違はない。第二は技術上の競争である。機械的の技術は勿論、藝術的の優劣に關しても常に激烈なる競争が行はれるであ

らう。第三は知識の競争。第四は才能の競争。第五は人格の競争である。今日これ等の競争が微々として振はないのは全く食物競争のために壓倒されて居るがためである。若し私共の社會が食物競争を廢止するやうになればこれ等の精神競争は驚くべき勢力を以て發達するに相違はない。社會主義は實にこれ等の文化的競争を理想として居るのである。

私共が久しき間食物競争を以て最大なる動機であると考へて居たのは私共の物質慾が無限であると思つて居た、めである。若し私共の衣食住に對する慾望が無限であるとすれば、私共の物質慾は人類進化のために永久的動機であるかも知れぬ。然し物質慾には一定の制限があることを考へなければならぬ。換言すれば私共の物質慾は或程度の満足を得たる時それ以上の要求をなさないものである。殊に食物の點に於て私共は充分にこれを證明することが出来る。私共の食慾は或程度の量及び質を以て満足することが出来る。若し今日に於て一人に付き一ヶ月平均四五十圓の食費を支出することが出来るならば、多數の人は必ずこれに満足することが出来るに相違ない。人々が時々料理店に行き若くは宴會に列することを好むのは彼等が平常取る所の食物が不充分であるからである。若し平日に於て相當の食物を取つて居れば特別なる食物を要求するが如きことは殆ど絶無であると言つても差支はない。然し或人は昔羅馬人が一羽百圓の價を有する鰻をスープとして客を響應したる實例を引證して食慾の無限なることを論ずるけれども、これは決して正當なる議論ではない。何となれば價百圓の鰻を以て來客を響應すること

物質慾に
は制限あり

は決して食慾を満足せしむるためでなかつたからである。羅馬人が斯の如き響應のために莫大なる金錢を費したのは自らの豪華を誇るためであつて、食慾を満足せしめるためではなかつた。食慾を満足せしむることが主なる目的であつたならば彼は必ず鰻よりも寧ろ他の鳥類を選んだに相違はない。然し彼の目的は自らの豪華を誇るにあつたから、一杯のスープのため百圓を惜まなかつたのである。要するに此場合に於ては物質慾の問題は既に虛榮心と云ふ精神問題に變じて居たのである。私共の食慾には限があるけれども虛榮心には限がない。世人が往々虛榮心と物質慾とを混同して居るといふことは私共の大いに注意せねばならぬことである。以上述べたることは私共の住宅にも適用することが出来る。殊に住宅の場合に於ては私共の物質慾に制限があることを一層明白に認めることが出来る。五六人の家族に對しては五六室若くは七八室の家屋にて充分である。若し不相應に宏大なる家屋を建築したとしたならばこれは明かに虛榮心を満足せしむるためであると解するの外はない。殊に立派なる門を造るが如きは全く其豪華を誇るといふ理由の外にこれを説明することは出来ないのである。更に衣服に就いて考ふるも私共は同一の事實を認めることが出来る。物質慾を満足せしむるだけの衣服ならば綿布にても充分である。勿論私共は美術心を満足せしむるために或程度迄衣服を立派にすることは差支なきことである。然し一着の衣服に數百圓乃至數千圓を費すといふことは最早物質慾の問題ではなくて奢侈の問題である。斯の如く論じ來れば衣食住の慾を満足せしむることは容易であるけ

れども、これと共に私共の虚榮心を満足せしむることは容易でない。私共は單に虚榮心の満足というて居るけれども、虚榮心の競争には必ず財産の競争といふことが常に其根柢となつて居ることを記憶せねばならぬ。財産の競争即ち食物競争が行はれて居る限り衣食住に關する奢侈が益々増長すること、なるのは當然の結果である。食物競争を是認しながら奢侈を取締らんとするのは恰も木に縁りて魚を求めんとするが如きである。若し食物競争を全廢し、各人の収入を平等にすることが出来るならば私共は徹底的に奢侈を根絶せしむることが出来る。若し収入が平等となるならば各人は必ず衣食住に關して其物質慾だけを満足せしむること、なる。門戸を宏大にし、若くは美服を纏うて人々に誇るが如きは全く狂氣の沙汰と考へるより外ないことになる。斯く論ずればとて私共は決して貧しき生活に満足するものではない。私共の理想は個人的に質素なる生活を送ると同時に社會的に富裕ならんことである。個人的に奢侈なる生活を送るには種々なる弊害があるけれども、社會的に富裕なることは何等の弊害をも伴はないのである。

人類は働くために衣食して居るのであつて、衣食するために働いて居るのでない。これによりて見るも人類が無限に物質慾のために活動することは決して其の理想でないことを知ることが出来る。社會主義の理想は人類をして食物競争から精神競争に移らしむるにある。物質慾には制限があるけれども精神慾には何等の制限がない。これがため人類は精神競争によりて無限

精神的發
達は無
限なり

に發達することが出来るのである。若し人類が高度の物質的文明を要求するとしたならば、これは物質文明のためではなくして文化生活の發達を目的とするものである。これによりて見るも物質的文明は文化的生活の手段に過ぎないといふことが了解せられる。希臘の哲人は文化生活に對して高尚なる理想を抱いて居たのであるが、彼等は其目的を達するためには奴隸制度の必要なることを是認した。少數の人が文化生活のために努力するには彼等は衣食住の資を得る必要があつたから、奴隸をして生産事業に従事せしむることになつた。彼等は文化的社會を現出するには多數の奴隸が筋肉勞働のために努力し、少數の哲人が専ら精神的方面の事業に従事することを以て己むを得ないこと、信じて居たのである。其結果希臘の文明は有産階級の文明であつて、民衆の文明ではなかつた。然しこれは單に希臘の文明に限られて居るのではなく、現代の文明も亦其弊を遺傳して居る。私が前に述べたるが如く現代の社會に於て文明生活を爲し得る所の知識階級は人口百人中三四人に過ぎないのである。換言すれば百人中文化生活の恩恵を蒙つて居る者は僅かに三四人であつて、残りの九十六七人は單にこれ等少數者のために物質的必要品を供給して居るに過ぎない。若し人類生活の意義が文化生活にあるとすれば、人類の多數は全く其恩恵に浴することが出来ないのである。極言すれば彼等は少數の人々をして文化生活を送らしむるために奴隸階級の爲すべき仕事を負擔して居るのである。勿論文化生活をなすためには多くの時間を物質慾以外の事に費す必要がある。若し總ての人類が何れも精神的發

達のために多くの時間を費すことが出来ぬとすれば、一部の人々が専ら文化事業に當り、他の人々が生産業に従事するといふことは已むを得ないことであるかも知れぬ。然し今日は科學の進歩により多くの精巧なる機械が發明せられるやうになつた。若し産業組織を改造さへすれば私共はこれ等の機械を奴隸として使役することが出来る。現代思想の立場から言へば私共は到底人類を奴隸として使役するといふ思想に堪へることは出来ない。社會主義の目的はあらゆる機械をして働かしめ、總ての人類に文化生活を送らしめんとするにある。若し此目的が達せられること、なれば人類は此處に永久的進化の一大動力を發見することが出来る。

第二章 競争制度廢止の理由

第一節 現代の奴隸制度

社會主義の理想が果して實現せられるか否かは何人もこれを明言することは出来ない。社會主義は現社會を全然改造せんとするのであるから、若し其主張の正當なるか否かを知らんと欲するならば先づ試験的にこれを實行するより外はない。然し社會主義の實驗は全社會の改造を意味するのであるから、化學者が實驗室に於て行ふが如き容易のことでない。今や露國の如きは大規模に其實驗を行つて居るのであるけれども、これが果して成功に終るか、將又失敗に終

現社會に
對する批
評

るか否かは容易に明言を許さないものである。よし此實驗が成功したとしても、今後少なくとも二三十年の歳月を経るにあらざれば社會主義の効果を充分に認めることは出来ないことであらう。よし又露國の實驗が失敗に終つたとするも、これを以て直ちに社會主義それ自身の失敗であると斷定することは不當であるかも知れぬ。何となれば露西亞は獨逸若くは英國の如くに社會主義の實驗場としては適當でないからである。人々の知れるが如く露西亞は文化の程度に於て遙かに英獨二國に劣つて居る。勞働者の訓練といふ點から見ても露國は到底英獨の比ではない。若し社會主義が露國に於てのみならず英獨二國に於ても其實驗に失敗すること、ならば、此處に初めて社會主義の理想は即ち空想であることが證明されるやうになる。兎に角現在に於て社會主義の主張が果して正當であるか否か容易に判斷すべきことでない。然し社會主義の成敗は別問題として、現社會に對する社會主義の批評は何人も傾聴すべき意見であるやうに思はれる。或意味に於て現時の經濟組織に對する社會主義の攻撃は實に峻烈を極めて居る。現社會に對して深き研究を爲さぬ所の人は現社會の缺陷に對して何等の意識をも有して居ないけれども、一度社會主義の微細にして而も徹底的なる批評に傾聴する時は直ちに現代の經濟組織が如何に不完全なるかを了解することが出来る。社會主義が最も痛快に指摘する所の點は現代の社會に於て憎むべき奴隸制度が依然として存在して居るといふことである。更に經濟的方面を見れば現代の組織は競争制度のために全く生産力を制限せられて居る。自繩自縛といふのは此事である。

同時に現社會種種なる點に浪費を行つて居るものはない。私共は社會主義の主張が果して實行せらるべきか否かを明言することは出来ないけれども、現代の如き社會組織が永久に繼續すべきものであると信ずることは出来ない。私共は現社會の如きデモクラシーの精神を無視する所の社會が必ず改造さるべきものであることを信ずる。一般人類の幸福を來すためには一層善き所の社會を組織する必要がある。兎に角私共は社會主義の主張する要點を紹介する前に先づ現社會に對する社會主義の批評を一々説明したいと思ふ。此處に社會主義の強味が存在して居ることを私は信じて居る。

競争が行はるれば必ず優者と劣者とを生ずることになる。而して優劣の區別は必ず階級を生ずることになる。勿論精神的競争にも優劣の區別を生ずるけれども、其區別は必しも階級を生ずる迄には至らない。然し物質的優劣は忽ち判然たる階級を生ずることになり、其處に治者と被治者の關係が起つて來るのである。優者は多く生産機關の所有者となるのであるから、劣者は必ずこれに服従しなければならぬ。若し優者に反抗することがあれば彼は必ず滅亡といふことを覺悟しなければならぬ。私共は斯の如き階級制度を最も明瞭に封建時代に於て見ることが出來た。其時代に於ける優者は武士であつて、其他の階級は悉く被治者であつた。勿論彼等は奴隸の如く鐵鎖に繋がれて居るのでない。然し彼等は政治上及び社會上に於て何等の權利をも有して居ないのであるから、彼等は武士階級に對して絶對的に服従する外はなかつた。理論に

競争と階級制度

於ても實際に於ても彼等には財産及び生命の安全すらもなかつたのである。彼等は大名の命令により其の財産の大部分を強奪されることがあつてもこれに對して反抗することは出来なかつた。切捨御免といふことは封建時代の原則であつたから平民階級は其生命の保障すら得ることは出来なかつた。然し武士階級も亦決して自らの財産及び生命に關して安心することは出来なかつた。彼等も亦君主に對して絶對服従の義務を有して居たのであるから、君主に對しては一種の奴隸たるに過ぎなかつたのである。斯の如く考へ來れば封建制度に於ける大名は絶對的主權を有する君主であつて、人民は悉くこれ等少數の君主に對して絶對的服従を強ひられたのである。今や私共は專制政治の時代を過ぎて立憲政治の時代に生活して居る。然しこれは單に政治的方面に於ける一小變化であつて、經濟的方面から見れば私共は依然として奴隸制度の束縛を免かれることが出来ないのである。今日に於て封建時代の專制君主を見ることは出来なけれども、これに代るべき三百の富豪が偉大なる勢力を以て私共を支配して居るではないか。封建君主は土地を占領すると共に大なる兵力を有して居たのであるが、現在の富豪は土地を占領すると共に金力を有して居る。彼等は必しも自ら政權を握ることはしない。然し彼等は黒幕の蔭に隠れて政治家を操縦することを以てより賢き方法であると考へて居る。如何なる國に於ても或意味の富豪政治が行はれて居ることは何人も拒むことの出来ぬ事實である。或人が現代を評して財政的封建時代であるといふたのは必しも過言ではない。今日の富豪は確に現代を征服

したのであるから、彼等が種々なる方面に於て其勢力を扶植して居るのは決して怪しむに足らぬことである。今や富豪は一國の政治を支配して居るのみでなく、教育も宗教も亦彼等の勢力範圍に屬して居ると言ふことが出来る。地球上に於て無産階級を代表する所の政府が何處に存在して居るであらうか。私共は世界列強の何れも全く富豪の手によりて支配されて居ることを見るのである。若し政治家が富豪の意志に反して政治を行つたならば、其内閣が一日も生存することの出来ないのは火を睹るよりも明かなることである。學者が社會の良心を以て任じて居るに拘らず、尙富豪の鼻息を伺うて其議論を爲さねばならぬことになつたのは實に痛歎すべきことである。宗教家すらも今日は富豪の横暴を制する力さへ失うて居る。斯の如くして社會のあらゆる階級は悉く富豪のために生殺與奪の權を握られて居る。以上論じたる所によりて見れば資本制度の下に奴隸制度の現出することは實に己むを得ないことであるやうに思はれる。

有名なるベラミーの小説『ルッキング・バックワード』に於て最も痛切に現代の奴隸制度を説明して居る。私は今其一節を簡單に紹介したいと思ふ。彼は現代社會を比喩的に左の如く觀察して居る。『私共の生活は恰も大なる車に乗つて阪路を上つて居るやうなものである。多數の憐むべき人々は汗を流して車を押し或は綱を以てこれを引いて居る。車上に居る者は如何にも平氣であつて自分等の重量が如何に車を引く人々の苦痛を増して居るかを考へて居ないやうに見える。彼等は車上にあつて涼しき風に吹かれ、心地よく談笑して其旅行を續けて居る。阪の勾配

が激しくなるに従ひ車を引く人々は一層苦痛を感じるやうになる。時には彼等の中手足を傷ける者がある。車上の人はこれを見て折々繃帯や膏藥などを投げ與へることがあるけれども、自ら車を下りて彼等を助けるだけの同情心もない。殊に不思議なることは車を引く人々の中に好機會を捕へて自ら車上の人とならんとする者のあることである。若し車が何か障害物に觸れて激動するやうなことがあれば彼等は其動搖を利用して車上に飛上ることがある。一度車上の人となれば彼は全く車を引きたる時の苦痛を忘れ、甚しきに至りては全く自分が車を引く人々とは別人種であるが如く考へるやうになる。』以上は私が單に記憶の中から其大略を説明したに過ぎないのであるが、或意味に於て確かに現代社會の真相を穿つて居るものと言ふことが出来る。有産階級と無産階級との關係は恰も車上の人と車を引く人との如きである。一は治者であつて一は被治者である。而して其處に私の所謂奴隸制度なるものが明瞭に現出して居ることは大に注意すべき點であると思ふ。現在の勞働階級が資本家に對して恰も奴隸の如き働を爲しつゝ、あることはベラミーの説明して居る通りである。私は封建時代の君主が切捨御免といふことを原則として居たことを述べたのであるが、現代の財政的封建制度の下に於ても切捨御免の原則は依然として行はれて居る。資本家は經濟界の變動により何時でも其雇人を解雇することが出来る。勞働者に取りて最も怖るべきものは失業である。失業は勞働者から生活の手段を奪取るのであるから、彼等に對しては確に致命傷である。若し劍を以て殺すのも杖を以て殺すのも殺人

たるに於て何の異なる所がないとすれば、労働者を解雇して生活の途を奪ふことも一種の切捨御免であるというて差支はない。斯の如く考へ来れば現代の經濟組織に於て労働階級が生命の保障さへ得ることが出来ないのは決して怪しむに足らないのである。

私は労働階級が殆ど奴隷の状態にあることを述べたのであるが、此事は殊に小兒及び婦人労働者に適用することが出来るといふことを記憶せねばならぬ。工場は資本制度の結果として現出したものであるが、私共は工場が今日の工業的發達を來した所の一大原因であることを認めると共に、労働階級を奴隷の状態に陥れた所の仲介者であることを考へざるを得ない。工場に於て大機械を採用すること、なつた、め、婦人及び小兒すらも機械の番人として働くことが出来るやうになつた。其結果資本家は比較的賃銀の低廉なる婦人及び小兒を以て普通の労働者に代へること、なつた。斯の如くして小兒及び婦人の労働は全く現代に於ける工場發達の結果であるといふことが出来る。小兒を工場に使用することは彼等自身のためにも大なる不利益である。何となれば彼等はこれによりて充分に教育の恩恵を受けることが出来ないからである。更に婦人労働者に就いて考ふれば何人も一層多く其弊害を認めるのである。婦人の職務が主として子女の教育にあることは言ふ迄もなきことであるが、婦人労働は此意味に於て家庭を破壊するものであるといふことが出来る。勿論婦人の中にも相當の年齢に達して尙結婚をなさぬものがある。よし結婚しても子女を産まぬ所の者がある。若し又子女を産んでも其教育を終つた

小兒及び
婦人労働
者

所のものもある。これ等の婦人が制限されたる時間内に於て或種の労働に従事することは敢へて差支なきことであるけれども、子女教育の任に當るべき婦人が家庭を外にして労働するといふことは、彼自身のためにも子女のためにも國家のためにも大なる損失であると言はねばならぬ。何故に婦人及び小兒までが労働に従事せねばならぬやうになつたかと言へば、一般労働者の賃銀が一家族の生活を支へるには不十分であるがためである。然らば今日の資本制度は労働者を奴隷とすることを以て満足せず、終に其妻子をも奴隷としたのであると考ふるのが當然であると思はれる。私共は此意味から考へても現代の資本制度に怖るべき缺陷のあることを認めねばならぬ。社會主義の主張は労働をなし得る所の人、即ち労働をなし得る状態にある所の總ての人に對して労働を要求すると同時に、労働を爲してはならぬ人に對して労働を要求しないといふことを主張して居る。然るに現代の社會は労働を爲し得る人に對して労働を要求せず、却つて労働を爲すべからざる人に對して労働を要求して居る。私共は斯の如き社會が早晚改造されねばならぬことを信するのである。

國際聯盟規約の中に労働問題に關する條項が記載せられて居る。其中に労働者を商品として取扱うてはならぬといふことがあるが、これは確に現代の社會に於て必要なることである。國際聯盟が斯の如き規約を設ける必要を感じたのは、現代の資本制度が往々労働者を商品の如く取扱ふ場合があるからであらう。労働者も資本家と同様に人類であるから、私共が労働者の人

労働者は
商品なり

格を尊重せねばならぬとは言ふ迄もない。然し今日の如く競争制度が無制限に行はれて居る限り如何にして労働者の人格を認めることが出来るであらうか。如何に國際聯盟の規約に於て労働者を商品の如くに取扱ふことを禁じたからとて今日の資本制度が繼續する間は到底これを實行することは出来ないのである。何人も知れるが如く近代に於て生産力の著しく増加したのは労働者の間に分業が行はれるやうになつたからである。懐中時計の製造は二百以上の分業になつて居るのであるが、これによりて著しく生産能率を増加することが出来る。然し分業が行はれるやうになつた結果労働者は生産物の單に一部を製造するに毎日八時間乃至十時間を費さねばならぬやうになつた。若し労働者が二十年乃至三十年間斯の如き労働に従事したとするならば彼も亦機械の一部に過ぎないのである。これがため労働能率は驚くべき程度に増加するかも知れないが、労働者は全く文化的生活を送ることが出来なくなり、彼は全く機械化するのである。言ふ迄もなく資本家側から見れば如何なる労働者も一の機械に過ぎないのであるから、商品と同様に取扱はれるのは決して怪しむべきことでない。

若し労働者が機械と同様に取扱はれるならば彼は尙これを以て満足すべきである。然も彼等は普通機械以下に取扱はれて居るのであるから、私共は彼等に對して多大の同情を表せざるを得ない。資本家の立場から言へば機械の破壊は數千圓乃至數萬圓を意味するけれども労働者の死亡は何等の損失でない。よしこれがために損害賠償金若くは弔慰金を拂ふとしても、それは

労働者も
りも機械

單に數十圓乃至數百圓である。故に工場が火災に罹るやうな場合に於て工場主が先づ心配するのは機械であつて労働者の安否ではない。前にも述べたるが如く労働者は又これを借馬に比することが出来る。自ら馬を所有して居る人は馬の衰弱若くは死亡によりて忽ち損失を招くのであるから、馬に對して相當の食物を與へるのみでなく、これを使役するにも充分なる注意を拂ふのである。然し借馬の場合に於ては全然其待遇を異にする。借馬が負傷し若くは死亡するが如きことがあつても借馬人は何等の損害を蒙らないのみならず、再び新しき健全なる馬を借ることが出来る。思ふに資本家が労働者を雇ふのは全く借馬の場合に似て居るのである。若し労働者が老衰するやうになれば彼は直ちに新しき青年労働者を以てこれに代へることが出来る。これがため雇主は出来るだけ長時間に亙りて労働者を使役することとなり、衛生の如きは全く顧みることがないこととなる。故に現在の資本制度の下に於ては労働者は殆ど借馬と同一の待遇を受けるやうになる。若し労働者が業務中に死亡するやうなことがあれば、雇主は當然彼に對して充分なる報酬を與ふべき筈であるけれども、労働者の遺族は損害賠償を要求する権利さへも有して居ないのである。米國に於ては業務中に於ける死亡者の遺族に對して死亡者が得つたつた所の賃銀の三箇年分を與へることになつて居るけれども、我國に於ては未だ一定の習慣さへ出来て居ない。労働者の死亡に對する弔慰金は全く雇主の好意によるものであつて、雇人側から請求すべきものではない。これによりて見るも労働者が未だ人間らしき取扱を受けて

居ないことは充分にこれを了解することが出来る。若し工場労働者の方面から日雇人といふが如き不熟練労働者の方面に私共の眼を轉じたならば、私共は今日の労働者が決して商品以上の取扱を受けて居ないことを見ることが出来る。東京市に於ては本所區富川町が有名なる労働市場である。其附近に於ける木賃宿に宿泊して居る數千人の労働者は毎朝街路に出て買出人の來ることを待つて居るのである。買出入たる親方が其姿を現はすや一團の労働者は彼を取巻きて各々雇はれんことを懇願するのである。幸にして親方の選擇を受ければ職業を得ることが出来るけれども、然らざるものは終日何等の仕事をも得ずして空しく暮さねばならぬのである。斯かる光景を見る者は何人か労働者が一の商品に過ぎないといふことを感じないであらうか。

労働者の賃銀は商品と同じく需要供給の關係によりて決定するものである。故に労働者の供給が需要よりも遙に多い時には労働者の間に職業を得んとする競争が行はれるがため労働者の賃銀は必ず減少するのである。資本家の立場から言へば労働者の數が多ければ多い程彼の利益となる。失業者の生ずることは國家のために憂ふべきことであるけれども、資本家のためには寧ろ喜ぶべきことであるに相違ない。軍隊に豫備及び後備の制度が設けられて居るが如く、若し労働階級の中に豫備軍とも稱すべき労働團體が存在して居るならば、資本家はこれによりて大なる便宜と利益とを得ることが出来る。何となれば彼は何時にても低廉なる賃銀を以て容易に労働者を雇入れることが出来るからである。海港に於ける荷揚人足には常に斯の如き豫備軍

賃銀の鐵則

が存在して居る。蓋し海港に於ける船舶の入港は極めて不規則であるから、常に豫定以上の入足があつて不時の需要に應ずることが必要と考へられるからである。然し斯の如き豫備軍を必要とすることは労働者に取りて大なる不幸であると言はねばならぬ。何となれば彼等の中一部は常に失業の状態に陥ることを餘儀なくされるからである。以上述べたる所によりて見れば、労働者の人數の多いことは資本家のために利益であるけれども、労働階級及び國家のために甚だ不利益であることは何人も容易に了解することが出来る。然らば現代の經濟組織に於て資本家と労働者及び資本家と國家の利益に撞着があることは私共が大に注意せねばならぬ事實である。人口問題は種々なる見地から論ずべきものであり、且つこれに對する人々の意見も容易に一致しないのであるけれども、労働階級の利益を標準とするならば私共は容易に人口増加に賛成することは出来ないのである。若し國家のために人口の増加が喜ぶべきことであるならば、有産階級の間には人口の増加を要求することが適當である。労働階級は多くの子女を養育するだけの資力がないばかりでなく、若し彼等の人數を増加することになれば、彼等の賃銀は忽ち減少するといふ傾向を有して居るのであるから、私共は労働者の幸福を増進するために先づ彼等の中に人口制限を行ふ必要のあることを信ずる。

労働者の賃銀は前に述べたるが如く労働者に對する需要と其供給との釣合によりて定まるのであるが、これは單に大體論であつて、私共は更に労働者の賃銀額が如何にして決定されるか

労働者の折衝能力

を研究せねばならぬ。賃銀額には最低限度があつて賃銀は如何なる場合にもこれ以下に下ることが出来ないのである。即ち労働者は如何にしても彼の生命を維持するだけの生活費を得なければならぬ。若しこれを得ることが出来なければ彼は餓死するより外ないのである。資本家は労働者の力を借らずして自らの資本を利用することが出来ないから、如何なる場合に於ても労働者をして餓死せしむるやうな取扱を爲すことを好まないのである。然し労働者が要求する所のものは單に彼の生活費のみではない。彼は社會の要求に従ひ彼の後繼者たるべき労働者を産み且つこれを養育することが必要となる。若し斯の如き後繼者を養成しなければ労働階級は漸次衰滅に歸するのであるから、資本家は労働者及び彼の家族を維持するに足るだけの生計費を彼の賃銀として拂ふことを承諾するのである。されば労働者及び彼の家族が生命を維持するに必要なだけの生計費が即ち賃銀の最低限度であつて、労働者はこれ以下の賃銀にて労働することを承諾せず、資本家も亦この最低賃銀を拂ふことには何等の異義を有して居ないのである。これは賃銀の最低限度であるが、一方には最高限度のあることをも説明しなければならぬ。労働者の供給に比して需要の程度が高くなる時には其結果として賃銀の増加を見るに至ることは前に述べたる通りである。然し如何程賃銀が増加しても決してそれ以上に増加することの出来ぬ最高限度のあることを記憶しなければならぬ。若し賃銀増加のために資本家が自ら投じたる資本に對し相當の利子を得ることが出来ないやうになれば彼は必ず其事業を中止するに相違は

ない。故に労働者は如何に賃銀の増加を要求しても、資本家をして其事業を中止せしむる迄に不當の要求を爲す筈がない。何となれば事業の中止は彼のために失業といふことを意味するからである。以上私は賃銀の最低限度及び最高限度に就き概略の説明を試みたのであるが、實際の賃銀額は此兩限度の間に於て何處にか定まらなければならぬ。而して其賃銀額が最低限度若くは最高限度の近くに於て決定せられるかは資本家及び労働者の有する折衝能力によるものと言はねばならぬ。資本家の力が優勢であれば賃銀額は最低限度の近くに於て定まり、労働者の折衝力が強ければ最高限度の近くに於て定まることとなる。然るに労働者が資本家に對して常に不利益なる位地に立つて居ることは事實であつて、彼等は到底對等の折衝を試みることは出来ない。労働者に取って大なる弱點と言ふべきことは彼等に耐久力の缺乏して居ることである。労働者は衣食を得るために先づ自ら有する所の労働力を賣らねばならぬ。これを賣るに當り一日後れば一日の損がある。此意味に於て労働力は恰も魚類や野菜類の如き腐敗し易き商品である。これがため労働者は一日でも其労働力の販賣を延期する譯にゆかない。労働者が資本家に對して對等の競争を爲し得ないといふことは全くこれがためである。然し個人として無力なる所の労働者も團體を組織することにより著しく其折衝力を増加することが出来る。労働者が労働組合の力によりて資本家に對抗せんとして居るのは全く彼等の折衝力をして有効ならしめんとするに外ならない。

マルクスの
剰餘價
値説

剰餘價值に關するマルクスの學説を學理的に説明することは容易のことでないけれども、私は單に其要點を簡單に紹介したいと思ふ。彼が剰餘價值を説いたのは資本家が如何に勞働者の利益を奪掠して居るかを示さんためであつた。換言すれば資本家は勞働者に對して正常なる報酬を拂うて居ないといふのである。例せば如何なる勞働者も六時間の勞働を爲すことにより自分の賃銀、資本に對して拂はるべき利子及び其他の費用を償却するに足るだけの生産物を生産することが出来る。然るに資本家は契約によりて其勞働者を八時間使役して居るのであるから、此最後に於ける二時間に於て生産されたものは剰餘價值であつて、資本家はこれを自分の所有物として居る。要するにマルクスの剰餘價值説は資本家が勞働者の生産物を奪掠して居ることを示すのであつて、其奪掠なるものは私が前段に於て述べたるが如く資本家の優勢なる折衝力によりて得た所の結果に外ならないのである。

仲介者の
奪掠

生産者としての勞働階級は常に資本家のために奪掠せられて居るのであるが、彼等は又消費者として常に多くの奪掠を経験して居るのである。私が總論に於て説明した如く現代の經濟組織は賣買制度に於て著しく其缺點を曝露して居る。卸賣商及び小賣商の如き仲介者は常に生産者と消費者との間に立つて驚くべき程多額の手數料を食つて居る。殊に小賣制度が勞働階級のために最も不利益なるものであることは何人も容易にこれを認めることが出来る。有産階級に屬する人々は一度に多量の物品を買入れることが出来るから、比較的低廉なる價を拂うて比較

勞働者と
教育

的良質のものを得ることが出来る。これに比すれば無産階級の人々は同一の物品に對して常に高き價を拂ふことを餘義なくされて居る。更に金融機關に就て見ても私共は同一の事實を観察することが出来る。貧民窟に於ける金貸業者が極端なる高利貸であることは人々の知れる所のことであるが、貧民はこれがため不當なる負擔を爲して居る。或意味に於て勞働階級は資本家以上に仲介者のために奪掠せられて居るといふことが出来る。これも亦現代の經濟組織が有する所の一大缺陷である。

專制政治の特徴は「民をして頼らしむべし知らしむべからず」といふことであるが、これは單に專制政治ばかりでなく、又立憲政治の特徴であるといふことが出来る。私が幾度も述べたる如く我國に於て中等教育若くは高等教育を受けつゝあるものは僅に百人中の三四人に過ぎないのであつて、其他の者は單に小學教育のみを以て満足せざるを得ないのである。私共は六年の小學教育を以て義務教育とか國民教育とかいうて居るけれども、小學教育のみを以て國民の資格を造ることが出来ると思へるのは大なる誤である。小學教育によりて得る所のものには單に讀書、數學、習字位に過ぎないのであるから、これによりて國民の資格を得るなどは滑稽の至りである。今日の資本制度は一種の奴隸制度であるから、多數の國民をして奴隸の状態に甘んぜしめるには彼等が無學の状態に置くことが最も有效なる方法である。有産階級の人々は無意識的に多數人民に中等教育若くは高等教育を與へることを拒んで居るのであるが、これは彼

等に取りて最も賢明なる政策であると言はねばならぬ。若し多数の國民が充分なる教育を受け
るやうになれば彼等は決して今日の如き奴隷の状態に満足しないであらう。故に有産階級をし
て今日の如き位地を維持せしむるには多数の國民をして彼等のために奴隷的勞働を爲さしむる
外はない。概して言へば無學者なるものは如何なる壓迫に會うてもこれに對して大なる不平を
訴へるものではない。故に絶對的服従と無教育とは容易に兩立することが出来るのである。私
が嘗て聞いた所によれば某政治家は臺灣人に充分なる教育を與へることに反對して居るのであ
るが、其理由は次の如きものである。若し臺灣人に中等教育若くは高等教育を與へたならば彼
等は漸次筋肉勞働に従事することを嫌ふやうになる。然らば臺灣の米作及び製糖業は何人の手
によりて行はれるであらうか。此論理は又資本家が勞働者に對して用ゐる所のものである。勞
働者の高等教育は彼等をして筋肉勞働者たることを廢止せしむるのであるから、彼等を教育す
ることは現代の資本制度を破壊することになる。斯の如く論じれば資本制度の繼續する限り
勞働者に充分なる教育を與ふることは全く不可能であると言はねばならぬ。勿論英國の如き文
明國に於ては勞働者自らが種々なる手段によりて高等教育を受けて居るのであるから、彼等の
或者は代議士となり、或者は内閣大臣となり、大學出身者と對立して少しも遜色がないのであ
るけれども、これは極めて少數の勞働者に限られて居る。多数の勞働者は自らを教育するだけ
の才能もなく忍耐力も無いのであるから、彼等は教育ある資本家に對して種々なる不利益を感

生活の不
安定

ずるのである。斯の如く教育程度に於て不平等が行れて居る限り、多数勞働者の幸福を増進す
ることは容易のことでない。私共は資本家制度のため多数國民が無教育の状態にあることを見
る毎に資本家制度の改造が目下の重要事件であることを思はざるを得ない。前に述べたるが如
く社會主義の理想は總ての人々を平等に取扱ふにある。而して平等なる教育を總ての人に與ふ
ることは社會主義が先づ第一に實行せねばならぬ理想である。

私共は財政的專制政治の下に殆ど奴隷に等しき壓迫を蒙つて居る。無産階級は有産階級のた
めに奪掠せられ、其受くべき教育すらも充分に受けることが出来ぬといふ有様である。私共は
表面上昔の奴隷に比して多くの自由を有して居る。例せば運動の自由を有する外に私共は働く
も働かないのも自分の勝手であるといふ自由をも有して居る。然し私共は或意味に於て昔の奴
隷よりも一層不幸なる境遇にあることを忘れてはならぬ。昔の奴隷は生活の不安を感じなかつ
た。何となれば彼等の主人が彼等の生活に對して保障を與へたからである。彼等は勿論勞働を
強制されたに相違ない。然しこれがために生活の不安を感じることはなかつた。今日の勞働者
は自由意志によりて勞働することが出来るけれども、自らの生活に對しては一刻も安心するこ
とが出来ないのである。彼等には失業といふ怖るべき災難があるのだから、これがため常に少
からぬ心配をしなければならぬ。失業程今日の經濟組織に於ける大缺陷を曝露して居るもの
はない。私は失業を以て現社會の缺陷と言ふよりも寧ろ恥辱と言ひたいのである。私共は自ら文

明人を以て任じて居るではないか。然も食物のために苦心せねばならぬといふのは如何にしても文明人に相應した事とは考へられない。人類が苟もこの社會に生れ出た以上生活の權利を有して居ることは明かである。勿論私共は何等の働をも爲さずして生活しようといふのではない。勞働は私共の義務であると同時に勞働することは私共の權利である。然るに現代の社會は私共に勞働の權利を保障してくれない。私共はこれに對して相當の設備をなすとが資本家及び國家の責任であると信ずる。資本家は常に勞働者を使役して居るのであるから、勞働者の失業に對しては主として其責任を負はねばならぬ。然し一度經濟上の變動に遭へば資本家も亦悲境に陥るのであるから、到底勞働者を救済するが如き餘裕はない。斯の如く考へ來れば失業問題を解決することの出来るのは國家であると言はねばならぬ。獨逸の如きは國家の力を以て勞働階級のために種々なる保險を實行して居る。然し未だ失業に對しては何等の手段をも講じて居ないのである。英國は他の諸國に先んじて失業保險を行ふことになつたのであるけれども、其適用範圍は單に建築業者、機械職工其他四種の職業に限られて居る。要するに今日の文明國は未だ大規模に失業保險を實行する程度に達して居ない。これがため國民は依然として生活の不安定に心を痛めて居るのである。換言すれば現在の國家は國民の生活すら保障することが出来ないといふ憐むべき状態の中にある。

第二節 生産組織の缺陷

勞働力の分配

社會全體の生産力を増加するといふ立場から見れば、私共は第一に各人をして職業に従事せしめ、一人も怠惰者のないやうに工夫しなければならぬ。第二には適才を適所に置く事であつて、分勞の原則は即ちこれである。若し此二つの原則が行はれぬとすれば社會の生産力はこれによりて大に減ぜられることになる。私共は現代の經濟組織を見て勞働力の分配が極めて不完全に行はれて居ることを見るのである。あらゆる社會に於て高等遊民と稱する階級が存在して居ることは多く説明する必要はないのであるが、勞働力の分配が當を得て居ないといふことも私共の生産力を減ずる大原因となつて居る。若し適才が適所に用ゐられて居るならば人々は充分に其能率を發揮することが出来るけれども、現今の如き經濟組織に於ては適才が不適當なる場所に用ゐられて居る實例が少なくない。即ち位地及び報酬の關係により自ら適してゐない職業を選択する場合が多いのである。例せば最も筋肉勞働に適して居る人でも上流階級に屬して居る場合は思むなく精神勞働に従事するやうになる。精神勞働は筋肉勞働に比して比較的多くの報酬を受けるのであるから、腦力の劣等なる人でも強いて精神勞働に従事せんとするのである。富者の家に生れたる者は如何に學才に乏しくとも尙高等教育を受くるために苦心するのであるが、社會の生産力といふ立場から見れば大なる損失であると言はねばならぬ。有産階級の

子女が精神勞働に従事する才能もなく、さらばとて筋肉勞働に従事することは彼等の社會的地位が許さないのであるから、彼等は終に遊民となる外はないのである。今日の社會に於てこれ等の不經濟なる事實は多く存在して居るのであるから、私共の社會に於ける生産力が未だ充分なる程度に達して居ないといふことは怪むに足らないことである。故に徹底的に適才を適所に用ゐようと思ふならば職業に貴賤の別なき理想社會を現出するより外はない。社會主義は總ての人に勞働を要求し、彼等に對して同一の報酬を與へるのであるから、勞働を賤しむ、若くは職業に貴賤の別を設くるが如きことは全然なくなるのである。斯の如き社會に於て人々が最も自ら適したる職業を選択するやうになることは言ふ迄もない。私は更に他の方面に於て勞働力の分配が如何に不公平に行はれて居るかを述べることにする。現代の如き競争の盛なる社會に於ては恰も蟻の甘きに集るが如く多くの人々は有利事業に集り來るのであるから、競争の結果彼等の多數は劣者となりて失敗するのである。小賣商の如きは其實例であるが、精神的方面に於ては辯護士なども其一例であらうと思ふ。斯の如く一の職業に必要以上の人々が集ること、なれば、これがため生産力の減少することは明かなることである。最後に私が述べて置きたいのは現社會に於て度々職業を變ずる人の少なくないといふことである。職業の移轉は勞働力の分配の宜しきを得て居ない證據であつて、社會のためには少なからぬ損失であると言はねばならぬ。不景氣といふ經濟界の變動が起る毎に職業を變ずる者が比較的に多いのである。教育家

産業界の
軍隊組織

が實業界及び其他の方面に多く轉業したのは近來に於ける著しき事實であるが、これも社會のためには大なる損失である。要するに現今の社會は人々をして不適當なる職業を選択せしむるといふ大なる缺陷を有して居る。

勞働力の分配が宜しきを得ないといふことは現今の勞働組織に統一がないといふことを證明して居る。若し産業界が恰も軍隊の如き組織を採用することが出来るならば、勞働力の分配は必ず完全に行はれ、社會の生産力には何等の損失をも來さないことであらう。軍隊には完全なる組織が行はれ、數人の首腦が全體を支配するのであるから、數百萬の兵卒を手足の如く動かすことも困難でない。而して斯る組織の下には各兵士悉く其任務を分擔するのであるから、其職務のなきがために遊んで居るが如き者は一人もないのである。換言すれば軍隊組織の中には一人の失業者の存在をも許さないのである。若し産業界が軍隊と同一の方法によりて組織されるやうになつたならば、失業問題を解決することの出来ることは疑ない。何となれば今日の産業界は軍隊組織を採用することにより經濟界の變動を豫防することが出来るからである。何人も知れるが如く多數の生産者が激烈なる競争の下に生産をなすのであるから時には需要以上に生産物を供給することがある。今日の經濟的變動は多くこれ等の生産過多より生ずるのであるから、産業組織の統一は殆ど全くこれ等の經濟的變動を防止することが出来る。然し私共は今後に於ても絶えず多少の失業者を出すべき傾向があることを認めなければならぬ。精巧なる機

械が發明せられる毎に一部の勞働者が其職を失ふに至るのは當然である。經濟界の大局から見れば人々が機械のために職業を失ふといふことは寧ろ喜ぶべきことである。何となれば斯の如くして人類は初めて文化生活のために多くの時間を得ることが出来るからである。而して機械のために職業を奪はれたる勞働者は軍隊的産業組織の下に於ては決して眞の失業者ではないのである。即ち彼等は直ちに他の職業に移ることが出来る。若し他の職業に於て既に勞働者の數が充分であるとすれば、社會は彼等のために新らしき事業を起すことになるから、人々はこれによりて新らしき富を得るやうになる。社會主義の理想とする所は全くこれにあるのだから、斯る社會に於て人類の幸福が無限に増進することは何人も容易にこれを認めることが出来る。

資本の分配

水は低き處に向つて流れるのであるが、資本は常に利子の多き處に向つて投ぜられるのである。資本家は何物よりも先づ己の利益といふことを考へるのであるから、利子の少なき事業よりも利子の多き事業に投資することは自然である。我國に於て資本が農業よりも寧ろ工業に向つて投ぜられるのは前者の利益が後者の其よりも少ないからである。日本銀行の調査した所に據れば農業の利益は多くの場合に於て一割以上に達しない。これに反して都會に於ける工業は時に二割若くは三割といふ利益を配當して居る。これがため我國の資本が多く都會の工業に集まること、なつたのは實に已むを得ないことではあるが、社會全體の利益から見れば甚だ憂ふ

べきことである。我國の農村が非常なる窮境に陥つて居るのは農家の平均耕作面積が僅に一町歩に過ぎないためであるから、農村生活を豊富ならしむるには耕作面積を増加するより外はない。而して耕作面積を増加する方法は一方に農家の數を減ずると同時に一方には新たな土地を開墾することである。幸にして我國には尙開墾すべき土地が少なくないのであるけれども、これには少なからぬ資本を要する。而も普通の方法を以てしては容易に資本を吸収することが出来ないのである。何故に我國の資本は有益なる農業のために投ぜられないのであらうか。前に述べたるが如く資本は利子の多き所に向つて投ぜられるのであるから、今日の儘にこれを放任して置くならば我國の農業は永久に發達を遂げることが出来ないであらうと思はれる。今や我國の資本は絶えず農村から都會に向つて動いて居る。生命保険を初めとしてあらゆる種類の保險に對する掛金は一旦東京に集まることになつて居る。郵便貯金も亦同様である。而してこれ等の資金が多く都會の工業に投ぜられるのであるから、再び農村に還るのは甚だ稀である。若しこれ等の資本が多く工業に投ぜられるとしても、それが必需品を製造する工業であるならば國民全體に及ぼす利益は少くないけれども、資本の一部が必需品よりも寧ろ奢侈品の製造に用ゐられて居ることを思へば私共は多數國民のために悲まざるを得ないのである。私共は勿論必需品を第一とし、娯樂品を第二とし、奢侈品はこれを最後に生産することを以て至當の順序と考へて居る。農産物の如き必需品を後にして奢侈品を生産するが如きは實に其順序を顛倒

したものと言はねばならぬ。我國民は比較的多くの費用を食料品のために拂うて居る。若し農業及び牧畜業のために多く資本を投ずることが出来るならば私共は低廉なる價を以て穀物及び肉類を買ふことが出来るに相違ない。然るに我國の資本がこれ等の方面ではなく、寧ろ娯樂品及び奢侈品の製造に費されて居るのを見れば、資本の分配が如何に不公平に行はれて居るかを見る事が出来る。要するに資本は労働力と同じく軍隊的組織の下に管理せらるべきものである。若し利子を標準とせず、必要不必要を標準として資本を投ずることにしたならば、私共は今日よりもはるかに低廉なる價を以て必需品を得ることが出来る。歐米の文明國に於て必需品の價は低廉であつて、奢侈品の價は比較的に高い。しかるに我國に於ては必需品の價が比較的高く、奢侈品の價は比較的に安い。これは資本の分配が其の當を得て居ない證據ではないかと思ふ。

資本は利子の多き處に向ふといふことは前に述べたる通りであるから、若し海外に有利なる事業があれば、資本は其方面に於て遠慮なく投ぜられることとなる。我國の如きは決して資本の豊富なる處ではない。國內には多くの資本を要する所の事業が少なくないに拘らず、既に外國の事業に投資せられて居る資本が多額に上つて居る。若し資本のために多くの事業が起り、従つて多くの労働者を要求するものとすれば、國內に在る労働者のために多くの事業を興へんとするには出来得るだけ我國の資本を國內の事業に投ずることが必要である。勿論資本の一部

海外投資

を海外の事業に投ずることが出来る程に一國の資本が豊富であることは望まじきことであるけれども、國內に於ける事業を捨て、海外の事業のために投資することは順序を誤つた政策であると言はねばならぬ。然しこれは資本の國有といふことが實行せられたる後に言ふべきことであつて、今日の社會に對してこれを要求することは無理である。個人が資本を所有し、各自己の利益を謀ることを主とする現在の經濟組織に於ては何人も自ら進んで故意に不利益なる事業を企てる筈がない。外國の事業に投資する場合は多くの利益を得ることが出来るにも拘らず、却つてこれを國內に於ける不利益なる事業に投資する人があつたならば社會は果して彼を何と評するであらうか。若し彼が國內に於ける労働者のために職業を興へるといふ博愛心からこれを實行したとするならば、彼は確に愛國者であるに相違ないけれども、斯の如きことを多くの實業家に注文するといふことは極めて困難である。若し國家が自ら國內に於ける資本を全部所有して居るとするならば、國家はこれを全く國內の事業に投資することが出来る。而して斯くなすことは確に國家の義務である。資本の一部を海外に輸入することは國內に於ける事業の數を幾分か減ずることになるから、これがため労働者の一部が其職業を失ふこととなるのは當然の結果である。我國が人口超過のため其一部を海外に移住せしめねばならぬことを感じて居るのは全く國內に於ける事業が労働者の全部を使役することが出来ないからである。我國は今や植民問題といふ困難なる問題を解決せねばならぬ難關に立つて居る。然し我國が斯の如く植民

問題のために苦んで居るに拘らず、一方に於ては絶えず我國の資本が海外に於ける事業のために投ぜられて居るといふのは實に大なる矛盾ではないかと思ふ。何人も知れるが如く我國民は早晩食糧問題を解決せねばならぬ。吾に穀物のみならず、私共は牧畜業を盛にして肉類を増加する必要がある。其他園藝の如き漁業の如き方面に於ても大に努力すべき餘地がある。然るに我國の資本はこれ等必要な事業に投ぜられずして、寧ろ外國の方面に流出するといふ奇現象を呈して居る。斯の如きことは全く資本私有制度の結果に外ならないのであるから、私共は速に資本の國有を實行し、而して公平なる資本の分配を實現する必要がある。

科學の發達により年々歳々精巧なる機械が發明されるやうになつたのであるから、若しこれを充分に利用することが出来るならば人類の富は今日既に驚くべき程度に迄増加して居るに相違はない。希臘人は文化生活をなすために多くの奴隷を使役したのであるが、私共は今日奴隷に數倍若くは數十倍する所の效力を有して居る機械を使役することが出来るのであるから、私共は古代の希臘に數倍若くは數十倍する所の文化生活をなすことが出来るのである。然も現今に於ける人類の多數は貧乏の状態にあり、私共の文化はこれを希臘のそれに比して必しも優つて居ると思はれない。これは果して何のためであらうか。私は其原因が主として私共の機械を利用することの極めて少ないといふことにあることを信ずる。私共は科學に於て大なる發達を爲して居るに拘らず、機械を利用することは比較的に少ない。私共は遠慮なく機械を採用す

機械の採用

ることが出来る位地に立つて居るに拘らず實際これを充分に利用して居ないのは何のためであらうか。第一は今日の勞働賃銀が尙比較的低廉であるといふことに原因して居る。若し勞働賃銀が高ければ、よし高價なる機械を買入れても結局これによりて利益を得ることが出来る。第二の原因は今日の生産が尙多く小規模に於て行はれて居るといふことである。生産事業の組織が小規模であれば充分に分勞を行ふことが出来ないから、従つて機械を採用することも出来ない。而して事業が小規模に行はれるといふことは事業の多くが個人によりて經營せられて居るからである。例せば小農制度に於ては多く勞働力及び牛馬の力を用ゐるのであるが、大農組織に於ては精巧なる農業機械を用ゐることが出来る。其結果個人が耕作地を小分してこれを所有して居る限り、農業に近代的機械を利用することは全く不可能のことであると言はねばならぬ。故に今日の如く總ての産業が個人の自由競争によりて行はれて居る間は到底精巧なる機械を充分に利用することは望むことの出来ぬことである。

たとひ勞働力と資本が公平に分配せられ、機械の採用が廣く行はれるにしても、生産は決して私共の想像するが如く充分に發達することの出来ぬといふ事情がある。換言すれば生産は或程度迄發達した後必ず停止するのである。若し機械を充分に利用し、且つ勞働と資本とを充分に注入したならば生産は殆ど無限に發達するであらうと考へられるけれども、今日の經濟組織の下に於ては生産は常に或事情のために制限せられるのである。私共は物價が主として需要供

生産の制限

給の關係によりて定まるものであることを知つて居る。即ち需要が供給に比して比較的大であれば物價は騰貴する。これに反して供給が需要よりも大なる時は物價は必ず下落する。故に物價が下落すれば生産者は利害の打算から必ず生産高を減することになる。これが即ち生産の制限である。若し需要者の要求若くは幸福といふことを考へたならば今一層其生産物の量を増加することは適當な處置であるかも知れぬ。然し生産者は單に自己の利益のみを考へ、需要者の幸福などは眼中に置かないのであるから、物價の下落と同時に其生産高を制限することになる。供給が需要よりも比較的多いといふことは決して需要者が眞に要求する以上に貨物が生産されたといふことを意味するのではない。需要者は其購買する貨物に對して一々代價を拂ふのであるから、彼が有する購買力以上に貨物を需要することは出来ない。故に彼の需要に制限があるといふのは即ち彼の購買力に制限があることを意味するのであつて、彼の要求に制限があるのではない。若し彼が無代價にて若くは今一層低廉なる價で其貨物を買ふことが出来たならば彼は彼が買つたよりも多くの貨物を要求したかも知れない。故に彼の購買が停止されたのを以て彼の需要が無くなつたと考へるのは誤である。従つて生産者が其生産額に制限を加ふることは人類の幸福といふ立場から見ても甚だ悲むべき事であると言はねばならぬ。これを要するに物價下落のために生産高に制限を加へるといふことは現在の經濟組織に大なる缺陷のあることを證明するものと言ふべきである。現在に於ける生産は賣らんがために行ふのであるから、若

し物價下落のため相當の利益を得ることが出来ないやうになれば生産者は其生産を制限して物價の騰貴を來すやうに努力しなければならぬ。若し家庭經濟に於けるが如く全く交換を目的とせず、單に家族の生活のために生産するといふことであれば、生産高の増加は如何なる場合に於ても歓迎されるに相違はない。何となれば一家族は生産高の増加によりて多くの満足を得ることが出来るからである。斯の如く考へ來れば供給超過のために生産高を制限せねばならぬといふ現在の經濟組織は決して永久に存続すべき制度ではない。私は現社會に於て如何に多くの矛盾が行はれて居るか二三の實例を以てこれを例證したいと思ふ。嘗てシカゴ市の果物商はバナ、の供給が需要以上に増加する結果其價の下落せんことを虞れた、め將に市内に入り來んとする貨車數輛に積んだバナ、を悉く河中に投じたといふことである。社會主義者として有名なるフリーエーが飢饉の際マルヒユの港に輸入し來つた所の穀物を單に穀價の下落を防ぐといふ目的を以て穀物商が海中に投棄するを見て終に社會主義を信するようになったといふ事は私が既に述べた所の歴史的事實である。斯の如く生産物の破壊を企てるといふことは實に恐るべき罪惡であるに相違ないが、今日の如く物價下落のために生産高を減するやうになり、其手段として勞働時間を短縮し、甚しきに至りては全く其生産を休止する如きは生産物の破壊と同一である。否其弊害に至りては一層甚しきものがあるやうに思はれる。

需要と供給とは常に符節を合するが如く一致すべき筈であるのに實際に於ては兩者の間に往

往不調和を見るのである。時には需要が供給以上に増加することがあり、時には供給が需要以上に増加することがある。後者の場合を稱して生産超過といふのである。生産超過は如何にして起るのであるか。私は左に其概略を説明する。現在の經濟組織に何等統一がないことは雇私に述べた通りであるが、これは何れの方面に於ても容易に見ることが出来る。何れの社會に於ても同一種類の貨物を生産する所の工業家が澤山ある。彼等は自ら生産する所の貨物に對してどれだけの需要があるか、或は同業者がどれだけの貨物を生産するかを精密に計算することは出来ない。故に彼等が同業者と競争して同一貨物を生産するに當りては彼等の行爲は或程度迄盲目的であり投機的である。彼等の多數は先を争うて生産し且つこれを賣却せんとするのであるから、其結果生産高は需要以上に達すること、なる。これがため生産物の價は忽ち下落すること、なるから、生産者は其價を釣上げるために生産高を減することになる。即ち労働時間を半減するとか、或は全く工場を閉塞するのである。斯の如くして多數の労働者は其職業を失ふことになるから、彼等は貨物を購ふ所の資力さへも失ふやうになる。其結果貨物の賣行は益減せられ、此處に不景氣なるものが生じ來るのである。人々は斯の如き現象を生産超過と稱するのであるけれども、これは決して人々の要求以上に生産物が豊富であるといふ意味ではない。労働階級は平時よりも一層これ等の貨物を要求して居るけれども、不幸にして彼等には購買力がない。故に嚴密に言へば以上述べたるが如き現象は生産超過にあらずして消費力の不足とい

ふのが適當であるかも知れぬ。兎に角これ等の事實は現在の經濟組織の特徴であつて、社會主義の主張するが如き家庭經濟制度に於てはこれを見ることが出来ない。社會主義の理想とする社會は軍隊的に組織されるのであるから、人民の需要は一々調査してこれを數字的に表すことが出来る。これ等の數字を根據として生産を行へば供給と需要との間には完全なる調和を見る事が出来る。勿論時には需要にも供給にも多少の變動が起るに相違ない。若し或種の製造業に於て絶えず需要に應ずるだけの供給をなすことが出来ないならば、社會の要路に立つ所の人は必ず此の事業に對して労働者の數を増加するに相違はない。若し又生産高が年々需要以上に増加するやうになれば、其事業に従事する労働者の一部を他に移轉せしむることが出来る。而もこれ等の労働者は決して現在の社會に於けるが如き失業者となるのではない。産業界の責任者は直ちに彼等を他の事業に移轉せしむるに相違ない。若し移轉すべき事業がなければ、彼等のために新なる事業を起し、國民のために新なる貨物を供給することになる。斯の如くすれば永久的に需要と供給の間に調和を見出すことが出来る。以上述べたる所は人力を主とする所の製造業に就てあるが、農産物の如き自然的生産物に就て見るも同一である。現今の社會に於ては農業者は必ずしも豊年を喜ばない。何となれば豊作は穀價の下落を來すからである。然し社會主義の行はれる社會に於ては斯の如き不自然なる事實を見ることは出来ない。豊作のため穀物の供給が遙に國民の需要以上に達するとしても國家は其剩餘を貯蓄して凶年のために備へ

るのであるから、何人も豊年を喜ばぬ者はないといふことになる。

第三節 浪費

奢侈品製

生産力の濫用といふことは現社會の特徴である。而して濫用の最も甚しきものは奢侈品の製造であると信ずる。私共は必しも絶對的に奢侈品を排斥せんとするのではない。何となれば奢侈品は或點に於て私共の藝術に大なる刺戟を與へるからである。然し物には順序があるから、私共が生活のために種々なる貨物を製造するにも一定の順序に従ふことが必要である。即ち第一に必需品を製造し、第二には私共の娛樂に供すべき貨物を製造すべきである。若しこれ等の貨物を生産したならば更に進んで或程度まで藝術品を生産するといふことは差支なきことである。今日の貴族富豪が誇りつゝ、ある所の奢侈生活は如何なる點から見ても決して是認すべきものでない。彼等の奢侈生活が如何なる點まで藝術生活であるかは必しも此處に論ずる必要はない。然し國民の多數が必要品や娛樂品すらも充分に得る事の出来ない時に於て社會の一小部分を占める所の貴族富豪が奢侈生活を送るといふことは何れの方面から見ても喜ぶべきことでない。貴族富豪自身に就て言ふも奢侈生活は彼等のために何等の利益を與へないのみならず、却つて彼等及び彼等の子孫を害することが多いやうに思はれる。私共は奢侈生活に對して飽までも反對するけれども現在の社會に於て全く奢侈生活を禁ずるといふことは不可能であると信ず

る。我國の封建時代に於てすら君主は屢法律を以て人民の奢侈生活を禁じたけれども、到底其效を奏することが出来なかつた。今日に於ても我國の政治家は時々國民に對して警告を與へるけれども殆ど何等の效がない。現在の如く自由競争が盛に行はれる場合に於ては奢侈も亦最も有效なる競争の手段として利用せられるのである。此意味に於て奢侈は一種の廣告と見ることが出来る。美服を纏ひ或は門戸を立派にすることは其人が職業上に成功して居ることを表現する所のものであるから、人々が争うて奢侈に流れるのは決して無理なことではない。若し物質的競争が今日に於ける最も顯著なる事實であるとすれば、人々が金錢の多少を以て優劣を判定する標準となすのは當然のことである。而して金錢の多少を知るには其人の生活状態を見ることが最も容易なる方法である。故に奢侈生活が自由競争の結果であることは何人も認めねばならぬ所の事實である。斯の如く論じれば現社會から奢侈生活を除去するといふことは絶對的に不可能であると言はねばならぬ。何となれば奢侈生活は藝術競争にあらずして金錢競争であるからである。言ふ迄もなく奢侈品の製造は大なる浪費であるから出来得るだけこれを防止することが必要である。然らば如何にして最も有效にこれを防止することが出来るかと言ふに、私は只一つの方法があることを信ずる。若し各人の収入を平等にすることが出来るならば、奢侈生活は完全に除去されるに相違はない。何となれば各人の収入が平等である場合に於て金錢競争の行はるべき筈がないからである。萬一衣服のために不相應なる金額を投ずる人があつても